



Title	附属図書館の現状と課題：自己点検・評価報告書
Author(s)	北海道大学附属図書館
Citation	1-69
Issue Date	2003-03
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/53141">http://hdl.handle.net/2115/53141</a>
Rights(URL)	<a href="http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/">http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/</a>
Type	report
File Information	jikotenken_2003.pdf



[Instructions for use](#)

# 附属図書館の現状と課題

— 自己点検・評価報告書 —

平成15年3月

北海道大学附属図書館

# 目次

はじめに

## I 本編

1 北海道大学附属図書館の理念・目的 .....	1
1) 理念・目的 .....	1
2) 声明 .....	1
3) 目標 .....	2
2 利用者サービス .....	3
1) 開館時間 .....	3
2) 資料の貸出 .....	3
3) 資料の配送 .....	3
4) レファレンス・サービス .....	4
5) 相互利用 .....	4
6) 学習・教育支援 .....	4
7) 研究支援 .....	5
8) 地域貢献 .....	5
9) 国際貢献 .....	6
3 情報資源の収集・組織化 .....	7
1) 蔵書構築 .....	7
2) 学術研究コンテンツの整備 .....	10
3) 目録データ・メタデータの整備 .....	13
4 情報資源の管理・運用 .....	15
1) 資料の配架 .....	15
2) 資料の保存・保全 .....	15
5 電子図書館的機能 .....	16
1) 資料の電子化 .....	16
2) 蔵書検索 .....	18
3) 学術情報ポータル機能 .....	18
6 施設・設備 .....	20
1) 増築・改修 .....	20
2) 利用環境・設備の改善 .....	21

7	研究開発機能	23
1)	現状	23
2)	課題	23
8	管理運営	24
1)	図書館委員会	24
2)	組織	24
3)	部局図書室・専攻図書室	26
4)	図書業務の統合	29
5)	事務改善	30
6)	学内情報施設との連携	31
7)	学外機関との連携	31
8)	点検評価	32
9	予算	34
1)	図書館維持費	34
10	広報	35
1)	刊行物	35
2)	ホームページ	35
3)	展示	35
11	北海道大学附属図書館システム	36
1)	附属図書館組織計画	36
2)	施設計画	36
<b>II 資料編</b>		
A	附属図書館の中期目標・中期計画・年度計画	37
B	大学図書館評価指標データ集	39
C	平成14年度大学図書館実態調査	49
D	部局図書室等調査集計結果	57

おわりに

- 附1 自己点検評価小委員会設置要項
- 附2 自己点検評価小委員会委員名簿
- 附3 自己点検評価小委員会検討経過

## はじめに

北海道大学附属図書館は340万冊に及ぶ蔵書を有し、本館・北分館・部局図書室等が一体となって大学の全構成員に図書館サービスを提供し、本学における「知の館」として、教育・研究活動の中心的役割を果たしてきた。

平成6年1月北海道大学附属図書館将来像検討委員会から「北海道大学附属図書館将来像検討委員会最終報告」が出され、図書館が将来持つべき機能全般にわたり全学の図書職員により検討がおこなわれた。平成10年3月北海道大学附属図書館新営検討小委員会から「附属図書館新営構想に関する報告書」が出された。この報告書では、21世紀をひらく大学図書館の機能について検討がおこなわれた。さらに、平成11年3月には北海道大学附属図書館委員会資料整備検討小委員会から「図書館資料整備の在り方について」が報告された。ここでは北海道大学附属図書館のさらなる発展をめざして、資料整備の体制、方策、本館、分館、部局図書室等の機能分担等が示された。これらをふまえて図書館業務、組織機構、施設等について改善を図ってきた。

その後、平成14年に入り、図書館委員会の下に「附属図書館本館増築・改修検討小委員会」、「自己点検評価小委員会」、「学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会」、の3小委員会が設置され活発な検討が開始された。このうち、学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会は、附属図書館が学術情報基盤のひとつとして、学術情報の収集、提供、発信により本学における教育研究活動支援を一層強化するための検討を重ね、平成14年3月「北海道大学における学術研究コンテンツの整備方策にいて」が提言された。これにより、電子ジャーナル及び学術文献データベース等が、全学支援方式により財源が確保され、学術情報基盤の整備が飛躍的に進んだ。

自己点検評価小委員会から提出された本報告書は、今後の国立大学法人化を視野に入れるとともに、最近の急激な環境の変化を踏まえて、附属図書館の現状と課題について取りまとめたものである。また、本報告書は今後実施予定の外部評価の基礎資料としても位置づけられている。

北海道大学附属図書館長  
井上芳郎

# I 本 編

# I 本編

## 1 北海道大学附属図書館の理念・目的

### 1) 理念・目的

国立大学の法人化に伴い、各国立大学が固有の理念・目的を掲げ、これを達成するべく教育研究活動を推進することが求められる。この達成度は、大学の評価に直結することとされている。

附属図書館においても、本学の理念・目的の達成を支援すべく理念・目的を掲げるべきである。その際、これまでの種々の答申等、とくに『科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について～「知的存在感のある国」を目指して』（学術審議会答申 1999年6月）、『21世紀の大学像と今後の改革方策について』（大学審議会答申 1998年10月）、『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』（科学技術・大学審議会 研究計画・評価分科会 情報科学技術委員会 デジタル研究情報基盤ワーキンググループ 2002年3月）等で指摘された図書館の役割が反映されていることが肝要である。すなわち、

- ① 図書館は学術情報基盤と位置付けられること
- ② 図書館が大学における学術情報ポータルとして中心的な役割を担うこと
- ③ 電子ジャーナルの整備にみられるように、従来の印刷体だけでなく、ネットワーク上の学術情報資源の収集、提供による研究支援が求められていること
- ④ 資料のデジタル化にみられるように、図書館が学術・研究情報を生産していること
- ⑤ 学習環境の整備、情報リテラシー教育支援など、学習・教育支援の強化が求められていること
- ⑥ 図書館が蓄積、提供する学術情報資料は、人類の知的資産として、地域貢献や国際貢献への活用が求められていること

これらの点を包含した目的を以下に定め、具体的な目的・目標策定の根拠とする。

### 2) 声 明

- ・北海道大学附属図書館は、本学における教育・研究目標の達成を支援するため、本学の学生・教職員が必要とする多様な情報資源を収集、作成、組織化し、あるいは学外の情報資源へのアクセスを可能とし、適時に利用できる環境を整備する。また、これらの情報資源に基づき、情報リテラシー教育支援を含む広範なサービスを提供する。
- ・学内における学術情報の流通及び学外への情報発信を充実・強化するため、学内情報関連施設との連携・協力を図る。
- ・学術コミュニケーション環境を改善するため、国内外の関連機関と連携・協力する。
- ・道内における唯一の総合大学附属図書館として、他図書館に対する支援を行う。さらに、大学の地域貢献の一環として、地域の文化の振興に寄与し、地域住民の生涯学習を支援するとともに、広く国内外の学術研究の発展に貢献する。

## MISSION STATEMENT

- ▶ Hokkaido University Library develops, creates, organizes, and preserves collections for optimal use and provides links to remote information sources which the University Community needs, in order to support educational and research activities of the University.
- ▶ The Library provides wide range of services, including instruction for information literacy and information management, to enable users to fulfill their academic needs.
- ▶ The Library acts vital role in providing scholarly information created by researchers of the University.
- ▶ The Library cooperates with national and international organizations in order to improve scholarly communication environments.
- ▶ As the largest research library in Hokkaido District, the Library provides resources and services to non-Hokkaido University users to the extent possible in order to contribute to development of academic research in local, national and international communities.

### 3) 目 標

今後は、上記の声明に基づき、中期的な目標を立て、その目標を実施するための計画（中期計画）を策定することが必要となる。

附属図書館では従来から毎年事業計画を策定し、活動の目標としてきた。この中には、年次計画に基づく事業や当該年度だけの事業が含まれているが、中期目標、中期計画、年度計画というように、設定方法が明確になったことから、体系的な目標設定が可能になる。

平成 16 年度から 6 年間の附属図書館の中期目標・中期計画・年度計画を参考資料として添付する。



## 2 利用者サービス

### 1) 開館時間

#### ① 現 状

附属図書館の開館時間は下表のとおりである。

	昭和56年～	平成9年～	土日・休日
本館	9:00-20:00	9:00-22:00	9:30-17:00
北分館	同上	同上	同上

平成13年度から試行的に休日開館を実施し、平成14年度は年末・年始及びセンター入試日のほかは開館し、年間350日前後を開館日とするなど、時代とともに学内利用者の要請に応じてきた。これは国立大学ではトップクラスの開館時間である。この結果、平成13年度の時間外開館の総時間数は、全国平均の940時間（平成12年度）を上回る1,110時間である。また、土日・休日を含む時間外の利用者数（本館・北分館）は270千人と全利用者数854千人の内およそ1/3が時間外開館の利用者である。

#### ② 課 題

- ・開架閲覧室の拡充、参考閲覧室並びに北方資料室の閲覧時間拡大、サービス窓口の一元化、書庫利用の拡大等閲覧環境のさらなる整備・拡充を図る必要がある。

### 2) 資料の貸出

(単位：冊)

区 分	平成11年度	平成12年度	平成13年度
本館	116,524	115,152	119,534
北分館	60,225	79,214	90,856
計	176,749	194,366	210,390

貸出冊数はここ数年着実に伸びてきており、平成13年度実績（本館・北分館・部局図書室等）で249,449冊、学生1人当たり約14.9冊、国立大学全国平均は9.46冊（平成12年度）である。

さらに、学部学生の満足度を高めるためには、授業との連携など、ニーズに即した図書の質的充実がカギと考えられる。また、目録所在情報の整備に伴ない、研究室貸出図書への利用希望にも適切な対応を図る必要がある。

### 3) 資料の配送

本館・北分館のほかに26頁に示すように19の部局図書室が配置されているが、利用者は個々の図書館・室で直接貸出を受け、また返却をすることになっており、最寄りの図書館・室を窓口とする貸出・返却のシステムは未整備である。

全学の図書サービスポイントを巡回する配本システム（ドキュメント・デリバリ）を導入し、図書・文献を最寄りのサービスポイントで利用できる仕組みが整備されると、図書・文献の有効利用が促進されるものと期待できる。

#### 4) レファレンス・サービス

情報源へのアクセスと提供を使命とする図書館では、レファレンスは主要な利用者サービスに位置付けられるものである。

##### ① 相談実績

本館・北分館の場合は北方資料室を除けば、文献所蔵調査が半数を占めており、平成13年度の受付件数は4,485件と部局図書室全体の相談実績25,012件と比して学部学生の利用が比較的低調である。このことは図書館側のPR不足とあわせ特に本館の窓口が4階に離れていることに起因すると考えられる。本館の改修時の窓口統合で解決したい。

##### ② 電子レファレンス

ネットワークの整備に伴ない館外からe-mailやWebによる照会・相談件数は増加しており(平成12年度64件、14年度は160件で約2.5倍)、電子図書館機能整備の一環として電子的コミュニケーション手段を活用した電子レファレンスに取り組み、学内外利用者の相談に応えていくためには、これを支える部局を越えた協力スタッフの組織化が必要となる。

##### ③ 電子情報利用支援

学内LANを介して利用可能な電子情報の利用を促進するため、別掲の情報リテラシー教育支援「情報探索入門」のほか、本館では恒常的な情報活用プログラムを開設している。

平成13年度はガイダンスが5日間、ライブラリーセミナーが10日間開催され延べ127名の参加があった。端末の利用可能な座席数の制約から1回あたりの参加者が10数名に限られるため、端末台数を早急に増やす必要がある。

#### 5) 相互利用

相互利用は本館・北分館のほか部局図書室等においてサービスしているが、本館の場合、平成13年度、学外からの複写受付が7,136件に対し、本学からの依頼は2,798件と受付超過の状況であり、総合大学の特徴を顕著に示している。現物貸借の場合も同様で、貸出は2,583冊と全国8位である。しかし、図書館資料の分散が負荷となっており、現有スタッフでは受付件数の増加に対応できず、やむなく謝絶する場合も生じている。業務分担の見直しとスタッフの強化が課題である。北キャンパス新館に雑誌バックナンバーセンターが設置された場合には文献供給サービス機能を持ち、学内を始め対外的にもDDSの中核機能を果たすことになる。

#### 6) 学習・教育支援

##### ① 図書館利用ガイダンス・情報リテラシー教育

大学での自学・自習を支える図書館利用法の習得を目的に、新入生を対象とした「図書館オリエンテーション」のほかに、平成13年度から、一般教育科目授業の演習に図書館職員が協力し「情報探索入門」として図書館OPAC検索を中心とした情報探索法の指導を実施している。受講者は前・後期合わせ800名以上であるが、初年次学生数の約1/3にすぎない。より多くの学生が、できる限り早期に受講できるよう、担当教員との連携も含め、さらに工夫の必要がある。また、教官からの依頼によりゼミ単位での文献収集・検索法を実施しており、13年度は12回、126名の受講者があった。今後ますます、授業と連携した教育支援が求められる。

## ② 書庫内利用の拡大

これまで書庫内利用は大学院学生、教職員に限定されているが、特別の利用希望が有る場合は指導教官からの申請書により学部学生にも特例として利用を許可している。しかし、一般学部学生からも書庫内利用の強い要望がある。本館書庫の構造、資料配置等、学部学生に書庫利用を拡大するまでに条件整備が必要となるが、少なくとも4年次以上の学生で入庫を希望する場合には、書庫内の資料配置、避難経路の確認など書庫利用のオリエンテーションを実施するなどした上で、早期に入庫を実現する必要がある。また、大学院学生、教職員の入庫時間の拡大についても土・日、平日19時以降の利用時間延長と貸出が実現できるよう検討を進めたい。

## 7) 研究支援

### ① 文献提供

研究支援機能の中心は、研究者が求める世界水準の文献を迅速に提供することである。平成4年度からLANを介してMedline、BIOSISデータベースを提供してきたが、平成13年度にはWeb of Scienceが導入され科学文献の検索と論文評価の手段が格段に向上した。すでに、学術情報システムによるILL（図書館間相互貸借）サービスは全学的に定着しており、学外からの文献取り寄せは全学で16,605件（平成13年度）であり、本館・北分館に限ってみても2,915件と対前年度16%増、うち海外からの取り寄せが816件で全体の28%となっている。電子ジャーナルへのシフトが始まっているが、本館・北分館は比較的文科系利用者が多いため、13年度は、文献複写依頼件数に大きな影響は見られない。

### ② 電子ジャーナル・文献データベース利用講習会

平成14年10月現在、6.5千誌の電子ジャーナルにアクセス可能である。大手出版社のパッケージ並びに電子ジャーナル提供業者が提供する電子ジャーナルの文献検索機能を有効に活用するために研究者向けの利用講習会を実施し、116名が受講しているが、検索システムの機能更新もあることから、随時出前講習会も含め幅広く実施する必要がある。

### ③ 24時間利用

図書館を何時でも利用できるよう医学部図書館等が既に導入している24時間入室管理システムを本館にも導入し、法科大学院等の設置を視野に置いた大学院学生・研究者の利用拡大を検討する時期にある。

## 8) 地域貢献

### ① 市民等への公開

従来から、道内における学術情報提供の拠点として、学内者の利用に支障のない範囲で一般市民等に対して公共図書館では提供できない図書館資料を閲覧サービスなどで提供してきた。これに加え、平成14年11月から一般市民に館外貸出も実施することとした。また、調査・研究目的の学外利用者への貸出冊数は5,573冊（13年度）で、全国平均の1,344冊（12年度）の4.1倍もあり、学外者にも広く利用公開している。

平成13年度には大学創基125周年記念行事として北方資料室の古地図展示、講演会を開催したところ、一般市民から好評をえた。また、電子画像化された古地図等を広く公開するなど、大学の情報発信の一翼を担っている。

## 9) 国際貢献

### ① 留学生支援

平成14年度の本学留学生は703人、「利用案内」を日本語、英語、朝鮮語、中国語の各国語版で作成し最小限のガイドを準備したほか、本館・北分館にCNN視聴コーナーを開設、国際交流科目関連図書の整備をすすめている。また、館内の案内表示等にもさらに工夫が必要である。

### ② 相互利用

国際相互利用の13年度受付実績は文献複写が26件、現物貸借が4件と未だ少ないが、平成14年4月から米国OCLC (Online Computer Library Center) 加盟米国大学図書館間の相互利用料金徴収手続きが定められたことを受け、海外の大学図書館間の相互貸借が活発になることが見込まれる。国立大学図書館協議会のGIF (Global ILL Framework) プロジェクト館として参加しており、今後とも積極的に取り組んでいきたい。

### 3 情報資源の収集・組織化

#### 1) 蔵書構築

蔵書構築とは、大学の教育研究に必要な図書館資料を体系的に整備することをいう。

本学は、北方関係資料やスラブ関係資料及びその他の特殊コレクション等本学ならではの貴重なコレクションを所蔵しており、その充実に努めている。しかし、大部分の資料は、必要とする学部・研究科等において整備が進められてきており、その意味で、本学においては、大学全体としての蔵書構築が行われているとは言いがたい。大学全体の図書資料費のうち、附属図書館が執行する資料費は1割以下である。残りの9割以上は、学部・研究科、あるいは個々の教員の研究費により、必要な資料が購入されている。

しかし、学術雑誌、とくに外国雑誌については、近年の電子ジャーナル化の急速な拡大に対応するため、平成13年度に全学的な整備方策が策定され、平成15年度から電子ジャーナル及び学術文献データベース等が全学支援方式で整備されることとなった。全国的に見ても、はじめての画期的な取り組みであり、本学における学術情報基盤が飛躍的に整備される第一歩となると考えられる。このような考え方がその他の資料の整備にも反映されることが望まれる。

#### ① 図書館資料購入費

##### a. 現状

[学生用図書資料]

附属図書館の図書館資料費は、文部科学省からの配分額及び「図書及び新聞雑誌類」として措置される共通経費が中心となる。他に「学内共同利用電子的資料登録料」及び「学内共同利用自然科学系資料費部局分担分」（平成13年度まで）があるが、これらは使途限定の経費である。その他、文部科学省からは「大型コレクション経費」、学内では、「部局協力分」として、年度毎に一定ではないが、配分される経費がある。

平成12年度からは、共通経費として、「学生用図書購入費」が新たに措置されることになった。授業に直接関連する資料を中心に学生の学習資料を整備するための経費であり、シラバス掲載教科書・参考書をすべてそろえる等の対応が可能となった。

しかし、総額約7千万円の経費で図書、新聞・雑誌、視聴覚資料、電子的情報資料等すべての形態の資料を整備しなければならず、その結果、学生用図書の受入冊数は、年間約7.5千冊程度にとどまっている。学生一人当たりになると0.42冊となり、同規模大学と比較して少ない（東北大0.52冊、阪大0.50冊）。

一方、文部科学省からの配分額は、減少の一途である。これまで、国立大学図書館協議会から文部科学大臣への要望書には、必ず「学生用図書費の増額」の要望が出されていたが、平成14年度からは、取り下げられている。これは、文部科学省において、学生用図書については各大学が自助努力によって整備するものであるとの考えを示しているためであり、学内において学生用図書を整備するための経費の拡大が望まれる。

なお、図書館資料費ではないが、「図書館機能高度化経費」のひとつとして、「電子ジャーナル導入経費」が平成14年度から措置されることとなった。この措置は、電子ジャーナルの導入が欧米に比べて著しく遅れているわが国の現況からみて、適切な施策であるが、一方、図書館資料費のうち、とくに学生用図書費がほぼ見合う額減額となっており、電子ジャーナル導入経費を含めても、文部科学省配当の図書館資料費は前年度を下回る状況となった。

表1 附属図書館図書資料費の推移

(単位：千円)

	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
学内共通経費	36,792	36,792	36,636	36,327	36,358
文部科学省配当分	21,521	17,955	16,148	16,376	17,165
学内学生用図書購入費				18,148	18,232
小計	58,313	54,747	52,784	70,851	71,755
学内共同利用電子的資料登録料	10,700	13,760	13,626	13,078	12,480
製本費(図書館経費から)	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
学内共同利用自然科学系資料費部局分担分	11,541	13,610	11,782	11,939	12,220
部局協力・分担分	1,357	2,269	1,624	4,361	5,098
大型コレクション購入費	13,052	—	18,700	—	8,517
マルチメディア環境整備費		—	—	—	2,602
合計	98,763	88,186	102,316	104,029	116,472

## [研究用図書資料]

研究費による図書館資料購入費は、平成13年度は約12億円である。これは大学総経費約810億円の1.48%であり、同規模大学平均を上まわっている。しかし、大学として必要な共通的研究資料を整備する仕組みが脆弱である。現状では、本館図書館資料費の中の「学内共同利用逐次刊行物叢書類」約700万円程度が計上されているに過ぎない。このほか文部科学省から措置される「特別図書費」や「大型コレクション経費」があるが、前者については、今後縮小される傾向にあり、後者については、毎年措置されるわけではない。

## [電子的資料]

急速に拡大する電子的資料を導入するための経費は、不安定で未整備の状況が続いてきた。本学では、平成13年度に学術研究コンテンツとして、電子ジャーナルと学術文献データベースを整備するための方策について検討が行われ、電子ジャーナルを可能な限り、安定的に導入する枠組みが設けられた。

平成15年度から導入するこの枠組みでは、電子ジャーナル購入経費は共通経費化されることになっている。共通経費化の方法は、当該年度の電子ジャーナル導入に必要な経費の総額に部局負担率を掛けて部局負担額を算出し、それを部局への配分予算額から差し引いて、電子ジャーナル購入経費として本館に措置するもので、いわば従来の各部局における外国雑誌購入経費を振り替えるかたちで共通経費化したものである。ただし、部局負担率を算出する方法については、3年後に見直すことになっている。

また、電子ジャーナルの全タイトルアクセスを導入するために必要な経費、約3,000万円については、中央財源から措置されることになっている。

一方、学術文献データベースについては、平成14年度に整備方策が検討され、やはりこれも学術情報基盤として全学的観点により整備すべきであると再度確認されている。整備に必要な経費については、当面中央財源により措置し、電子ジャーナル購入財源の見直しとあわせて見直す案を提案している。

## b. 課題

- ・大学全体として、資料整備の方針が明確でない。平成10年度図書館委員会の下に「資料整備検討小委員会」が設置され、図書館資料整備の在り方について報告が出ているが、実行性のあるものになっていない。北海道大学としての学習・教育・研究資料整備の在り方について改めて検討する必要がある。
- ・策定された整備方針に基づき、図書館資料費の在り方も見直されるべきである。
- ・すべての形態の図書館資料を適切に整備していくためには、問題点の把握に努め、改善方策を策定する体制が必要である。現在の「図書選定委員会」がその役割を担うのか、新たな委員会等が必要なのか検討し、速やかに作業を開始する必要がある。
- ・学術研究コンテンツは、学術情報基盤（インフラストラクチャ）であり、学習・教育・研究の基盤である。図書館はこの学術情報基盤整備のために、あらゆる努力を傾注させるべきである。財源については、早い段階で電子ジャーナル、全タイトルアクセス、学術文献データベースの枠組みを一元化し、全体として統一性のある整備を可能とすべきである。

## ② 図書館資料の選定

### a. 現状

本館において購入する図書の選定については、附属図書館図書選定委員会（委員長は、附属図書館長）において方針が決められ、委員会の下に設置された本館及び分館の図書選定小委員会が作業を行っている。しかし、実際には、図書館資料費は主として以下のような区分で支出されており、図書選定小委員会が選定できる範囲は極めて限られたものである。

- ・授業に密着した図書の選書：シラバスに掲載された教科書、参考書についてはすべて購入することとしている。
- ・授業に関連した図書：「教官選定図書」、「教官推薦図書」というかたちで、教官からの推薦に基づく資料を購入する。両者の違いは、「教官選定図書」が時期を決めて選定依頼をしているのに対して、「教官推薦図書」は、常時推薦が可能なことであり、前者を補完する意味を持たせている。
- ・学生の要望：「学生希望図書」として、申し込みを受け、その中から大学図書館に相応しい図書館資料を購入している。
- ・共同利用資料叢書類：人文社会科学、自然科学、本館・北分館にわけて、共同利用される継続出版物の整備に充てられる。

無論これらの方法だけでは、境界分野等大学図書館として整備すべき図書館資料が欠落するおそれがあるため、それを補う意味で本館・北分館において選書を行っているわけであるが、その割合は学生用図書経費全体の9%程度にとどまっている。

### b. 課題

- ・学生用図書の選書体制を整備する必要がある。このために、図書選定小委員会の役割等を見直す。また、選書のガイドラインを策定する。
- ・学生用新刊書、教養図書の整備が必要である。中期計画案として本館、北分館の開架図書をさらに各3万冊整備することを目指す。

### ③ 蔵書構成

#### a. 現状

蔵書構成とは、蔵書の分野別、タイプ別資料のあり方であると同時に、整備方針でもある。

研究用図書については、学部・研究科あるいは各研究者がそれぞれ必要な図書館資料を選定し、購入している。附属図書館においては、学生用図書を中心として、大型コレクション、北方資料等の特殊コレクションを整備している。

また、大学図書館は、印刷形態の資料だけでなく、視聴覚資料、電子的情報資料の充実を図る必要がある。

視聴覚資料については、北分館において集中的に整備が進められている。約4,000点のビデオを中心としたコレクションは国立大学の平均を大きく上回っている。

電子的情報資料については、学術研究コンテンツとして整備することとなる。(次節を参照)

留学生用資料については、従来は日本紹介の洋書やビデオが収集の中心であった。平成13年度からHUSTEPの授業を一般学生も受講できるようになり(国際交流科目)、収集の対象もこれに対応した資料を充実する必要がある。国際交流科目担当の意見により、留学生図書コーナーを国際交流科目コーナーと改めた。

#### b. 課題

- ・図書館資料全般について、どのような分野、タイプの図書館資料を整備するかの方針を策定する必要がある。蔵書構築ツール等の考え方も導入し、本館・北分館において整備する資料の分野、タイプを明示する。
- ・図書館内の選書体制の確立、資料整備について研究者との連携が必要である。

## 2) 学術研究コンテンツの整備

平成13年度図書館委員会の下に設置された「学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会」の検討に基づき、整備方策(「北海道大学における学術研究コンテンツの整備方策について(提言)」、以下「提言」という。)が策定され、平成15年度から実施される。

その基本的な考えは、整備の対象となる電子ジャーナルや学術文献データベースは、学術研究には不可欠な学術情報基盤であり、個々の部局ではなく、大学全体として整備すべきであるとするものである。この観点に立って、はじめて安定的で、合理的な導入が可能となる。

### ① 電子ジャーナル

#### a. 現状

平成14年度は、本学においても電子ジャーナル元年となった。世界的にみて、電子ジャーナルが欠かせないものと考えられるようになったのは、Peer-review誌といわれる学術雑誌の電子版が提供されるようになった1997年を境とする。北米に比べて我が国における利用環境の整備は遅れていたが、一昨年度から急速に整備が進められてきた。

そのきっかけとなったのは、外国雑誌の高騰に対処するための重複調整と国立大学図書館協議会に設けられた電子ジャーナルタスクフォースの活動である。タスクフォースは、足掛け3年間の活動の中で、特に出版社との交渉において、我が国の特殊事情を理解させ、それに基づいた利用条件、価格モデルについて協議を進めてきた。個々の大学が個別に交



涉したとしたら、現在のような状況は作れなかったに違いない。第3点は、科学技術・学術審議会の下に設置されたワーキンググループがまとめた『学術情報の流通基盤の充実について』に基づき、電子ジャーナル導入経費が措置されるようになったことである。

平成15年度からは、「提言」に基づいた電子ジャーナルが導入される。図1で示すように、平成15年度には9,000タイトル以上の電子ジャーナルが利用できることになる。今やこの方式は、「北大方式」と呼ばれ、他大学の注目するところとなっている。

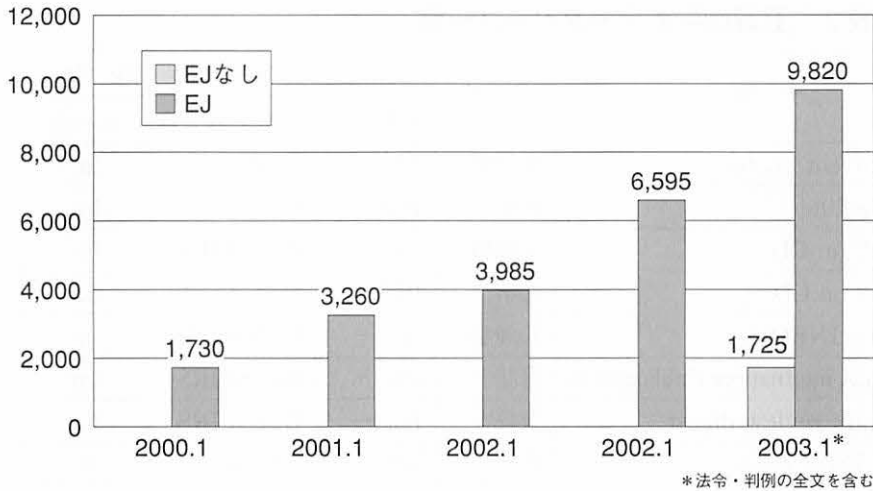


図1 電子ジャーナル導入状況（タイトル数）

## b. 課題

- ・電子ジャーナルを有効に活用できるように、タイトル順、主題別等様々なアクセス方法を用意する必要がある。
- ・常に良好な利用ができるように、ネットワーク環境の維持・整備が重要となる。
- ・「提言」に対して出された課題について検討を進めていく。
- ・電子ジャーナルに関する様々な情報（URL等）を管理するための管理ツールの導入が不可欠である。

## ② 学術文献データベース

### a. 現状

学術文献データベースは、従来登録制により、受益者負担の方式によって提供してきた。しかし、この運用方法は、種々の問題があることが図書館委員会でも指摘され、見直しをすることになっていたが、見直し作業は、平成14年度に持ち越された。

平成13年度には、基盤的データベースとしてWeb of Science（with Journal Citation Reports）が導入された。Web of Scienceは、それまでの受益者負担の方式ではなく、大学として整備するという方針に基づいて導入された。その点においても極めて大きな意義がある。

平成14年度に設置された「学術研究コンテンツ小委員会」においては、学術文献データベース全体について見直しが行われ、「学術文献データベースの見直し」にまとめられた。その観点は、次のとおりである。すなわち、

- ・学術文献データベースも学術情報基盤（インフラストラクチャ）であり、大学として整備する必要がある。そのことによって、本学の研究者、学生が適時にかつ同等に学術情報を利用できる環境が整備されることになる。

- ・従来、バラバラに導入されていたデータベースを一貫した方針に基づき整備する。
- ・インターネット環境による利用を原則とする。そのことによって、電子ジャーナルとの連携等が可能となり、一層研究者の文献へのアクセスの利便性が向上する。
- ・サーバを学内に置く、現在の運用体制の改善を行う。
- ・整備のために必要な経費は、当面中央財源により対応する必要がある。経費の財源については、電子ジャーナル経費の財源と合わせて平成18年度までに見直しを行う。

表2 登録制学術データベース一覧

データベース	内容	現状				
		収録範囲	検索システム	access	sm	金額(千円)
Current contents	全分野	1995-	OVID	lm	ul	5,569
Medline	医学	1966-	OVID	lm	ul	462
BA on CD	生物科学	1992-	WebSPIRS	lm	4	2,875
CA on CD	化学	1987-	専用システム	lm	4	1,141
PsycINFO	心理学	1872-	WebSPIRS	lm	1	826
MLA international bibliography	言語	1963-	WebSPIRS	lm	1	565
Book review digest	書評	1983-	WebSPIRS	lm	4	308
医学中央雑誌	医学	1983-	Internet	ra	8	711
SwetsScan	雑誌目次	1998-		lm	ul	670

b. 課題

- ・「学術文献データベースの見直し」の提言に沿って整備を進める必要がある。

③ その他の電子資料

a. 現状

電子ジャーナル及び文献データベースの整備方策については、学術研究コンテンツ小委員会で検討が進んだが、その他の電子資料については今後の検討となる。その他の電子資料としては、次のものが挙げられる。すなわち、

- ・図書(単行書等)
- ・参考図書類(百科事典、専門事典、辞書等)
- ・新聞・ニュース
- ・データ集

朝日新聞、北海道新聞等の新聞データベースではすでに本学でも導入されているものもあり、インターネット上で無料でアクセスできるものもある。

また、海外の新聞については、電子ジャーナルの全タイトルアクセスサービスとして導入することになっている Lexis-Nexis Academic に相当数収録されている。

b. 課題

- ・学術研究コンテンツ小委員会において電子資料についての整備方策を策定する必要がある。
- ・様々な情報源に含まれるこれらの情報のナビゲーション機能を充実させる必要がある。

### 3) 目録データ・メタデータの整備

#### ① 目録データの整備

##### a. 現状

本学の蔵書の目録は、昭和 61 年度以降受け入れた図書については図書館の業務電算化に伴いデータベース化されている。また、昭和 60 年度以前に受け入れた図書は、年度計画に基づき遡ってデータベース化（遡及入力事業）されている。データベース化された目録の総数は、表 3 のとおりで、製本雑誌を除いた全蔵書の約 70% が OPAC で検索できる（資料編 3.3 OPAC データ入力率参照）。

表 3 OPAC 入力状況

(単位：冊)

	和書	洋書	合計
総入力冊数	1,004,693	676,047	1,680,740
遡及入力冊数 (以下、内数)			
第 1 期 (1987-1990)	364,564	162,522	527,086
第 2 期 (1991-1995)	73,687	74,963	148,650
第 3 期 (1996-2000)	87,172	73,907	161,079
第 4 期 (2001)	34,207	32,170	66,377
臨時 (1996-1997)	10,745	11,649	22,394
125周年記念事業 (1999-2001)	16,390	11,901	28,291

(平成 14 年 3 月 31 日現在)

遡及入力事業は、全学の協力と理解の下に、図書業務電算化の翌年という早い時期から実施され、現在第 4 期 5 カ年計画が進行している。この事業によって全国総合目録データベース (NACSIS-CAT) における新規書誌作成及び所蔵登録件数は、常に全国の上位を保持し、学内はもとより国内外の教育者・研究者など各方面の方々の書誌・所蔵調査に貢献している。同時に、目録作成が全国共同事業と言うことからみると、他機関が目録作成時に本学が作成した書誌を有効に活用することが可能となり、業務の能率を効果的にしている。

##### b. 課題

- ・目録データベース構築における課題として、現在取り組んでいるのは、多言語処理である。この課題は、本学独自のものではなく、入力基準・入力方法・表示方法など、NII の取り組みと歩調を合わせる必要があり、図書館情報システムでは平成 15 年 3 月に行うシステム更新時から取り組むことになっている。
- ・目録データの遡及入力は、第 4 期遡及入力事業が終了しても、約 480,000 冊の未入力図書が残り、さらに、今後 10 年の事業の継続が必要となる。「附属図書館の中期目標・中期計画」でも示したとおり、早急な対策が必要である。

#### ② メタデータの整備

##### a. 現状

図書の所蔵館を探す時に、NII (国立情報学研究所、以下 NII) の Webcat (全国総合目録データベース) を、また、学内での所蔵状況を調査するときに本学の OPAC を利用してきた。Webcat サービスは、平成 9 年に開始され本学のみならず全国の大学・研究機関で所蔵する学術資料の検索ツールとして、定着している。

NII では、昨今の学術情報が多様なメディアやネットワークを介して多量に流通している状況を踏まえ、ネットワーク上の学術情報のデータベース化・公開サービス計画に着手、準備を進め、平成 14 年 10 月よりメタデータ・データベース共同構築事業の運用を開始した。事業の目指すところは「主として国内の大学・研究機関が、インターネット上において発信している学術情報資源のメタ情報（二次情報）をデータベース化することにより、学術情報の円滑な流通を図り、各大学の研究成果を広く世界に発信することを支援するものです。集積されたデータは、国立情報学研究所の学術コンテンツポータル“GeNii”（ジーニイ）を通じて内外へ提供され、その利用者が大学側の機関サーバや学内コンテンツにアクセスする手がかりとして機能します。」というものである。

附属図書館は、部分的な試行運用(平成 14 年 6～9 月)への参加を経て、このデータベース構築事業に参加している。また、全学としては、NII による「メタデータ・データベース共同構築事業説明会」(平成 14 年 10 月 16 日)が本学で開催されたのを機に、北大発信のインターネット上の学術情報を広く公開する有効な機会であることから、データの入力は本館・北分館及び学部図書掛等が担当することとし、図書系職員による図書目録部会で作業内容・登録対象の収集体制等を検討している。

データの記述内容は、ダブリン・コア (Dublin Core Metadata Initiative: DCMI) の定める記述要素 (Elements) に準拠した国際的な標準的データ形式を基本とし、NII 独自の拡張を加味したもので、収録対象は、機関内発信リソースとして、①研究成果、②研究成果リスト、③研究資源、④研究者・研究機関情報、⑤教育情報、⑥図書館情報、⑦デジタルミュージアム・電子展示、⑧参考情報 (データベース (画像、文献等)、文献目録・文献索引、リンク集・電子ジャーナル集、メーリングリスト)、⑨広報資料、である。

## b. 課題

図書館委員会で了承された「附属図書館の中期目標・中期計画」には、学術コンテンツポータル機能の構築・整備や、情報サービスが盛り込まれており、メタデータ・データベース構築とともに、本学が発信する学術情報自体にメタデータを埋め込む仕組みが必要である。

また、このためには、8 7) で述べる「学内情報施設との連携」が重要である。

## 4 情報資源の管理・運用

### 1) 資料の配架

利用者にとって、資料の配架は一定の規則で単純明解であることが望ましい。しかし、度重なる増築の結果本館書庫は複雑化しており、また、文系図書業務の統合により部局から本館書庫に図書の配置換えが繰り返され、書庫内の配架は別置箇所が増加している。このため書庫内図書への到達時間は延びることになり、利用者、出納職員に負担となっている。

部局で収集された雑誌のバックナンバーの集約も課題として久しいが、まとまった収蔵スペースが確保されるのを待たざるを得ない。

本館開架閲覧室についても可能な限り統合するなど、改修を機に、利用者が落ち着いて利用しやすい空間、図書配架に改善する必要がある。

### 2) 資料の保存・保全

図書館における資料保存は収集、整理、提供と並び主要機能のひとつである。全学の蔵書 340 万冊のうち 149 万冊以上を収容する本館書庫の収容力は、場所によっては、既に飽和状態に達しており、このため新規受入図書の収容あるいは、部局からの返納図書の収容のために長時間の書庫移動が必要になっており、一刻も早い保存図書館機能の整備が望まれる。

部局図書室等に分散保存される雑誌のバックナンバーを集中管理する場所が整備されれば重複が避けられ、保存スペースの狭隘化も緩和される。

本学は道内唯一の総合大学として学術資料の保存図書館機能も果たして来たことから、製本、複製、修復、マイクロ化による資料保存を進めるほか、消耗品を含む資料の保存基準を明確にした。とりわけ貴重資料の保全には恒温恒湿の貴重図書保存書庫を整備するなど万全を期すことが求められる。なお、平成 14 年 8 月に起こった外国語新聞大量廃棄については、調査委員会から提出された報告書等を真摯に受け止め、新聞保存基準および廃棄手続きを明確にするなど、再発防止を図るとともに、廃棄新聞を含む新聞のマイクロ化保存を進めることとした。

本館、北分館をはじめとして部局図書室等においても主に開架図書を中心に定期的な蔵書点検が実施されている。開架書庫内の図書資料についても実施計画を立て順次点検を進める必要がある。

平成 13 年度の所在不明図書の比率は本館が 0.063%、分館が 0.020% となっており、BDS(無断持ち出し防止装置)を導入する前の平成 8 年度本館開架図書の 0.4% と比較すると BDS 導入の効果が見られる。

## 5 電子図書館的機能

本学での本格的な図書館業務電算化は、図書館委員会の下に昭和59年6月図書業務電算化委員会を発足させ、昭和61年3月図書館専用電算機が導入され、電子情報を本学のあらゆる分野の研究者・利用者に公平に提供することを基本理念とし、情報収集・情報蓄積・情報発信という3つの目標を主軸に始まった。開始当初から、蔵書オンライン検索(OPAC)を開始、1年後の昭和62年6月には「遡及入力事業」を開始し、電子図書館的機能の一部を実質的に備えてきた。平成7年3月にクライアント/サーバ方式のシステムへ更新されたのを機に利用者インターフェースの改善に努めると同時に、情報発信機能を強化し同年9月には附属図書館のホームページを公開している。

二次情報データベースは、平成4年4月に、学内LAN(HINES)を介してMEDLINE、BIOSISのオンラインサービスを開始し、平成13年度にはWeb of Scienceを導入、その間、CA on CDなど数多くのデータベースの利用を可能としてきた(3 情報資源の収集・組織化 2) 学術研究コンテンツの整備を参照)。

さらに、電子図書館的機能の強化の一つとして、平成13年3月には「北海道大学学位論文(新制)」の目録データベース、「シラバス掲載参考書とOPACのリンク」、平成15年3月には「北海道大学学位論文(旧制)」の目録データベースの公開などを実現してきた。

学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会の報告「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」(平成5年12月)や学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」(平成8年7月)などの趣旨に添い、電子図書館システムを平成9年度概算要求として計画したが、実現していない。この内容を要約すると、①著作権に触れない資料の全文データベース化、②北大が創出する研究成果である紀要・学位論文等の全文データベース化、③北方圏資料・大型コレクション・各種個人文庫などの貴重資料の電子化、④画像(写真・古地図・外交書簡等)・音声(アイヌ民謡等)、映像(風景・自然ビデオ等)など多様な媒体の歴史的・民族的貴重資料のマルチメディア化、⑤外部学術情報データベースの導入などを主軸としたものとなっている。

### 1) 資料の電子化

図書館資料の電子化は電子図書館的機能の一つとして最重要項目の一つである。本館の主たる実施状況を外観すると次のとおりである。

#### ① 北方関係資料総合データベース

##### a. 現状

附属図書館長を委員長とした「北方関係資料総合データベース委員会」では、本学の地域特性を生かした研究資料のデータベース化を検討し、平成5年度から「北方関係資料総合データベース」作成を実施した。平成5～6年度には書誌データをテキストデータとして作成、平成8年度からは写真・地図・図類及び旧記類(自筆本、写本、木版本)の画像データを作成し、同年10月からインターネットを介して公開している。現在進行している実施計画は、科研費による平成13～16年度の4カ年計画で本学附属図書館北方関係主題別解題目録である「日本北辺関係旧記目録」に収録されている旧記類(自筆本、写本、木版本)の画像データによる全文データベースを作成し、順次データベースに追加・更新され24時間無料で利用されている。アクセス件数の推移は次のとおりである。

アクセス件数の推移	平成12年度実績	平成13年度実績	平成14年度見込み
	23,715件	16,299件	19,000件

このデータベースは WWW で公開しており、利用制限はなく、利用者からのアクセスを簡便にする工夫が施され、全タイトルを五十音・英字・数字別に並べた「タイトル索引」を付すと共に、本学 OPAC との横断検索が付され北方資料室所蔵資料も同時に検索することができる。また、平成 13 年 9 月に実施した創期 125 周年記念事業の電子展示では、これまで作成した画像情報の一部を高精細画像に変換し、ホームページで公開している。

b. 課題

- ・北海道立図書館や地区における各機関が提供している同種の情報を調査し、デジタルコンテンツの作成・提供について協力体制を整備する必要がある。
- ・ホームページから提供しているデータベース画像情報は、ネットワークのレスポンス悪化を懸念し、「見ることができる」程度のものであり、高精細画像として十分に研究に対応したものとなっていない。学術研究資料として情報を提供するためには、画像データを高精細画像化し、ネットワークを介して研究者の手元まで届けるシステムの構築が必要である。今後国際化対応も視野にさらに検索機能の向上を図る。
- ・この課題に対しては、附属図書館独自では困難であることから、「8 管理運営」の 7) 学内情報施設との連携及び 8) 外部機関との連携が必要である。

② 学位論文データベース（新制）

a. 現状

本学自己評価委員会の指摘を受けた学術情報委員会は、学位論文データベースの作成を決定し、附属図書館をその作成の担当とした。附属図書館は、データベースの仕様を検討した上で、NII が公開しているデータベースを活用し、本学学務部と連携を持ちながら、審査に携わった主査、副主査の氏名を項目として付加した、本学独自のデータベースを平成 13 年度に作成した。

「学位論文データベース（新制）」は、新制大学への移行後の昭和 33 年 9 月以降に本学が授与した学位論文の目録情報で、ホームページから公開している。平成 14 年度には、「旧制学位論文（大正 9 年 7 月～昭和 37 年 3 月授与 4,564 件で附属図書館が所蔵）」のデータベース化を進め同年度中に公開を予定している。これによって、参考資料「平成 14 年度大学図書館実態調査」の蔵書数、その他で示した「学位論文（博士）」についての目録データベースが整備されることになる。これまでの学位論文の目録は、旧制の目録は昭和 46 年に附属図書館が作成した冊子体目録「北海道大学学位論文目録（旧制）」、新制の目録はそれぞれの所蔵先が独自にカード目録等で整備してきたが、このデータベースの構築によって、学内外、国内外にインターネットを介して広く公開され、今後の有益な活用が期待されている。

b. 課題

- ・現在の学位論文のデータベースでは、要旨・本文が収録されていない点を挙げるができる。本学附属図書館委員会においてもこの点の指摘があり、データベースの拡充と著作権処理の検討が急がれるところである。
- ・データベースの更新には、学位授与・公表から 6 カ月以上の日数を要する点について迅

速な処理工程を検討する必要がある。

## 2) 蔵書検索

### ① 現 状

蔵書オンライン検索 (OPAC) は、昭和 61 年 3 月図書館専用電算機が導入されると同時に開始され、現在は、附属図書館ホームページを介して 24 時間いつでも、インターネット接続 PC があれば使用することができる。データの構築については、3 3) で述べたとおりである。本学の OPAC は単に蔵書の所在位置を明らかにするだけではなく、他のデータベース (シラバス掲載参考書、電子ジャーナル) との連携、主題検索などに際しても、その威力を発揮できるような機能を付加し、利用者の自主学習に大きく貢献している。また、平成 15 年 3 月からのシステムでは、特定著者の著作の一覧表示機能等も整備される。

本館 46 台、北分館 89 台、全学には総計 209 台の PC が配置されており (参考資料：部局図書室調査の利用環境)、蔵書検索を行うための環境が整備されている。本館・北分館では利用環境の改善として、5 カ年計画で合計 100 台以上の安定導入を計画進行中である。これまでの PC の導入は買い取り方式によって行われてきたが、故障した場合や、情報検索上の新規機能追加などの点で、新たな予算措置が保証されていなかった。このために買い取り機器のレンタル化を推進し、併せて増設を念頭にした安定導入を実施するものである。また、OPAC の利用促進のための体系的な工夫として、平成 13 年 2 月から、i モード版利用案内と併せて i モード版 OPAC を開始した。

アクセス件数は、表 4 とおりである。アクセスは、一日あたり各年度とも 16,000 件を越え 1 分間に 11 件と非常によく利用されていること、学外からのアクセスが約 10% 強であることが判る。

表 4 OPAC アクセス件数

	平成12年度			平成13年度			平成14年度 (4月-10月)		
	学内から	学外から	計	学内から	学外から	計	学内から	学外から	計
年計	5,890,524	708,331	6,598,855	5,579,215	591,223	6,170,438	3,668,875	457,537	4,126,412
月平均	490,877	59,028	549,905	464,935	49,269	514,203	524,125	65,362	589,487
日平均	16,095	1,936	18,030	15,286	1,620	16,906	19,940	2,487	22,427

### ② 課 題

レスポンスの悪化を挙げることができる。現在導入されている「図書館情報システム」は、予想以上のレスポンスの悪化を招いている。この課題に対しては、平成 15 年 3 月のシステム更新において、サーバのスペックの強化、データの分散保持、OS を LINUX (電子政府で使用を予定しているものと同様) に仕様変更することで改善を図ることになっている。英語版 OPAC についてもさらに整備を図る。

## 3) 学術情報ポータル機能

### ① 現 状

附属図書館の中期目標・中期計画には、学術情報ポータル機能の充実が盛り込まれ、本学が発信する学術情報の窓口として機能することが了承された。本学の情報基盤センター構想



が平成 15 年度には実現する見込みとなり、学内の学術情報基盤の整備が進められ、附属図書館の電子図書館機能の充実が急速に進むものと予想される。

前述したメタデータの整備や資料の電子化を進める中での本学が発信する学術情報、インターネット上にある他の機関が作成した学術情報、本学が学術基盤の整備の一つとして整備しつつある学術研究コンテンツは、教育、研究の基盤を確立するためにも、図書館には必要不可欠となっている。一方、インターネット上の資源はあまりにも多くなりすぎ、価値のある学術資源を探しだすことは困難になっている。

このような中で、様々な主題に特化して、学術資源をインターネット上から収集して分類・整理し体系的に使えるようにしたシステムを用い、効率良く効果的に検索・活用することが重要な電子図書館的機能といえる。

## ② 課 題

- ・本学では、NII メタデータ・データベース事業に参画し、インターネット上に発信する学術情報に対する一種の目録情報を作成するが、これと併せて、電子化資料、蔵書検索、地域研究、地域情報のサブジェクトゲートウェイを総合的に組み込んだ、ポータル機能を有する必要がある。
- ・そのためには、文部科学省に対して予算獲得の努力を継続することがまず必要であるが、同時に学内の自助努力でできる部分から実現していくことも重要である。さらに、附属図書館の体制の強化として、電子図書館機能の充実を計画・立案するための教育・研究者による検討組織の確立と、計画を実施するための事務組織の確立が必須の要件である。

## 6 施設・設備

### 1) 増築・改修

附属図書館、とくに本館については狭隘化、老朽化が目立ち、利用上の不便さも多々指摘されている。

これらの諸問題を解消するために、平成14年度まで附属図書館本館新営の概算要求を続けてきた。しかし、附属図書館新営構想のベースとなっていた「キャンパスマスタープラン96」の見直しが始まったこと、文部科学省における施設整備の方針に沿ったものでないこと等の理由により、平成15年度の概算要求では、現在の本館施設を残すことを前提とした増築・改修の要求に変更した。

本館の増築・改修計画については、図書館委員会の下に、「附属図書館増築・改修検討小委員会」を設置し、検討を続けている。

小委員会では、別途検討が進められているキャンパスマスタープラン見直しと連携をとりつつ、本学の図書館施設及び機能についても全学的見地から見直すこととし、次のような基本方針を策定した。増築、改修計画の策定にあたっては、これらの事項を十分考慮する。

#### 附属図書館本館増築・改修の基本的考え方

1. 本館の増築・改修計画は、キャンパスマスタープラン96の見直しと連携しつつ進めること。また、見直しの内容と適切に対応したものであること。
2. 全学的見地から、附属図書館の施設、機能の再構成を図ること。
3. 将来、とくに法人化後の本学における附属図書館機能・組織の在り方を十分考慮し、これに対応できるものであること。
4. 北海道地区唯一の基幹総合大学として、道内大学の中核的役割を含む地域及び社会的貢献を十分考慮すること。

上記小委員会が策定する増築・改修計画は、点検評価の結果を反映したものでなければならない。その意味で、増築・改修計画策定と自己点検作業が同時並行している状況であるが、両者の作業の連携が重要である。

#### ① 増 築

キャンパス整備の方針では、現在の本館周辺には増築すべきスペースがないことから、本館の増築は、新館を建設する方向で検討が進められている。場所としては、今後キャンパス開発の中心となる北キャンパスに建設されることで、合意が得られつつある。

小委員会では、現在ある本館、北分館及び新たに建設が計画される新館の3館について、どのような機能を分担すべきかの検討を行い、その上で、新館の機能要件をまとめているところである。

新館計画は、今年度末には策定されることになる。

## ② 改 修

### a. 現状

#### [本館]

本館は、昭和 33 年～39 年に建設された。昭和 59 年に増築された結果、延床面積は 17,342 m<sup>2</sup> である。施設の大部分は築後 40 年近く経過して、特に老朽化が目立っている。とくに屋上の老朽化による雨漏りの頻発は、資料を扱う図書館にとって極めてゆゆしい問題となっている。また、耐震対応になっていない、アスベストが剥き出しになっている等安全上の問題がある。

一方、収蔵スペースの狭隘化が進み、資料の保管に支障が生じている。業務統合を協議している文学研究科及びスラブ研究センターからの移管図書を現状では全く受け入れることができず、協議が進まない一因にもなっている。

従来から、老朽化、狭隘化への対応は個々には実施されてきたものの、対症療法的な対応が目立ったことから、附属図書館長の指示により、改修を前提とした本館の施設・スペースの最適な利用計画を策定することになり、平成 13 年度に部内にワーキンググループを設置するとともに、図書館建築の設計事務所に本館の最適なスペース利用について調査を依頼した。

ワーキンググループでは、設計事務所に調査を依頼するにあたり、現施設・設備の問題点及び改善事項を「本館スペース利用基本計画の要求要件」としてまとめ、提示した。

スペース利用改善計画案の策定にあたっては、ワーキンググループ、施設部及び設計事務所が協力して検討をすすめた。その結果、設計事務所より「北海道大学附属図書館本館スペース利用改善計画」が調査報告として提出され、ワーキンググループは、この調査結果に基づいて、「附属図書館本館スペース利用改善計画について」（平成 14 年 4 月）を作成し、作業結果を報告した。

附属図書館増築・改修検討小委員会では、これら「北海道大学附属図書館本館スペース利用改善計画」及び「附属図書館本館スペース利用改善計画について」をベースに本館改修計画を策定することとしている。

#### [北分館]

北分館は、昭和 44 年に建設され、昭和 52 年に 2,292 m<sup>2</sup> の増築をしている。平成 11 年度には、4 階の全面改修が実現しているが、その他の部分の老朽化は否めない。とくに屋上の老朽化による雨漏り及び空調設備の老朽化が問題である。これらは、平成 13 年度から営繕要求を続けているが、実現に至っていない。特に雨漏りは図書館にとっては重大な問題であり、早急な対応が望まれる。

### b. 課題

- ・増築・改修検討小委員会において、本館改修計画を策定し、概算要求に結びつける。
- ・本館・北分館の屋上の防水措置について、引き続き営繕要求は続けるが、実現の目処が立たないようであれば、学内措置で要求し実現を図る必要がある。

## 2) 利用環境・設備の改善

図書館施設の構造は利用環境、サービス、業務遂行に密接に相関しており、快適な利用環境

と長期的視野に立った施設構想が肝要となる。

現行のスペース配置は2階エントランス部分に受付がなく、来館者に判りにくい構造でありサービス面でも課題となっている。

### ① 閲覧環境

閲覧机は昭和40年代に整備されたものが多く、照明も含め、利用者に快適な空間に計画的に改善する必要がある。その際、4人掛机から、学生の利用動向にあわせ、1人用キャレルへの転換も図る必要がある。本館、北分館とも現在キャレルは書庫内にあるのみであり、数もそれぞれ30席、7席と著しく少ない。

### ② 電子資料利用環境

現有図書館スペースは、電子的資料の利用を想定していないためネットワーク端末機の設置が困難である。スペース狭隘は本館・北分館をはじめ各部局図書室等で切実な課題である。電子図書館機能の整備には端末利用スペースの確保が必須であり、図書館利用環境見直しの中で総合的に検討することが必要である。

### ③ 保存環境

人文系部局図書室との業務統合等による収蔵スペースの狭隘化が進み、雑誌バックナンバーの床積みも日常化している。集中管理による資料の共同利用、有効活用を進めるためにも、全学共用の文献保存センター機能の早期実現が緊急課題である。

また、本学が所蔵する史料及び多数の貴重図書を適切な環境で保存するために、遮光及び温湿度調整が可能で、防火対策が施された本格的な貴重資料室を設ける。

## 7 研究開発機能

### 1) 現 状

図書館の研究開発機能の必要性については、『大学図書館における電子図書館的機能の強化・充実について(建議)』(平成8年 学術審議会)においてはじめて言及され、『科学技術創造立国を目指す我が国の学術の総合的推進方策について(答申)』(平成11年6月 学術審議会)においても図書館は「それ自身研究開発的な側面がある」と再度確認されている。

他大学、とくに7大学附属図書館においては、本学を除いて研究開発室を学内措置で設置しており、体制は大学によって異なるが、情報リテラシー教育支援、電子図書館システムの研究開発、図書館資料の調査研究等に成果を上げている。

本学においても、高度情報化社会において、図書館が研究者・学生の多様な情報要求に適切に 대응していくためには、図書館情報システム及びサービスについて不断の研究開発が必要である。

本学はまた、北方関係資料、大学沿革資料、スラブ関係資料等のユニークなコレクションを所蔵しており、これらの資料についての調査研究も重要な機能である。

このため、中期計画のなかでは、「調査研究室を設置して、情報リテラシー担当、北方関係資料・大学史料担当及びスラブ資料担当の助教授、助手を配置し、プロジェクト型研究開発を推進する。」としている。

### 2) 課 題

- ・附属図書館の研究開発機能として、何を対象とし、どういう体制で取り組むかについて速やかに検討を開始する必要がある。
- ・学内外の研究者、組織との連携協力による研究開発を視野に入れた研究開発体制を整備する必要がある。

## 8 管理運営

### 1) 図書館委員会

#### ① 現 状

##### [役割]

図書館委員会は、附属図書館に関する重要事項を審議することを目的として設置されており、年4回程度開催されている。定例の審議事項としては、事業計画、予算・決算等があるが、近年では学術研究コンテンツの整備や利用者サービスの拡大等取り組むべき課題が多いこと、迅速な対応が必要であること、等から臨時に開催される状況が発生している。

##### [委員]

委員は、部局を構成する学部・研究科、研究所、センターから選出された教授または助教授23名と附属図書館長、副館長で構成される。

##### [小委員会]

事項によっては、委員会のもとに小委員会を設置して検討することができることになっており、小委員会の検討結果は、委員会に報告、審議を経て、図書館の方針として実施される。従来、小委員会は検討が終了すると解散することになっていたが、平成14年度に設置された「学術研究コンテンツ小委員会」は常設小委員会である。

#### ② 課 題

- ・法人化に伴い、図書館の位置付けがどうなるかが論点となっている。大学における学術情報基盤として、法的にも実質的にも明確に位置付けられるべきである。
- ・法人化に伴い、附属図書館においても課題・事業に対して迅速な対応ができる執行体制の確立が求められる。
- ・「学術研究コンテンツ小委員会」に見られるとおり、単に審議・検討組織というだけでない役割も担うことになってきている。

### 2) 組 織

#### ① 現 状

##### a. 附属図書館長

附属図書館長は、平成13年度より、副学長が兼務することになった。図書館の機能は常に全学的な立場から考えられるべきもので、その点で附属図書館長が大学の執行部に入ることの利点は大きい。

副学長の任期2年間で再任が可能となった。

##### b. 副館長

副学長が附属図書館長を兼務することになり、多忙を極める状態が続いたことから、附属図書館長を補佐するために平成14年度から副館長を設置した。副館長の役割としては、北分館長を兼務すること、学習図書館機能の整備及び学内諸委員会の対応にあたること、となっている。

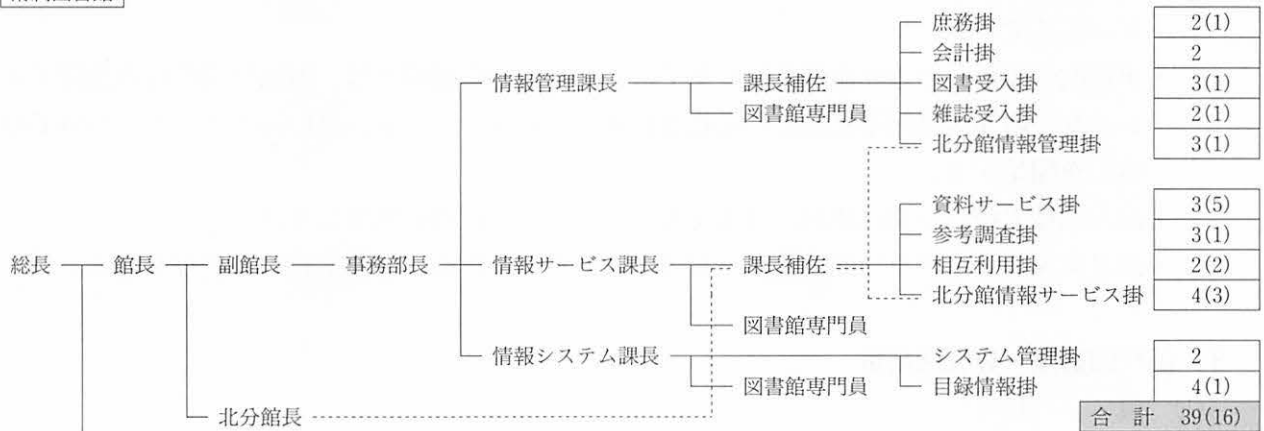
##### c. 事務部

附属図書館事務部は、昭和40年に部課長制がしかれ、昭和62年から現在の3課制となった。現在は、1部3課11掛、職員数は39名（うち図書館職員は29名）である。本学は、この他に19の部局図書室等があり、ここに16の掛が設置されている。部局図書室等の図書館職員数は、71名である。（組織図を参照）

# 組 織 図

平成 14 年 4 月 1 日現在

## 附属図書館



## 部局図書室



( ) 非常勤職員数で外数

## 附属図書館職員数

	附属図書館	部局図書室	合 計
事務部長	1		1
課長	3		3
課長補佐	2		2
図書館専門員	3( 3)		3( 3)
掛長	11( 9)	16(16)	27( 25)
掛員	19(17)	55(55)	74( 72)
合 計	39(29)	71(71)	110(100)

( ) は図書館職員数で内数

## ② 課 題

- ・法人化後も附属図書館長が大学の執行部のメンバーとして、大学の管理運営に参画することが重要である。
- ・事務改善委員会の事務組織見直し案では、全学の図書館職員は、附属図書館長の指揮下におかれ、附属図書館事務部に一元化されることになっている。具体的なあり方についての検討を開始する。
- ・法人化後の厳しい職員体制に対応するために図書館組織の見直しを行う。
- ・図書業務の効率化及び図書館サービスの改善を図るため、管理業務の集約化を図る。

## 3) 部局図書室・専攻図書室

### ① 現 状

本学には、本館・北分館の他に部局レベルで設置されている部局図書室が19ある。また、学部・研究科によっては、学科レベルで専攻図書室といわれる図書室を設置している部局もある。とくに後者については、これまで、実態がよくわからなかったところがあり、今回の自己点検評価に際して、実態調査を実施した。その結果21の専攻図書室から回答があった。理学研究科、工学研究科及び農学研究科に専攻図書室が設置されている。

以下、調査結果に基づいて、現状を点検する。なお、19の部局図書室と21の専攻図書室を含めて、部局図書室等ということとする。

調査結果の集計については、資料として別添添付してある。

#### a. 役割・意義

部局図書室等の一義的な役割は当該部局の図書館機能を担い、学生・研究者をサービス対象として、その教育・研究を支援することとしている。無論、本学の学生・教職員の利用も可能である。但し、部局図書室及び専攻図書室とも施設規模、職員体制に大きな差がある。これは部局等の規模によるところが大きいが、学問分野による部局図書室等に関する必要性の認識の違いにもよっている。

部局図書室等は、研究者対応の図書館機能を担う面が強調されるが、規模が大きい図書室や学部の中央図書室においては、学生に対するサービスが大きく位置付けられている。

殆どの部局図書室等が今後とも継続して機能すべきであるとされているが、電子ジャーナル等の利用が拡大されてきたこと、人員の確保が難しくなったこと等により、統合を課題とする部局図書室等もある。

#### b. 利用者サービス

##### i. 開館時間

時間外開館については、6図書室等が平日の時間延長を実施している。土曜日開館を実施しているのは2部局図書室等に限られており、さらに日曜・休日開館を実施しているのは医学研究科・医学部図書館だけである。ほとんどの部局図書室等の開館時間は、平日の時間内のみ限定されているが、サービス対象が限られているということもあり、自動入退館装置等により時間外の入室を可能としている部局図書室等もある。医学研究科・医学部図書館、薬学研究科・薬学部、地球環境科学研究科、低温科学研究所及び医療短期大学部図書室では、無人の24時間開館を実施している。



## ii. 貸出

貸出を実施している部局図書室等は 30 あり、貸出冊数の合計は 74,827 冊(平成 13 年度)である。これは、本学全体 (288,769 冊) の 26%にあたる。

貸出制限冊数を 5 冊以内とする図書室が多いが、中には薬学研究科図書室のように制限を設けていない図書室もある。

## iii. レファレンスサービス

レファレンスサービスもかなりの部局図書室等で実施されている。特に、医学及び工学研究科図書室において質問受付件数が多い。部局図書室等での受付件数は、25,012 件(平成 13 年度)であり、これは北大全体の 84.8%にあたる。今後、インターネットを利用した電子レファレンスサービスを実施するに際して、共同実施の可能性を示唆するものである。

## iv. 相互貸借

15 の部局図書室等で実施されている。大学全体に占める割合を平成 13 年度で見ると、現物貸借冊数では 48.7%であるが、文献複写件数では、79.1%に上っている。

## v. オリエンテーションの実施状況

13 の部局図書室等で実施されている。内容は、新学期に学生、大学院生に対する部局図書室等の利用案内の簡単なものから、医学研究科図書館のように教官と連携して授業のなかで文献検索法について説明・演習を実施している場合もある。

## vi. 学外者への公開状況

行政評価局の監視が附属図書館に入り、一般市民の利用拡大について指摘があったように、国立大学施設の公開については、今後とも取り組むべき課題となる。

学外者の利用を認めている図書室等は 24 ある。閲覧のみを許可している図書室が殆どであるが、学科の卒業生や特定の利用者に対しては貸出も実施している図書室がある。手続きに必要な書類も紹介状、身分証明書、免許証等本人と確認できるものでよい等部局図書室等によってまちまちである。

## c. 情報資源

### i. 受入冊数

今回の調査では、消耗品扱い資料の受入冊数について調査を行った。従来蔵書統計では、年間約 7 万冊の資料が受入れられていることになっていたが、そのほかに約 4 万冊以上の消耗品扱い資料があることがわかった。消耗品扱い資料のほとんどは、蔵書統計にも表れず、目録作成の対象ともなっていない。このことは、収蔵スペースを考える際に、備品扱い資料だけを考慮するだけでは済まないことを意味している。また、多くの資料が目録も作成されず、したがって検索できない状態であることも問題である。

### ii. 電子的資料導入数

CD-ROM 等のパッケージ型電子資料は、113 点が導入されている。また、ネットワークを介して利用可能なデータベースは、医学、経済学研究科の図書室を中心に 14 点(平成 13 年度) 導入されている。

### iii. 特殊コレクション

[学位論文]

11 の図書室等において、学位論文が保管されている。学位論文については、利用ルー

トがはっきりしていない（いわゆる灰色文献）が、需要の多い資料の典型である。十数年前に米国からの指摘に従い、利用の窓口を国立国会図書館に、検索のためのデータベース化を当時の学術情報センター（現国立情報学研究所—NII）において行うことになった。検索はNIIのNACSIS-IRによって可能となったが、国立国会図書館での利用は閲覧に限られており、コピー要求は、それぞれの大学が対応しているのが現状である。本学では、NIIから本学分のデータを手し、独自にデータベース化を進めている。（「5電子図書館的機能」を参照）

#### [特殊文庫]

教育学研究科、医学研究科、農学研究科、水産科学研究科及びスラブ研究センター図書室において、特殊文庫が所蔵されている。しかし、整理状況はまちまちで、必ずしも整理が完了して、利用可能な状態になっているわけではない。

### d. 施設・設備

#### i. 延床面積

部局図書室等が占める延床面積は、14,985 m<sup>2</sup>に上る。このうちサービススペースは4,287 m<sup>2</sup>であり、多くのスペースが書庫等の管理スペースにあてられている。水産科学研究科図書室を除き、すべて部局面積に含まれている。

#### ii. 閲覧座席数

部局図書室等の閲覧座席数は、合計で772席となる。本館・北分館を合わせた閲覧座席数は学生数の10%以下であり、これら図書室等の閲覧座席が補完の役割を果たしていると考えられる。

#### iii. 収蔵可能冊数

部局図書室等の収蔵可能冊数は、166万冊であるが、これはすでに所蔵冊数188万冊を下回っており、殆どの図書室等で収蔵スペースの不足が深刻になっている。収蔵スペース問題は、もはや各部局図書室等で取り組む課題ではなく、全学的課題として対処する問題である。ただし、今回の調査による限り、全学の収蔵スペースが実現した場合に、移管したいと考えている図書冊数は、約48万冊に過ぎなかった。

### e. 管理運営

#### i. 図書委員会

殆どの部局図書室等で図書委員会を設置して、図書室の運営にあたっている。また、図書館委員を選出している部局にあつては、附属図書館に関わる問題についても協議が行われており、附属図書館とのパイプ的役割も担っている。

#### ii. 職員体制

部局図書室等の図書館職員は71名であり、全学の70%を占める。掛が設置されているのは、16の部局図書室等である。図書館職員が配置されている専攻図書室もある。2掛体制の図書室等が3室、1掛であるが、3名以上の図書館職員が配置されている部局図書室等が2室あるが、その他は、2名あるいは1名で運用している状況である。

#### iii. 図書室業務

通常の図書業務のほかにどのような業務を遂行しているかの調査では、特に紀要の発行についてどの程度関わっているかについて質問をした。その結果、12部局図書室等で紀要発行が図書室の仕事に含まれていることがわかった。但し、業務量については、年

間5時間～730時間と部局間でかなりの差がある。

#### iv. 部局図書室と専攻図書室

組織上は、部局図書室の指揮下に専攻図書室が位置付けられているが、運営上は必ずしもそうではないようである。今後の厳しい、定員管理及び経費状況にどのように対応していくかが課題となる。

### ② 課 題

- ・本学の図書館機能において現在部局図書室等が果たしている役割は大きい。部局図書室等には、全図書館職員の7割が配置され、図書室等の維持費は、本館・北分館のそれに匹敵する額に上っている。現在、今後における事務組織のあり方について審議が行われているところであるが、今後における本学の図書館機能、組織のあり方を考える上で、本館、北分館及び部局図書室等が一体性をもって運営できる体制とすることが肝要である。
- ・本学蔵書の約3分の2は、部局図書室等に分散配置されており、これらの資料を学生・教職員が容易に利用できる学内相互利用サービスの仕組みの整備が必要である。海外アドバイザーによる提言評価のなかでも、この点が指摘されている。
- ・学外者の利用について最低限のルールを統一を図るべきである。
- ・法人化後の会計基準及びその注解によると、図書は有形固定資産と位置付けられる。消耗品についても基準が示されていることから、従来とは対応が異なってくる。このことを念頭において法人化後の図書業務の在り方を検討する必要がある。
- ・スペースの狭隘化に対しては、本館増築計画の中で構想されている全学の資料収蔵センターとの関連で対応する必要がある。

## 4) 図書業務の統合

部局図書室等を附属図書館に統合する動きは、昭和50年の法学部の業務統合を初めとする。その後、言語文化部、教育学部、経済学部が統合され、文系部局としては、文学部及びスラブ研究センターの統合が課題となっている。

統合は、図書掛を残す部分統合と図書掛を残さない完全統合がある。また、統合の理由としては、図書の収蔵スペースの狭隘化や職員確保の問題等が挙げられている。しかし、統合の意義は、大学全体として図書館が円滑に機能し、図書館資料の管理及び利用のルールが一元化され、本学の構成員による共同利用が促進されるということではなければならない。

平成13年12月から文学部と、平成14年5月からスラブ研究センターとの協議がはじまっている。いずれも最終合意までには至っていないが、方向は見えつつある。

### ① 現 状

#### a. 文学研究科

平成13年10月に申し出があり、「文学部図書統合計画委員会」を設置して協議を続けている。平成14年7月には、統合を前提として文学部から約5万冊の図書を図書館に移動し、管理換の手続きを進めている。

すでに、委員会を3回開催、図書移管部会及び業務統合部会において具体的な事項について協議を進めている。

文学研究科との統合では、約20万冊の図書が図書館に移されることになっている。本館改修にあたっては、これらの資料の収容について考慮が必要である。

## b. スラブ研究センター

平成14年2月に申し出があり、協議を続けている。スラブ研究センターの主要な資料約7万冊はすでに管理換されており本館書庫内に配架されている。業務統合後のイメージについてはほぼ合意が形成されつつあり、経費等の具体的事項についてさらに検討が進められることになっている。文学研究科と同様移管図書の収容スペース確保が緊急の課題となっている。

### ② 課 題

- ・ 図書業務の統合協議は上記のように個別で進められているが、一方、全学的な組織見直しの作業とも関連してくる。また、法人化後の制度及び厳しい定員状況も念頭に置く必要がある。その意味で、今後の全学図書館機能のあり方を見据えつつ行う必要がある。

## 5) 事務改善

### ① 現 状

事務改善については、平成12年に事務連絡会議のもとに事務改善委員会が設置され検討が進められた。とくに、事務組織の見直しについての検討が精力的に行われた結果、平成13年末に大枠がまとめられ、事務改善委員会です承された。今年度になり、全学的な承認を得るための作業に入る予定であったが、この間に国立大学の法人化が現実のものとなったことから、手直しが必要であるとの認識に立ち、その結果が「北海道大学における今後の事務組織の在り方について(案)」として、現在「法人化移行準備委員会」等で審議中されているところである。

この中で附属図書館については、以下のとおり記述されている。すなわち、

「附属図書館の事務部職員は、定員管理上、事務局長管理下の職員となるが、指揮命令系統上の整理は、附属図書館事務部として附属図書館長の指揮下に置く。

また、部局の図書関係事務部門は附属図書館事務部に一元化し、発注、受入、目録作成等の管理業務を集中化することにより事務処理の迅速化と効率化を図る。

なお、各部局の図書室、閲覧室等には、図書に関するサービス業務に必要な相応数の人員を附属図書館事務部職員としてそれぞれ配置し、学生、教官に対する学術情報・資料の利用環境の充実を図る。」

これは、ほぼこれまで附属図書館が主張してきた方向であり、この考え方に基づいた事務組織の再編を今後進める。

### ② 課 題

- ・ 平成16年4月からの法人化が組織再編の時期であり、それに向けて附属図書館として検討を開始する必要がある。
- ・ 事務組織の見直しは、附属図書館にとっては全学の図書館組織の再編であり、図書館サービス体制の改善に結び付ける必要がある。どのような体制になり、図書館サービスはどうか、早急に提案し、部局等の理解を求める必要がある。
- ・ 管理業務の集約化については、これまで実務担当者において検討されてきた経緯がある。法人化、図書館組織の一元化等を踏まえた検討を再開する。

## 6) 学内情報施設との連携

### ① 現 状

これまでの学内情報施設との連携は、大型計算機センターあるいは情報メディアセンターとの希薄な関係に留まり、また、委員会組織としては、学術情報委員会に委員長として附属図書館長が、その下部組織の情報ネットワークシステム専門委員会には附属図書館事務部長が参加し、さらにその下部組織には、情報システム課長あるいは情報システム課専門員が参加する体制となっている。これらの委員会は、本学の学術情報体制の在り方等を検討し実施するために組織されたものである。

本学では、平成 15 年度概算要求した情報基盤センターが実現の見込みとなり、体制の再構築が実現することや、電子図書館機能の強化として、①コンテンツ、②ハードウェア及びソフトウェアの観点から充実が大いに期待される。

情報基盤センターの機能の一つとして、デジタルコンテンツ支援機能がある。この内容を記述すると「電子媒体の学術情報（デジタルコンテンツ）を系統的に収集、蓄積し、学内外の利用者がネットワークを介していつでもどこからでも検索、利用できるように組織化した上で配信するサービスは、本学が最先端の研究と高度の教育を遂行していく上で不可欠な学術情報基盤といえる。情報基盤センターは、附属図書館と緊密に連携し、学術情報サービスを飛躍的に高度化することをめざし、コンピュータ及びネットワーク資源、システム及びデータベースの運用管理、情報リテラシー教育及び研究開発の面から附属図書館を強力に支援していく役割を担う。」と記述されている。また、支援内容として、次の点が力説されている。

- (1) デジタルコンテンツのためのコンピュータ資源及びネットワーク資源の提供・管理
- (2) データベースの運用管理
- (3) デジタルコンテンツの提供サービス
- (4) デジタルコンテンツ作成支援機能

### ② 課 題

附属図書館が発信する情報は、図書館資料の目録情報、電子化した資料情報に加え、最近では、電子ジャーナル、二次情報データベース、学内生成デジタルコンテンツ及びそのメタデータとネットワークを介して配信される学術情報を含む形へと変化している。この変化は、単に附属図書館が所蔵資料の情報のみならず、教育・研究に関わる広範囲な情報を取り扱う施設であることを実証し、情報基盤センターの上記支援を積極的に受け止め、体制を整備し、学内の学術情報発信基地とする必要がある。

## 7) 学外機関との連携

### ① 現 状

学外の機関との連携は、第一に国立情報学研究所（NII）との連携を挙げることができる。本学では、NII の各種事業、①全国総合目録データベース（NACSIS-CAT）の構築、②大学図書館間相互貸借（NACSIS-ILL）の活用、③平成 14 年度から始まったメタデータ・データベース構築事業、等に参加し、図書館業務の遂行に努めてきた。①の NACSIS-CAT は、全国的な体制下での共同分担目録作成であり、本学が入手した図書館資料の目録を迅速かつ的確に作成するために、強力な連携が実現している。②の NACSIS-ILL は、参加している国内の国公私立大学図書館及び他の研究機関等との間で、図書館間相互貸借（ILL）が実施され、

学内に所蔵しない文献のコピー取り寄せ及び現物資料の借受をするもので、本学の教育・研究を推進する上で重要な役割を果たしている。また、2002(平成14)年度からは、米国 OCLC との相互利用も実現し、かつ、規模を拡大する方向で国際 ILL が推進されている。③のメタデータ・データベースは、インターネット上の学術情報資源を有効かつ効率よく活用するための手段として実施される事業であるが、当データベースを用いて、本学がネットワークを介して発信している学術情報の公開を推進するために有効な手段である。

次いで、挙げることができる外部との連携としては、道内大学図書館等関係機関との連携を挙げることができる。これまで、道内国公立大学の図書館とは道内大学図書館協議会や道内国立大学図書館協議会を介して連携を採ってきた。

## ② 課 題

NII との連携は、大学が法人化しても、本学附属図書館の事業展開の上でも、また、これまでも実施してきた人事交流等も含め、更なる連携が重要である。

他の機関との連携は、大学図書館に限らず、道立図書館等との連携も強化し、デジタルコンテンツの作成・提供について共同事業を展開することが必要である。たとえば、「5 電子図書館的機能」1) 資料の電子化で述べた「北方関係資料総合データベース」は本学独自のデータベースであるが、道内他の機関には関連した資料が所蔵されており、連携・協力体制を確立し、各館が所蔵する関連資料のデジタル化の共同事業化と相互利用の推進を実現することが重要である。

## 8) 点検評価

### ① 現 状

附属図書館の自己点検評価としては、「平成5年度北海道大学年次報告書」の「VI 図書及び学術情報」において、本館・北分館及び部局図書室等の現状についてまとめられているが、単独の作業としては実施されていない。

附属図書館では、毎年事業計画を策定し、その達成状況について図書館委員会に報告している。これも評価のひとつと言えるが、例えば年次報告書としてまとめているわけではない。

点検評価の実施は、平成3年度の大学設置基準の大綱化(『大学教育の改善について(答申)』)による。この時点で各大学において、点検評価体制の整備が行われた。本学においても、全学の「点検評価委員会」が平成3年12月に設置されている。同時に、各実施部局にも「点検評価委員会」が設置された。しかし、「北海道大学点検評価規程」では、附属図書館は点検評価の実施部局となっていない。このことが、附属図書館において点検評価が実施されなかった要因のひとつといえるかも知れない。

しかし、点検評価の必要性は、法人化を控えてさらに高まっている。すなわち、法人化後は中期目標・中期計画を策定して事業を遂行し、その達成状況が評価される。そしてこの評価が運営費交付金の配分に影響するとされている。

また、附属図書館として、図書館活動全般についての点検評価も重要である。国立大学図書館協議会においては点検評価の重要性に鑑み、評価指標の検討が行われている。そこでは、蔵書数や予算等いわゆる所与の指標だけでなく、成果(アウトカム)を測定する評価指標、電子図書館サービス関連の評価指標及び定性的な評価指標について検討が行われている。(『大学図書館における評価指標報告書』2002.3)

② 課 題

- ・定期的に点検評価を実施する体制を整備し、点検評価を実施する必要がある。その際、他大学との比較が可能な評価指標を採用する。また、利用者の満足度調査の採用を検討する。

## 9 予 算

### 1) 図書館維持費

#### ① 現 状

図書館維持費は、全学共通経費として配分される。このなかには、文部科学省から措置される図書館経費及び図書館設備費の当初予算が含まれる。2次配当となる夜間開館経費は、示達時点で別途配分される。表5は、図書館維持費の推移である。ここ5年間で経費はほぼ横ばいの状況である。

したがって、新たな事業については、別途経費の措置により実施している。すなわち、平成12年度については、創基125周年記念事業経費が措置され、北方資料室及び本学沿革資料室の改修、貴重図書室及び大型コレクション室の整備が実現した。

平成13年度には、基盤的データベース導入経費(Web of Scienceの初期経費)、本館玄関前整備経費、電動集密書架導入経費、人文・社会科学教育及び留学生教育支援のためのマルチメディア環境整備経費、本館改修調査費等が措置され、懸案の解決が進んだ。

表5 図書館維持費の推移

(単位：千円)

	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
被服費	275	182	162	119	158
自動車維持費	163	74	67	74	76
備品費	3,979	7,471	7,679	7,379	7,505
消耗品費	8,428	8,740	8,892	9,084	8,998
印刷製本費	7,352	6,589	6,664	6,893	6,998
通信運搬費	5,307	5,091	5,059	4,592	4,380
光熱水料	15,510	15,286	15,322	16,806	15,859
行事等経費	205	117	109	128	127
賃金	45,832	46,646	45,923	44,998	45,172
借料及び損料	4,408	2,640	4,241	5,064	5,568
雑役務費	31,545	30,551	30,662	30,962	32,291
目録作成費	2,533	3,168	3,130	3,133	3,138
総合目録データベース作成費	6,754	7,482	7,520	7,517	7,512
節約	7,980	7,784			
合 計	140,271	141,821	135,430	136,749	137,782

#### ② 課 題

- ・国立大学法人化に伴う附属図書館事務部の一元化を図る際に、新たに附属図書館となる施設の維持費の対応について検討する必要がある。
- ・施設・設備の改修とともに、家具等の老朽化にも対処する必要がある。閲覧椅子については年次計画で更新を行っているが、その他の閲覧席や書架についても更新計画を立てて、年次計画により改善を図る必要がある。



## 10 広 報

### 1) 刊 行 物

刊行物	発行部数	刊行頻度	内 容
附属図書館概要	1,000部	年刊	沿革、組織、コレクション紹介、統計等
榆蔭（館報）	4,000部	年3回	特集、お知らせ、資料紹介、委員会報告等
榆蔭レター	3,200部	月刊	お知らせ、データベース紹介、講習会案内
図書館利用案内	3,000部	年刊	日本語、英語、ハングル語、中国語版

図書館サービスの案内と新たに提供する電子ジャーナル、文献データベース紹介などの情報提供と利用者とのコミュニケーションを目的として、表のような刊行物を作成し、広報活動をしているが、ホームページの活用を含め、webによる速報性のある広報など、見直しが必要である。

### 2) ホームページ

平成7年9月に独自のホームページ（日本語、英語版）を開設し、OPAC検索をはじめ各種図書館サービスのガイド、電子ジャーナル等、学術情報提供と利用者とのコミュニケーション窓口機能を果たしている。

平成11年度には、文献複写依頼、図書リクエスト等をWeb上で申込み可能に、また電子ジャーナル等学外情報源へのアクセス窓口を提供するなど、拡充されてきた。今後は図書館に学術情報のポータル機能が期待されていることから、使いやすいページ構成、コンテンツの充実などさらなる機能更新を図る必要がある。

### 3) 展 示

常設展示は本館2階ロビー、分館2階で6カ月ごとにテーマを変え北方資料室所蔵の資料を展示し、学外利用者から好評を得ている。平成13年度は本学創基125周年記念事業の一環として、北方古地図の展示とあわせ電子展示では、デジタル化された古地図を高精細画像で広く公開した。今後はマンネリ化とならないように新たなテーマを開拓する必要がある。

## 11 北海道大学附属図書館システム

### 1) 附属図書館組織計画

図書館組織の現状については、8. 管理運営の章に詳しく述べられている。

平成16年度の法人化をみすえた組織の再編を図る。

法人化後の附属図書館組織については、法人化移行準備委員会、人事業務専門委員会から出された「北海道大学における今後の事務組織等の在り方について(案)」の中でふれられている。その骨子は以下のとおりである。

- ・附属図書館の事務部職員は、定員管理上、事務局長管理下の職員となるが、指揮命令系統上の整理は、附属図書館長の指揮下におく。
- ・図書関係の管理業務（発注、受入、目録作成等）は集中化し迅速化と効率化を図る。
- ・図書関係のサービス業務（閲覧、貸出、参考調査業務等）は部局図書室等に必要な人員を配置し利用環境の充実を図る。
- ・上記を受け、平成15年2月本館に設置した「北海道大学の図書関係事務改善検討WG」を中心に事務改善委員会及び業務分析等WGとも連携しながら検討を開始した。事前に実施された、図書事務改善検討小委員会等の場での、集中化すべき管理業務の分析、部局図書室等に対する現状調査等を十分に生かしながら早急な対応が求められている。

### 2) 施設計画

施設の現状については、6. 施設・設備の章に詳しく述べられている。

本館の施設整備については、平成6年1月北海道大学附属図書館将来像検討委員会がまとめた「最終報告書」、平成10年3月北海道大学附属図書館新営検討小委員会がまとめた「附属図書館新営構想に関する報告書」などで報告されている。平成14年10月図書館委員会の下に「附属図書館増築・改修検討小委員会」を設置し、新館計画及び本館の改修計画案の策定を進めている。

本学附属図書館が有すべき機能は、学習支援図書館機能、研究支援図書館機能、電子図書館機能、保存図書館機能、ユニバーシティ・アーカイブ機能、地域センター機能、総合図書館機能である。これらの機能は、新館のみならず、本館・北分館及び部局図書室等を含め全学の図書館機能として実現されるべきものである。今後、全学の図書業務担当部署が協力して、人員配置、資料配置、機能分担等早急に具体的な計画策定が必要である。

- ・新館構想については、北キャンパス新産業創出拠点として位置づけられる「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」との連携を図ることが必要である。
- ・新館が持つべき保存図書館機能を最大限に活用し、各部局図書室等が所蔵する図書館資料を集中化するとともに、北海道地区に巨大な学術資料群集積を検討する。
- ・施設部等関係部署と小委員会がまとめた計画案の具体化を早急に図る必要がある。

## II 資料編

- A 附属図書館の中期目標・中期計画・年度計画
- B 大学図書館評価指標データ集
- C 平成 14 年度大学図書館実態調査
- D 部局図書室等調査集計結果

A 附属図書館の  
中期目標・中期計画・年度計画



## A 附属図書館の中期目標・中期計画・年度計画

(◎は全学的な取り組みを要するもの、○は部局レベルで実施するもの)

中期目標	中期計画	平成16年度計画
<p>1. 中期目標の期間 平成16年度から6年間</p> <p>2. 附属図書館としての基本的な目標 ◎本学における教育・研究目標の達成を支援するため、本学の学生・教職員が必要とする多様な情報資源を取集、作成、組織化し、あるいは学外の情報資源へのアクセスを可能とし、適時に利用できる環境を整備する。また、これらの情報資源に基づき、情報リテラシー教育支援を含む広範なサービスを提供する。 ◎学内における学術情報の流通及び学外への情報発信を充実・強化するため、学内情報関連施設との連携・協力を図る。 ◎学術コミュニケーション環境を改善するため、国内外の関連機関と連携・協力する。 ◎大学の地域貢献の一環として、地域の文化の振興に寄与し、地域住民の生涯学習を支援するとともに、広く国内外の学術研究の発展に貢献する。</p>		
<p>3. 附属図書館の教育研究支援の質の向上に関する目標</p> <p>(1) 学習・教育支援に関する目標 ○学生の学習・教育に必要な図書館資料の充実</p> <p>○留学生及び国際化対応サービスの充実</p> <p>◎利用者の情報活用能力及び情報倫理の涵養</p> <p>(2) 研究支援に関する目標 ◎学術研究コンテンツの整備を推進 ○特殊コレクションの拡充 ○研究者支援サービスの充実</p> <p>(3) 社会貢献に関する目標 「6. 社会への説明責任に関する目標」を参照</p> <p>(6) 電子図書館的機能に関する目標 ○ネットワーク情報の利用環境の改善</p> <p>○所蔵資料へのアクセスの改善</p>	<p>1. 附属図書館の教育研究支援の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 学習・教育支援に関する目的を達成するためにとるべき措置 ○学生の課題探求能力の育成、新しい時代における教養の涵養等に対応して、教養的図書を含む学生のための蔵書構築を推進する。 ・本館・北分館の学生用図書をさらに各3万冊整備する。 ・シラバス掲載資料を本館・分館において網羅的に整備する。 ・マルチメディア資料6,000点を整備する。 ○留学生のためのビデオ、図書等の整備を行う。 ○留学生のための衛星放送受信チャンネルの拡大する。 ○体系的な情報リテラシー教育支援を実施する。</p> <p>(2) 研究支援に関する目的を達成するためにとるべき措置 ◎本学で利用可能な電子ジャーナルを10,000タイトル以上に拡大する。 ◎本学で利用可能な電子的参考図書(電子辞書、電子百科事典等)を300タイトル以上に拡大する。 ○電子ジャーナル、データベース等の利用方法について周知を図る。 ○研究者と連携して、北方関係資料及びその他コレクションについて調査・収集を行う。 ○ドキュメントデリバリーを含む学内図書相互利用(Intra-Library Loan)サービスを実施する。</p> <p>(6) 電子図書館的機能に関する措置 ○分散された多様なネットワーク情報資源の効率的検索・利用システムを構築する。 ○すべての蔵書についてOPACで検索可能とする。 ○北方関係資料の電子化を推進する。</p>	<p>1. 附属図書館の教育研究支援の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 学習・教育支援に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○教養教育を支援するため、学生のための蔵書構築のあり方について検討する。 ○本館・北分館に新刊書各6,000冊を整備する。 ○北分館において、CD-ROM、DVD等のマルチメディア資料1,000点を整備する。</p> <p>○情報リテラシー教育支援プログラムを開発する。</p> <p>(2) 研究支援に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○利用可能な電子的参考図書を100タイトル整備する。 ○各種利用説明会を開催する。</p> <p>(6) 電子図書館的機能に関する目標を達成するために取るべき措置 ○システム構築のための要求要件、必要なソフトウェアの調査・検討を行う。 ○北方関係資料55,000点の画像データを作成する。</p>
<p>4. 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>(1) 運営体制の改善に関する目標 ◎学内図書業務・図書館運営の効率化、円滑化、高度化</p> <p>(4) 事務等の効率化・合理化に関する目標 ◎図書資料資産管理の適正化</p>	<p>2. 業務運営の改善及び効率化に関する措置</p> <p>(1) 運営体制の改善に関する措置 ◎全学の事務組織の見直しのなかで全学の図書館組織を一元化を図る。 ◎全学の図書受入、雑誌受入、目録業務を集約化する。 ◎全学の図書館機能の高度化を図る。</p> <p>(4) 事務等の効率化・合理化に関する措置 ◎平成18年度までに図書資産管理データベースを構築する。</p>	<p>2. 業務運営の改善及び効率化に関する措置</p> <p>(1) 運営体制の改善に関する措置 ◎全学図書館組織案を策定し、全学の合意を得る。 ○本館及び分館の管理業務を集約する。</p> <p>(4) 事務等の効率化・合理化に関する措置</p>
<p>5. 財務内容の改善に関する目標</p> <p>(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標 ◎財政基盤の強化</p> <p>(3) 学術情報の全学的整備に関する目標 ◎全学的な学術研究コンテンツの整備</p>	<p>3. 財務内容の改善に関する措置</p> <p>(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する措置 ◎全学的見地から図書館維持費及び資料費の財源の拡充を図る。 ○学外者による図書館支援制度を設け、寄付やボランティア参加等図書館に対する地域住民の理解と支援を得る。</p> <p>(3) 学術情報の全学的整備に関する措置 ◎平成18年度までに、学術研究コンテンツ整備のための財源のあり方について見直しを行う。</p>	<p>3. 財務内容の改善に関する措置</p> <p>(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する措置</p> <p>(3) 学術情報の全学的整備に関する措置</p>

中期目標	中期計画	平成16年度計画
<p>6. 社会への説明責任に関する目標</p> <p>(1) 点検・評価の充実に関する目標 ○自己点検・外部評価の実施及び公表</p> <p>(2) 情報公開等の推進に関する目標 ○図書館資料の公開</p> <p>(3) 情報の発信・提供に関する目標 ◎学術情報発信・提供機能の強化</p>	<p>4. 社会への説明責任に関する措置</p> <p>(1) 点検・評価の充実に関する措置 ○利用者の満足度調査を含む外部評価を実施し、結果を広く公開する。 ○評価指標に基づき種々の統計項目について評価を行い、その結果をホームページ等で公表する。</p> <p>(2) 図書館の開放に関する措置 ○本学の貴重資料の電子化を進め、インターネットにより公開する。 ○展示会等を通じて本学所蔵資料を紹介する。 ○図書館活動、図書館資料等に関連した講演会を実施する。</p> <p>(3) 情報の発信・提供に関する措置 ◎学術情報ポータルを整備し、大学の研究成果等への学外からの効率的・効果的なアクセスを可能とするとともに、学外からの学術情報に関する質問をインターネット等を活用して受け付けるデジタルレファレンスサービスを実施する。</p>	<p>4. 社会への説明責任に関する措置</p> <p>(1) 点検・評価の充実に関する措置</p> <p>(2) 図書館の開放に関する措置 ○企画展を開催する。 ○企画展に併せて市民対象の講演会を開催する。</p> <p>(3) 情報の発信・提供に関する措置</p>
<p>7. その他の重要目標</p> <p>(1) 施設設備の整備などに関する目標 ◎図書館施設・設備の充実及び高度化</p> <p>(2) 安全管理に関する目標 ○防災・防犯体制の強化</p> <p>(3) 図書館資料の保存に関する目標 ◎図書館資料の効率的保存</p> <p>○貴重な知的資産の継承</p> <p>(4) 大学史料に関する目標 ◎大学史料の保存と利用環境の整備</p> <p>(5) 研究開発機能に関する目標 ○研究開発体制の整備</p> <p>(6) 学外機関との連携に関する目標 ○学外関連機関との共同事業の推進</p>	<p>5. その他の重要目標に関する措置</p> <p>(1) 施設設備の整備などに関する措置 ○本館の全面改修を実施し、電子図書館の機能の強化、研究対応施設、閲覧スペースの拡大、取蔵スペースの拡大を図る。 ◎全学的な図書館施設整備計画に基づき増築を実現する。 ○北分館について閲覧室・書庫等の改修を行い、利用環境の改善を図る。 ◎平成17年度までに、資料の一元的取蔵計画を策定する。 ○学習環境を改善するため、本館及び分館の閲覧机・椅子を更新する。 ○ネットワーク情報資源の利用環境を整備するため、施設改修にあわせて情報コンセント及び利用者用PCを増強する。</p> <p>(2) 安全管理に関する措置 ○災害時に職員が的確・迅速に対応できる体制を整備する。</p> <p>(3) 図書館資料の保存に関する措置 ◎電子的なアクセスを確保しつつ、全学的な観点から効率的な図書館資料の保存を行う。 ○佚さない和装本について佚を作成する。 ○貴重資料、古典資料について、裏打ち、糸綴じ、表装など必要な補修を行うとともに資料の劣化対策を講じる。</p> <p>(4) 大学史料に関する措置 ◎大学史料室を設置する。</p> <p>(5) 研究開発機能に関する措置 ◎調査研究室を設置して、情報リテラシー担当、北方関係資料・大学史料担当及びスラップ資料担当の助教授、助手を配置し、プロジェクト型研究開発を推進する。</p> <p>(6) 学外機関との連携に関する措置 ○道内大学図書館と共同取蔵施設の可能性について協議する。 ○道内関係機関とのデジタル情報の作成・利用についての共同事業について進める。</p>	<p>5. その他の重要目標に関する措置</p> <p>(1) 施設設備の整備などに関する措置 ○業務統合により文学研究科等から移管される資料を取蔵するため、本館の取蔵スペースを拡大し、電動式集書架を設置する。 ○全学の図書館施設計画は平成16年度までに作成する。</p> <p>(2) 安全管理に関する措置 ○本館・分館において防災訓練を実施する。</p> <p>(3) 図書館資料の保存に関する措置 ○JSTOR等のアーカイブ型電子ジャーナルで提供される雑誌について重複バックナンバーを処理する。 ○1,000点の資料について佚を整備する。</p> <p>(4) 大学史料に関する措置 ◎図書館に大学史料室(University Archives)を設置することについて検討する。</p> <p>(5) 研究開発機能に関する措置 ◎調査研究室の設置、助教授、助手定員の配置について検討する。</p> <p>(6) 学外機関との連携に関する措置</p>

## B 大学図書館評価指標データ集

1. 本資料は、「大学図書館における評価指標報告書(国立大学図書館協議会 法人格取得問題に関する附属図書館懇談会 図書館評価指標 WG)」で設定された評価指標に従い、主に収集レベル L 1 (基礎評価レベル) の評価指標についてデータを収集した。

- ※ L 1 : 基礎評価レベル
  - ① 大学図書館の活動の概要を示す基礎的な統計数字及び評価指標。
  - ② このレベルの大半のものは国内及び国際的な比較が容易である。
  - ③ 大学の透明性を確保し、学内及び社会へのアカウントビリティ(説明責任)を果たすためにも積極的に公開することが望ましい評価指標。
- ※ L 2 : 必須的選択レベル 目標を設定する際、及び設定した目標の達成度を評価する際にその根拠を示すことが必須であると考えられる評価指標。
- ※ L 3 : 選択レベル 目標の達成度を評価する際に、その根拠として示すことでより説得力を持つと考えられる評価指標。

2. 使用しているデータは、「平成 14 年度 2002 北海道大学概要」、「平成 14 年度 大学図書館実態調査」及び当小委員会が平成 14 年 10 月実施した「部局図書室調査」によるものである。





# 1 大学・図書館規模

## 1.1 大学規模 (平成 13 年度)

区 分	金額 (千円)
予算規模	81,037,000

区 分	研究科	学部	附置研究所	全国共同利用施設	学内共同教育研究施設等
学部規模	14	12	3	3	12

区 分	札幌	函館
キャンパス	1	1

### 学生数

(14.5.1 現在)

区 分	学部在籍者数等		大学院在籍者数等			研究生等	医技短学生	合 計
	在 籍 者	聴講生等	在 籍 者		聴講生等			
			前期	後期				
函館キャンパス	435	7	208	118	7		775	
札幌キャンパス	10,191	184	3,124	2,223	286	69	632	16,709
全キャンパス	10,626	191	3,332	2,341	293	69	632	17,484

### 職員数

(14.5.1 現在)

職 種	職 員 数		
	大 学	医技短	合 計
総 長	1		1
教 授	677	20	697
助 教 授	628	17	645
講 師	119	5	124
助 手	658	16	674
小 計	2,083	58	2,141
事務官・技官	1,918	11	1,929
合 計	4,001	69	4,070

## 利用対象者数

(14.5.1 現在)

区 分	学生数	教員数	合 計
函館キャンパス	775	96	871
札幌キャンパス	16,709	2,045	18,754
全キャンパス	17,484	2,141	19,625

## 1.2 図書館規模 (本館・分館・部局図書室)

区 分	蔵書冊数	雑誌種類数	図書館・室数	図書館施設面積	図書館職員数
図書館規模	3,394,915	73,053	40	37,025m <sup>2</sup>	111

※「蔵書冊数」・「雑誌種類数」は平成14年3月31日現在。

※「図書館・室数」「図書館施設面積」は平成14年10月28日現在。

※「図書館職員数」は平成14年5月1日現在。

## 2 利用者サービス (平成13年度)

### 2.1 利用対象者当たりの平均来館数 (L1)

区 分	延べ入館者数	利用対象者数	平均来館数
本 館	400,464人	19,625人	20.41回
分 館	611,437人	19,625人	31.16回
合 計	1,011,901人	19,625人	51.56回

### 2.2 有人サービス・ポイント数 (L1)

有人サービス・ポイント数	5カ所 (本館4、分館1)
--------------	---------------

備考：有人サービス・ポイントとは、総合案内カウンター、貸出カウンター、参考調査カウンター、複写サービスカウンターなど、通常の開館時間内に有人であるサービス・ポイントを示す。

### 2.3 利用対象者当たりの平均貸出冊数 (L1)

区 分		年間の貸出総冊数	利用対象者数	平均貸出冊数
本 館	学 生	101,400冊	16,709人	6.07冊
	教 官	17,344冊	2,045人	8.48冊
	計	118,744冊	18,754人	6.33冊
分 館	学 生	84,949冊	16,709人	5.08冊
	教 官	3,835冊	2,045人	1.88冊
	計	88,784冊	18,754人	4.73冊
合 計	学 生	186,349冊	16,709人	11.15冊
	教 官	21,179冊	2,045人	10.36冊
	計	207,528冊	18,754人	11.07冊
全キャンパス	学 生	249,449冊	17,484人	14.27冊
	教 官	30,463冊	2,141人	14.23冊
	計	279,912冊	19,625人	14.26冊

## 2.4 学内における利用対象者当たりの平均ILL依頼件数（L2）

区 分	年間のILL利用件数	利用対象者数	平均ILL利用件数
本 館	3,395件	19,625人	0.173件
分 館	247件		0.013件
合 計	3,642件		0.186件
全キャンパス	19,560件		0.997件

## 2.5 学外との間のILL受付件数と依頼件数の割合（L1）

	区 分	ILL依頼数	ILL受付数	依頼数／受付数
本 館	現物貸借	597件	2,163件	0.28
	文献複写	2,798件	7,115件	0.39
分 館	現物貸借	130件	420件	0.31
	文献複写	117件	242件	0.48
合 計	現物貸借	727件	2,583件	0.28
	文献複写	2,915件	7,357件	0.40
全キャンパス	現物貸借	1,933件	3,624件	0.53
	文献複写	17,627件	28,577件	0.62

## 3 資源（平成13年度）

### 3.1 利用対象者当たりの蔵書冊数、年間購入図書及び購読雑誌数（L1）

区 分	冊 数 等	学生当たり	教官当たり	利用対象者当たり
蔵 書 冊 数	3,394,915冊	194.17冊	1,585.67冊	172.99冊
年間購入図書	39,008冊	2.23冊	18.22冊	1.99冊
年間購読雑誌数	9,474誌	0.54誌	4.43誌	0.48誌

備考：利用対象者数 19,625人 うち、学生 17,484人、教員 2,141人

### 3.2 資料の図書館に配置している割合（L2）

区 分	蔵 書 冊 数	図書館配置	研究室配置	図書館配置の割合
本 館	1,246,174冊	1,185,732冊	60,442冊	95.2%
分 館	270,629冊	236,278冊	34,351冊	87.3%
合 計	1,516,803冊	1,422,010冊	94,793冊	93.8%
全キャンパス	3,394,915冊	2,336,981冊	1,018,633冊	68.8%

### 3.3 OPACデータ入力率（L1）

区分	蔵書 (a)	NACSIS-CAT 入力対象外(b)	NACSIS-CAT 入力済(c)	その他の電子化 目録(d)	OPACデータ入力率 $c + d / a - b$
図書	339.5万冊	100.0万冊	168.1万冊	0万冊	70.19%
雑誌	30,624点	—	28,098点	0点	98.94%
電子的資料	127点	—	127点	0点	100.00%

## 4 管理運営（平成13年度）

### 4.1 図書系職員当たりの利用対象者数（L1）

区分	職員数	職員当たり 学生数	職員当たり 教官数	職員当たり 利用対象者数
全図書系職員数	135.5人	129.03人	15.80人	144.83人
図書館（本館・分館）職員数	51.5人	339.50人	41.57人	381.07人

備考：

- 1) 全図書系職員数 135.5人 うち、常勤 111人、非常勤 24.5人（フルタイム換算）
- 2) 図書館（本館・分館）職員数 51.5人 うち、常勤 39人、非常勤 12.5人（フルタイム換算）
- 3) 併任の館長・図書館長は含まない（2人）。

### 4.2 図書系職員当たりの蔵書数・図書受入冊数・雑誌受入数（L1）

区分	職員数	職員当たり 蔵書数	職員当たり 図書受入冊数	職員当たり 雑誌受入種類数
全図書系職員数	135.5人	25,054.72冊	506.11冊	155.54種類
図書館（本館・分館）職員数	51.5人	65,920.68冊	1,331.61冊	409.22種類

### 4.3 図書系職員の職務内容別内訳（L1）

区分	管理職	総務系	受入目録系	サービス系	システム系	業務全般	その他
全図書系職員数	8人	5.75人	36.75人	29.75人	2人	47.25人	8人
配置の割合	5.82%	4.18%	26.73%	21.64%	1.45%	34.36%	5.82%
図書館（本館・分館）職員数	8人	4.75人	14人	17.25人	2人	2人	5.5人
配置の割合	14.95%	8.88%	26.17%	32.24%	3.74%	3.74%	10.28%

備考：

- 1) この指標については、併任の館長・副館長（2人）を含み、全図書系職員数は138人、図書館職員数は53.5人とした。
- 2) 「業務全般」は、少人数のため、業務分掌が不明確又は業務分担がなく、業務全般に従事する者の区分。
- 3) 「その他」は、「総務系」から「業務全般」以外の業務に従事する者の区分。

#### 4.4 利用対象者当たりの図書館面積・閲覧座席数（L1）

区 分		面積・座席数	学生当たり	教官当たり	利用対象者当たり
本 館	図書館面積	17,342m <sup>2</sup>	1.04m <sup>2</sup>	8.48m <sup>2</sup>	0.92m <sup>2</sup>
	閲覧座席	658席	0.04席	0.32席	0.04席
分 館	図書館面積	5,046m <sup>2</sup>	0.30m <sup>2</sup>	2.47m <sup>2</sup>	0.27m <sup>2</sup>
	閲覧座席	555席	0.03席	0.27席	0.03席
合 計	図書館面積	22,388m <sup>2</sup>	1.34m <sup>2</sup>	8.10m <sup>2</sup>	1.19m <sup>2</sup>
	閲覧座席	1,213席	0.07席	0.31席	0.06席
全キャンパス	図書館面積	37,373m <sup>2</sup>	2.14m <sup>2</sup>	17.46m <sup>2</sup>	1.90m <sup>2</sup>
	閲覧座席	1,985席	0.11席	0.93席	0.10席

#### 4.5 開館状況（L1）

区分	年 間		毎 週	休 日		時 間 外	
	開館日数	開館時間数	開館時間数	開館日数	年間開館日数 に対する割合	開館時間数	年間開館時間数 に対する割合
本 館	347日	3,654時間	80時間	104日	29.97%	930時間	25.45%
分 館	343日	3,634時間	80時間	100日	29.15%	940時間	25.87%

### 5 予算（平成13年度）

#### 5.1 大学総経費に占める図書館総経費の割合（L1）

大学総経費	図書館総経費	図書館総経費の割合
81,037,000千円	2,322,440千円	2.87%

#### 5.2 利用対象者当たりの図書館総経費（L1）

区 分	金 額	学生当たり	教官当たり	利用対象者当たり
図書館総経費	2,322,440千円	132,832円	1,084,745円	118,340円

#### 5.3 図書館総経費に占める運営費の割合（L1）

図書館総経費 (千円)	図 書 館 運 営 費 (千円)				
	人 件 費	外部委託費	賃 借 料	そ の 他	運営費計
2,322,440	815,729	66,019	44,877	117,510	1,044,135
割 合	35.12%	2.84%	1.93%	5.06%	44.96%

- 備考：
- 1) 人件費は、職員給与及び賃金・謝金を計上している。
  - 2) その他は、備品費、消耗品費、光熱水料、通信運搬費等が含まれる。

#### 5.4 図書館総経費に占める資料費の割合・資料費の構成割合（L1）

区 分	図書購入費	雑誌購入費	電子資料費	そ の 他	資料費計
金額（千円）	432,580	556,292	24,622	264,811	1,278,305
構 成 比	33.84%	43.52%	1.93%	20.72%	100.01%
図書館総経費に占める資料費の割合 55.04%					

備考：

- 1) CD-ROM等の資料は、図書購入費もしくは雑誌購入費に計上されている場合がある。
- 2) 電子資料費には、Web of Science 初期導入経費を含む。

#### 5.5 利用対象者当たりの図書館資料費（L1）

区 分	金 額	学生当たり	教官当たり	利用対象者当たり
図書館資料費	1,278,305千円	73,112円	597,059円	65,136円
図書購入費	432,580千円	24,741円	202,045円	22,042円
うち、学生用図書	51,458千円	2,943円	—	—
雑誌購入費	556,292千円	31,817円	259,828円	28,346円
電子資料費	24,622千円	1,408円	11,500円	1,254円
その他の資料費	264,811千円	15,145円	123,685円	13,493円

備考：利用対象者数 19,625人 うち、学生 17,484人、教員 2,141人

## 6 図書館活動（平成13年度）

※図書館（本館・分館）で開催したガイダンス等の集計を行う。

### 6.1 図書館ガイダンス（開催回数、時間数、参加人数）（L1）

ガイダンスの種別	回数	時間	人数
利用案内（館内ツアー・OPACを中心とするもの）	2	2	15
資料探索法（書誌目録・データベース・ILLなど）	75	112.5	1,050
データベースの利用に関するもの	2	3	97
電子ジャーナルの利用に関するもの	4	5	23
合 計	83	122.5	1,185
利用対象者19,625人に対する比率 6.04%、16.56人に1人が参加			

備考：利用対象者に対する何らかのオリエンテーションを実施している部局図書室等は、38図書室中13図書室。

## 6.2 展示会・講演会等の開催とその参加人数（L2）

展示会・講演会等の名称等（記載例）	日 数	参加人数	備 考
北海道大学創基 125 周年記念事業講演会	1 日	54人	
同 特別展示階	1 日	5,479人	うち、学外者 4,000 人(推計)
企画展（常設）		—	展示品入替 2 回
北方資料展示コーナー（常設）		—	展示品入替は不定期
北海道大学沿革資料展示室（常設）		—	展示品入替は不定期

## 6.3 図書館の広報及び出版活動（L1）

刊行物の名称等	年間発行回数	部 数	備 考
楡陰（図書館報）	3 回	4,000部	
楡陰レター	12回	3,200部	
利用案内	不定期		日本語版の他、英語、中国語、韓国語版を発行
Guide to Hokkaido University Library	1 回	800部	
特別展示用カタログ（3 種類）	単発	1,000部	
概要	1 回	1,000部	

## 7 電子図書館サービス

### 7.1 資源

#### 7.1.1 図書館が電子化している電子的コレクションの規模（L1）

電子的コレクション名	タ イ プ	件数
北方資料データベース	テキスト+視覚資料（画像）	62,673点
北方古地図	テキスト+視覚資料（画像）	26点

#### 7.1.2 フルテキスト電子ジャーナルの数（L1）

※平成 14 年度分契約で集計を行う。

提供者（ベンダー）	タイトル数	備 考
Blackwell	662	
Elsevier	1,351	
IEEE	112	
JSTOR	165	
Springer	490	
Wiley	399	
その他	390	
合 計	3,569	



### 7.1.3 電子レファレンスの種類数 (L 1)

※平成14年度分契約で集計を行う。

提供者 (ベンダー)	種類数	備 考
ISI	2	Web of Science、JCR
紀伊國屋書店	6	OED、BAonCD、MLA International Bibliography、PsycINFO、医学中央雑誌、雑誌記事索引
化学情報協会	1	CA on CD
ユサコ	2	Current Contents、Medline
スエッツ	1	SwetScan
丸善	1	Book Review Digest
道新メディック	1	北海道新聞記事データベース
三省堂	1	朝日新聞記事データベース
その他、スタンドアロンで利用できるもの	13	
合 計	28	

## 7.2 管理運営

### 7.2.1 図書館コンピュータ用途別端末台数 (本館・分館) (L 1) :

コンピュータ端末種別		台数	備 考
本館	OPAC	54	
	情報検索	74	
分館	OPAC	6	
	情報検索	76	情報メディア教育研究総合センター設置管理36台
	スタンドアロンCD-ROM	7	
合 計		217	

### 7.2.2 利用対象者当りの図書館コンピュータ端末台数 (全学) (L 1)

図 書 館 名	台数	利 用 対象者数	千人当たり
本 館	46	18,754	2.45台
分 館	89	18,754	4.74台
合 計	135	18,754	7.20台
全 キ ャ ン パ ス	209	19,625人	10.65台

### 7.3 サービス

※全部局のログイン数等の集計を行う。

#### 7.3.1 電子データベースのログイン（セッション）数（L1）

別表1参照。

#### 7.3.2 電子データベースのリジェクトセッション数と総試行回数に対する比率（L1）

別表1参照。

#### 7.3.3 電子データベースの質問（検索）数とログイン当たりの質問数（L2）

別表1参照。

#### 7.3.4 図書館（本館・分館・部局図書室）各ホームページへのアクセス数（L1） (13.7~14.6)

		学内	学外	合計	備考
本館	回数	715,853	138,137	853,990	
	割合	83.82%	16.18%		
分館	回数	23,940	4,809	28,749	
	割合	83.27%	16.73%		
部局全体	回数	139,390	54,836	194,226	
	割合	71.77%	28.23%		
利用対象者 19,625 人 1 人当たりのアクセス数 本館：36.5 回、分館：1.2 回、部局平均：0.4 回					

備考：集計部局は、図書館 WWW サーバー上で公開している 17 部局。

#### 7.3.5 図書館目録（OPAC）へのアクセス数（L1） (平成13年度)

	学内	学外	合計	備考
OPACセッション数	469,068	48,043	517,111	
割合	90.71%	9.29%	100%	
OPAC検索回数	5,491,069	471,180	5,962,249	
割合	92.10%	7.90%	100%	
セッション当たり検索回数	11.71	9.81	11.53	
利用対象者 19,625 人 1 人当たりのセッション数 23.90 回、検索回数 279.80 回				

別表1

データベース名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
(オンラインCD-ROMデータベース)													
Medline	1,482	1,770	1,647	1,321	1,136	1,246	1,326	1,614	1,355	1,207	1,261	969	16,334
	プロジェクト数												
	総試行回数に対するプロジェクト数比率												
	検索数												
	1セッション当たりの回数												
Current Contents	1,991	2,551	2,262	1,654	1,303	1,654	2,431	2,389	1,538	1,537	1,582	1,128	22,020
	プロジェクト数												
	総試行回数に対するプロジェクト数比率												
	検索数												
	1セッション当たりの回数												
CA on CD	2,545	3,162	2,918	2,562	2,547	2,580	3,167	2,338	1,340	2,238	2,324	1,949	29,670
	プロジェクト数												
	総試行回数に対するプロジェクト数比率												
	検索数												
	1セッション当たりの回数												
BA on CD	1,274	1,505	1,290	815	753	1,110	1,287	1,340	1,075	1,301	1,080	762	13,592
	プロジェクト数	415	77	144	57	3	23	22	41	11	4	2	860
	総試行回数に対するプロジェクト数比率	25	5	10	7	0	2	2	3	1	4	0	6
	検索数	98,004	101,727	92,071	62,321	52,770	103,551	100,584	115,896	96,720	103,695	85,009	994,444
	1セッション当たりの回数	76.9	67.6	71.4	76.5	70.1	93.3	78.2	86.5	90.0	79.7	78.7	105.1
PsychINFO	244	262	314	203	213	157	363	278	271	172	207	208	2,892
	プロジェクト数	99	97	140	103	19	1	0	0	0	0	0	459
	総試行回数に対するプロジェクト数比率	29	27	31	34	8	1	0	0	0	0	0	14
	検索数	9,795	10,440	10,151	5,625	4,376	3,384	10,510	9,712	8,390	4,426	9,902	8,238
	1セッション当たりの回数	40.1	39.8	32.3	27.7	20.5	21.6	29.0	34.9	31.0	25.7	47.8	39.6
MLA International Bibliography	54	86	86	87	65	27	43	35	23	18	14	6	544
	プロジェクト数	3	10	7	3	4	2	8	0	2	0	0	47
	総試行回数に対するプロジェクト数比率	5	10	8	3	6	7	16	0	26	10	0	8
	検索数	663	1,280	495	2,093	282	181	546	223	243	182	171	5,773
	1セッション当たりの回数	12.3	14.9	5.8	24.1	4.3	6.7	12.7	6.4	10.6	10.1	12.2	12.8
Book Review Digest	42	36	36	31	36	19	19	15	15	7	7	6	269
	プロジェクト数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総試行回数に対するプロジェクト数比率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	検索数	88	219	124	244	98	47	67	39	19	20	34	958
	1セッション当たりの回数	2.1	6.1	3.4	7.9	2.7	2.5	3.5	2.6	3.1	2.7	2.9	3.6
医学中央雑誌	1,514	1,773	1,832	1,417	1,359	1,287	1,841	1,319	1,324	1,584	1,357	1,201	17,808
	プロジェクト数												
	総試行回数に対するプロジェクト数比率												
	検索数												
	1セッション当たりの回数												
(Web系データベース)													
Web of S (H13.11.9より試行、H14.1導入)								2,229	2,931	4,106	3,514	2,963	15,743
	セッション数							68	106	648	480	217	1,519
	プロジェクト数							3	3	14	12	7	9
	総試行回数に対するプロジェクト数比率							9,033	15,909	20,445	16,788	16,387	78,562
	検索数							4.1	5.4	5.0	4.8	5.5	5.0
	1セッション当たりの回数							1,269	1,273	1,028	1,276	1,082	6,528
JCR (H13.11.9より試行、H14.1導入)								0	0	0	0	0	0
	セッション数							0	0	0	0	0	0
	プロジェクト数							812	836	1,200	807	653	4,308
	総試行回数に対するプロジェクト数比率							0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.7
	検索数												
	1セッション当たりの回数												
SD	9,487	12,315	11,251	7,439	6,529	6,627	10,233	9,622	7,955	8,860	8,506	7,459	106,283
	セッション数												
	プロジェクト数												
	総試行回数に対するプロジェクト数比率												
	検索数	9,028	12,193	11,789	9,033	7,263	8,769	13,725	12,709	8,131	8,950	8,766	107,954
	1セッション当たりの回数	1.0	1.0	1.0	1.2	1.1	1.3	1.3	1.3	1.0	1.0	0.9	1.0
医学中央雑誌WEB版	316	486	479	418	314	418	632	653	470	584	521	423	5,714
	セッション数												
	プロジェクト数	22	45	177	149	161	91	248	244	188	279	141	1,845
	総試行回数に対するプロジェクト数比率	7	8	27	26	34	18	28	27	29	32	21	24
	検索数	1,945	3,161	3,568	3,317	2,427	3,163	4,823	4,980	3,286	4,777	4,279	41,705
	1セッション当たりの回数	6.2	6.5	7.4	7.9	7.7	7.6	7.6	7.6	7.0	8.2	8.2	7.3
合計	18,949	23,946	22,115	15,947	14,255	15,125	21,342	23,101	19,570	23,242	21,640	18,156	237,397
	セッション数												
	プロジェクト数	539	229	468	312	187	117	278	353	313	990	625	4,730
	総試行回数に対するプロジェクト数比率	3	1	2	2	1	1	2	2	2	4	3	2
	検索数	119,523	129,020	118,198	82,633	67,216	119,095	130,255	153,404	133,562	143,694	125,742	1,318,858
	1セッション当たりの回数	6.3	5.4	5.3	5.2	4.7	7.9	6.1	6.6	6.2	5.8	6.4	5.6

備考

- ・セッション数：ログイン数
- ・プロジェクト数：同時ログインの制限を越えた数
- ・総試行回数：セッション数+プロジェクト数

# C 平成14年度大学図書館実態調査



## 平成 14 年度大学図書館実態調査

図書館・図書室	定 員 数 (14.5.1)										非 常 勤 数 (14.5.1)													
	総数	管理職	一般		専 門				業務全般	その他		総数	一般 庶務・ 会計	専 門				業務全般	その他		フル・パート内訳			
			庶務・ 会計	情報 処理	受入	整理	閲覧	参考		複写	その他			情報 処理	受入	整理	閲覧		参考	複写	その他	フル	パート	フル 換算数
本館	31	5	4	2	5	4	3	4	2	2	2	1	0	2	1	5	1	0	2	0	2	10	7.50	
分館	8	1			1	1	3		2		4			1		3						4	3.00	
文学研究科図書室	6				1	2	1		1	1	0													
教育学研究科図書室	2								2		1									1		1	0.75	
経済学研究科図書室	2				1				1		1			1						1				
理学研究科図書室	4				2	1			1		1				1				1					
数学専攻図書室	2				1	1					1				1							1	0.75	
物理学専攻図書室	0										0													
化学専攻図書室	0										0													
生物専攻図書室	0										0													
高分子専攻図書室	0										0													
地球惑星科学専攻(地物)図書室	0										0													
地震火山研究観測センター	0										0													
理学研究科小計	6				3	2			1		2				2						1	1	0.75	
医学研究科図書室	5				2		1		2		3			1	2						2	1	0.75	
歯学研究科図書室	2								2		0													
薬学研究科図書室	2								2		0													
工学研究科図書室	10				4	1	1	2	2		0													
材料・化学系専攻図書室	2								2		0													
情報エレクトロニクス系専攻図書室	3								3		0													
物理工学系専攻図書室(機械)	1								1		0													
物理工学系専攻図書室(応物・数物)	2								2		0													
物理工学系専攻図書室(原子)	1								1		0													
社会工学系専攻図書室(土木分室)	1								0															
社会工学系専攻図書室(建築分室)	1								0															
社会工学系専攻図書室(資源分室)	1								0															
社会工学系専攻図書室(衛生分室)	1								0															
工学研究科小計	23				4	1	1	2	15		0													
農学研究科図書室	7				2	1	1	1	2		0													
農業経済学科図書室	1								1		1								1			1	0.75	
農学研究科小計	8				2	1	1	1	3		1								1			1	0.75	
北方生物圏フィールド科学センター(耕地園)	0										1								1			1	0.75	
北方生物圏フィールド科学センター(森林園)	0																							
獣医学研究科図書室	2								2		0													
水産学研究科図書室	4				1	1		1	1		1				1							1	0.75	
地球環境科学研究科図書室	2								2		0													
全学教育支援室人文辞書資料室	1								1		1								1					
低温科学研究所図書室	1								1		1											1	0.75	
電子科学研究所図書室	1								1		1											1	0.75	
遺伝子病制御研究所図書室	0										1											1		
触媒化学研究センター図書室	1								1		0													
スラブ研究センター図書室	1								1		0													
大型計算機センター																								
先端科学技術共同研究センター																								
情報メディア教育研究総合センター	0										0													
総合博物館	1		1								0													
医療技術短期大学部図書室	2								2		0													
事務局																								
合 計	111	6	5	2	20	12	10	8	43	3	2	30	1	0	4	2	13	1	5	3	1	8	22	16.50

注1「複写」……電子複写、マイクロフィルム等による図書・雑誌等の複写の業務に従事している者

2「その他」……「一般」「専門」「業務全般」及び「複写」以外の業務に従事している者

○フル……8時間勤務の非常勤職員 パート……6時間勤務の非常勤職員

## 平成14年度大学図書館実態調査

図書館・図書室	定員数(14.5.1)										非常勤数(14.5.1)												
	総数	年齢別内訳								男女別内訳		総数	年齢別内訳								男女別内訳		
		20歳以下	21～25	26～30	31～35	36～45	46～55	56～63	64歳以上	男	女		20歳以下	21～25	26～30	31～35	36～45	46～55	56～63	64歳以上	男	女	
本館	31	0	1	7	4	5	10	4		17	14	12	0	7	3	0	1	0	1	0			12
分館	8	0	0	2	2	0	2	2		5	3	4	0	2	1	1	0	0	0	0			4
文学研究科図書室	6			2	1	1	2			1	5	0											
教育学研究科図書室	2			1			1			1	1	1		1									1
経済学研究科図書室	2							2		1	1	1					1						1
理学研究科図書室	6			2	2		2			2	4	2					1		1				2
数学専攻図書室	2			1	1						2	1					1						1
物理学専攻図書室	0											0											
化学専攻図書室	0											0											
生物専攻図書室	0											0											
高分子専攻図書室	0											0											
地球惑星科学専攻(地物)図書室	0											0											
地震火山研究観測センター	0											0											
医学研究科図書館	5			1	1	0	2	1		1	4	3		1			1		1				3
歯学研究科図書室	2				1	1				2		0											
薬学研究科図書室	2				1		1			2		0											
工学研究科図書室	23		1	1	3	3	7	8		3	20	0											
材料・化学系専攻図書室	2						1	1			2	0											
情報エレクトロニクス系専攻図書室	3				1			2		1	2	0											
物理工学系専攻図書室(機械)	1							1			1	0											
物理工学系専攻図書室(応物・数物)	0						1	1			2	0											
物理工学系専攻図書室(原子)	0						1				1	0											
社会工学系専攻図書室(土木分室)	1							1			1	0											
社会工学系専攻図書室(建築分室)	0							1			1	0											
社会工学系専攻図書室(資源分室)	0						1				1	0											
社会工学系専攻図書室(衛生分室)	0							1			1	0											
農学研究科図書室	8		1	1	4		1	1		3	5	1											1
農業経済学科図書室	1				1						1	1			1								1
北方生物圏フィールド科学センター(耕地圏)	0											1				1							1
北方生物圏フィールド科学センター(森林圏)																							
獣医学研究科図書室	2				1		1				2	0											
水産学研究科図書室	4			1		1	2			1	3	1	1										1
地球環境科学研究科図書室	2					1	1			1	1	0											
全学教育支援室人文辞書資料室	1								1		1	1			1								1
低温科学研究所図書室	1						1			1	1	1											1
電子科学研究所図書室	1							1			1	1			1								1
遺伝子病制御研究所図書室	0											1						1					1
触媒化学研究センター図書室	1						1				1	0											
スラブ研究センター図書室	1				1					1		0											
大型計算機センター																							
先端科学技術共同研究センター																							
情報メディア教育研究総合センター	0											0											
総合博物館	1						1			1		0											
医療技術短期大学部図書室	2		1					1		1	1	0											
事務局																							
合計	111	0	4	18	21	12	35	21	0	44	87	30	1	12	7	2	3	0	5	0	0	0	30

※ 理・工・農の中央図書室のデータには専攻図書室のデータが含まれる。

## 平成14年度大学図書館実態調査

図書館・図書室	総面積	用途別面積(m <sup>2</sup> )								閲覧座席数		棚板延長(m)	書架収容可能冊数
		サービススペース					管理スペース		その他	総座席数	左のうち 教員用		
		全体	閲覧	視聴覚	情報端末	その他	書庫	事務					
本館	17,342	3,510	3,176	30	76	228	7,523	1,695	4,614	658	6	57,932	1,609,222
分館	4,698	2,081	1,866	0	141	74	1,435	177	1,005	555	0	10,682	296,722
文学研究科図書室	404	130	124	0	6	0	143	131	0	4	0	2,160	60,000
教育学研究科図書室	226	38	30	5	3	0	133	55	0	9	0	1,600	44,444
経済学研究科図書室	259	95	95	0	0	0	132	32	0	12	0	1,046	29,056
理学研究科図書室	1,486	506	450	0	16	40	821	130	29	121	0	9,549	265,246
数学専攻図書室	410	58	56	0	2	0	288	35	29	8	0	2,939	81,639
物理学専攻図書室	227	110	108	0	2	0	84	33	0	33	0	1,328	36,888
化学専攻図書室	27	24	24	0	0	0	3	0	0	12	0	25	694
生物専攻図書室	60	60	20	0	0	40	0	0	0	22	0	43	1,194
高分子専攻図書室	103	53	53	0	0	0	50	0	0	10	0	826	22,944
地球惑星科学専攻(地物)図書室	96	23	23	0	0	0	73	0	0	12	0	447	12,415
地震火山研究観測センター	25	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	331	9,194
専攻図書室合計	948	328	284	0	4	40	523	68	29	97	0	5,939	164,968
医学研究科図書館	2,057	654	415	18	48	173	921	288	194	110	6	7,873	218,694
歯学研究科図書室	289	77	71	0	6	0	177	30	5	28	0	1,650	45,833
薬学研究科図書室	273	68	68	0	0	0	181	24	0	33	0	1,252	34,778
工学研究科図書室	2,128	476	431	0	12	33	1,418	234	0	181	0	10,537	292,694
材料・化学系専攻図書室	280	82	80	0	2	0	170	28	0	26	0	2,088	58,000
情報エレクトロニクス系専攻図書室	253	150	130	0	4	16	76	27	0	28		810	22,500
物理工学系専攻図書室(機械)	69	29	28	0	1	0	31	9	0	8	0	254	7,056
物理工学系専攻図書室(応物・数物)	69	25	25	0	0	0	32	12	0	6	0	518	14,389
物理工学系専攻図書室(原子)	71	26	25	0	1	0	30	15	0	6	0	220	6,111
社会工学系専攻図書室(土木分室)	60	8	8	0	0	0	45	7	0	8	0	189	5,250
社会工学系専攻図書室(建築分室)	140	24	24	0	0	0	113	3	0	10	0	434	12,056
社会工学系専攻図書室(資源分室)	63	13	13	0	0	0	37	13	0	9	0	248	6,889
社会工学系専攻図書室(衛生分室)	63	50	50	0	0	0	0	13	0	25	0	258	7,167
専攻図書室合計	1,068	407	383	0	8	16	534	127	0	126	0	5,019	139,418
農学研究科図書室	1,279	246	161	0	9	76	749	125	159	41	2	7,289	202,472
農業経済学科図書室	326	57	55	0	2	0	258	10	1	13	2	1,344	37,333
北方生物圏フィールド科学センター(耕地圏)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北方生物圏フィールド科学センター(森林圏)													
獣医学研究科図書室	236	56	56	0	0	0	152	28	0	16	0	1,864	51,778
水産学研究科図書室	1,310	561	362	22	2	175	308	136	305	96	0	5,030	139,722
地球環境科学研究科図書室	202	100	70	0	15	15	70	32	0	16	0	448	12,444
全学教育支援室人文辞書資料室	118	18	18	0	0	0	45	35	20	8	8	716	19,889
低温科学研究所図書室	216	26	24	0	2	0	156	34	0	4	0	2,834	78,722
電子科学研究所図書室	291	67	55	0	12	0	147	48	29	12	0	1,352	37,556
遺伝子病制御研究所図書室	106	38	38	0	0	0	53	15	0	8	8	504	14,000
触媒化学研究センター図書室	195	55	41	0	6	8	110	30	0	12	0	765	21,250
スラブ研究センター図書室	565	199	189	7	3	0	236	86	44	11	0	1,653	45,917
大型計算機センター													
先端科学技術共同研究センター													
情報メディア教育研究総合センター	41	41	41	0	0	0	0	0	0	16	16	72	2,000
総合博物館	3,061	0	0	0	0	0	10	29	3,022	0	0	90	2,500
医療技術短期大学部図書室	243	113	102	7	4	0	100	30	0	34	0	1,312	36,444
事務局													
合  計	37,025	9,155	7,883	89	361	822	15,020	3,424	9,426	1,985	46	128,210	3,561,383

○理・工・農の中央図書館のデータには専攻図書室等のデータが含まれる。





## 平成14年度大学図書館実態調査

図書館・図書室	開館状況（平成13年度）						レファレンス利用状況（平成13年度）													
	年間開館日数			開館時間数			館外貸出冊数（平成13年度）			レファレンス利用者別内訳						業務内容別内訳				
	総日数 （日）	土曜 （日）	休日 （日）	土曜 （時間）	休日 （時間）	時間外 （時間）	総数 （冊）	学内		学外者 （冊）	総数 （件）	学内			総数 （件）	文献所在 （件）	事項調査 （件）	利用指導 （件）	その他 （件）	
本館	347	47	57	353	428	930	123,303	17,344	101,400	4,559	3,922	740	1,873	1,309	3,922	1,901	821	895	305	
分館	343	46	54	322	378	940	90,639	3,835	84,949	1,855	563	50	449	64	563	262	21	259	21	
文学研究科図書室	244	0	0	0	0	0	1,244	257	987	0	279	23	55	201	279	226	7	46	0	
教育学研究科図書室	247	0	0	0	0	0	780	87	693	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
経済学研究科図書室	243	0	0	0	0	0	903	283	488	132	836	283	450	103	836	399	181	88	168	
理学研究科図書室	243	0	0	0	0	0	1,316	208	1,021	87	383	71	221	91	383	198	114	25	46	
数学専攻図書室	245	0	0	0	0	0	6,720	1,860	4,560	300	1,750	500	1,000	250	1,750	1,400	100	250	0	
物理学専攻図書室	240	0	0	0	0	0	300	0	300	0	123	20	100	3	123	73	0	50	0	
化学専攻図書室	240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
生物専攻図書室	240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
高分子専攻図書室	240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地球惑星科学専攻（地物）図書室	240	0	0	0	0	0	34	5	20	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地震火山研究観測センター	240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医学研究科図書室	310	43	22	1,032	528	2,858	6,946	1,248	5,698	0	4,752	665	3,896	191	4,752	2,946	997	809	0	
歯学研究科図書室	293	40	0	240	0	894	8,704	1,331	7,373	0	1,050	300	700	50	1,050	900	100	50	0	
薬学研究科図書室	242	0	0	0	0	0	939	288	651	0	90	35	55	0	90	70	10	10	0	
工学研究科図書室	237	0	0	0	0	522	19,145	1,164	16,739	1,242	3,872	471	3,306	95	3,872	2,090	310	1,262	210	
材料・化学系専攻図書室	237	0	0	0	0	0	1,235	150	1,035	50	1,200	200	950	50	1,200	900	100	190	10	
情報エレクトロニクス系専攻図書室	237	0	0	0	0	0	108	45	63	0	132	37	95	0	132	90	42	0	0	
物理工学系専攻図書室（機械）	237	0	0	0	0	0	90	30	50	10	250	100	150	0	250	250	0	0	0	
物理工学系専攻図書室（応物・数物）	237	0	0	0	0	0	25	25	0	0	310	100	200	10	310	200	50	50	10	
物理工学系専攻図書室（原子）	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	50	150	0	200	100	50	50	0	
社会工学系専攻図書室（土木分室）	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150	35	115	0	150	100	50	0	0	
社会工学系専攻図書室（建築分室）	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,229	129	1,090	10	1,229	890	339	0	0	
社会工学系専攻図書室（資源分室）	237	0	0	0	0	0	23	10	10	3	15	5	10	0	15	15	0	0	0	
社会工学系専攻図書室（衛生分室）	237	0	0	0	0	0	153	35	103	15	120	75	45	0	120	80	40	0	0	
農学研究科図書室	238	0	0	0	0	516	4,788	172	4,616	0	569	87	417	65	569	256	123	190	0	
農業経済学科図書室	243	0	0	0	0	0	4,389	395	3,994	0	384	32	334	18	384	48	14	311	11	
北方生物圏フィールド科学センター（耕地圏）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北方生物圏フィールド科学センター（森林圏）	246	0	0	0	0	0	80	38	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
獣医学研究科図書室	245	0	0	0	0	0	1,912	297	1,615	0	498	96	374	28	498	329	75	94	0	
水産学研究科図書室	242	0	0	0	0	168	6,516	156	6,139	221	2,008	741	1,233	34	2,008	49	16	1,936	7	
地球環境科学研究科図書室	241	0	0	0	0	0	716	41	315	360	207	36	165	6	207	152	23	32	0	
全学教育支援室人文辞書資料室	245	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,500	2,500	0	0	2,500	150	2,350	0	0	
低温科学研究所図書室	243	0	0	0	0	0	387	179	208	0	290	50	240	0	290	230	40	20	0	
電子科学研究所図書室	245	0	0	0	0	0	205	69	136	0	129	59	60	10	129	67	36	26	0	
遺伝子病制御研究所図書室	245	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
触媒化学研究センター図書室	245	0	0	0	0	0	378	126	252	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
スラブ研究センター図書室	245	0	0	0	0	0	575	291	284	0	186	53	40	93	186	69	34	41	42	
大型計算機センター																				
先端科学技術共同研究センター																				
情報メディア教育研究総合センター	245	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総合博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医療技術短期大学部図書室	237	0	0	0	0	424	6,211	489	5,708	14	1,500	250	950	300	1,500	650	150	700	0	
事務局																				
合計							288,769	30,463	249,449	8,857	29,497	7,793	18,723	2,981	29,497	15,090	6,193	7,384	830	

※ 触媒化学センター図書室ではレファレンス利用状況の統計を取っていない。

平成 14 年度大学図書館実態調査

図書館・図書室	文献複写件数（平成13年度）					図書館間相互協力（平成13年度）															
	総数 (件)	利用者別内訳			複写形態 電子複写 (枚)	国 内												国 外			
		学内 (件)	学 外			図書・雑誌の貸借						文 献 複 写						図書・雑誌 の貸借		文献複写	
			大学図書 館 (件)	そ の 他 (件)		総 数		大 学 図 書 館		そ の 他		総 数		大 学 図 書 館		そ の 他		貸出 (冊)	借受 (冊)	貸出 (冊)	借受 (冊)
						貸出 (冊)	借受 (冊)	貸出 (冊)	借受 (冊)	貸出 (冊)	借受 (冊)	貸出 (冊)	借受 (冊)	貸出 (冊)	借受 (冊)	貸出 (冊)	借受 (冊)				
本館	7,136	21	5,496	1,619	59,639	2,159	517	2,029	478	130	39	7,089	1,982	5,496	1,447	1,593	535	4	80	26	816
分館	242	0	233	9	2,428	420	130	404	130	16	0	242	117	233	117	9	0	0	0	0	0
文学研究科図書室	1,477	99	1,318	60	15,722	499	801	464	750	35	51	1,374	1,761	1,318	1,552	56	209	0	0	0	0
教育学研究科図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学研究科図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学研究科図書室	10,589	7,902	2,424	263	136,549	82	96	66	85	16	11	2,687	1,353	2,424	1,122	263	231	0	0	0	0
数学専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	25	0	7	0	2	0	6
物理学専攻図書室	359	356	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
化学専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生物専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高分子専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地球惑星科学専攻（地物）図書室	580	580	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地震火山研究観測センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学研究科図書館	10,226	4,176	5,632	418	113,375	35	15	28	15	7	0	6,050	4,404	5,632	4,285	418	119	0	0	0	69
歯学研究科図書室	849	204	645	0	5,512	15	2	15	2	0	0	645	379	645	379	0	0	0	0	0	0
薬学研究科図書室	1,630	968	662	0	14,665	8	2	8	2	0	0	688	440	688	440	0	0	0	0	0	0
工学研究科図書室	7,027	5,620	1,316	91	101,069	103	139	97	139	6	0	1,407	1,512	1,316	1,298	91	214	0	0	0	61
材料・化学系専攻図書室	1,200	1,200	0	0	3,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報エレクトロニクス系専攻図書室	78	78	0	0	390	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
物理工学系専攻図書室（機械）	1,490	1,450	40	0	30,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
物理工学系専攻図書室（応物・数物）	185	185	0	0	925	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
物理工学系専攻図書室（原子）	274	156	98	20	6,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会工学系専攻図書室（土木分室）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会工学系専攻図書室（建築分室）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会工学系専攻図書室（資源分室）	29	15	12	2	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会工学系専攻図書室（衛生分室）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農学研究科図書室	2,100	170	1,922	8	13,159	148	44	142	44	6		1,930	1,655	1,922	1,402	8	253	0	0	0	0
農業経済学科図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北方生物圏フィールド科学センター（耕地圏）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北方生物圏フィールド科学センター（森林圏）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
獣医学研究科図書室	1,336	416	893	27	4,806	2	1	2	1	0	0	847	573	820	559	27	14	0	0	0	2
水産学研究科図書室	1,896	410	1,370	116	13,976	56	42	48	41	8	1	1,486	721	1,370	703	116	18	0	1	0	50
地球環境科学研究科図書室	859	405	439	15	11,386	16	18	14	18	2		454	866	439	826	15	40	0	0	0	0
全学教育支援室人文辞書資料室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
低温科学研究所図書室	1,039	354	685	0	10,458	3	2	3	2	0	0	685	185	685	185	0	0	0	0	0	0
電子科学研究所図書室	953	357	523	73	9,623	10	8	10	8	0	0	596	229	523	221	73	8	0	0	0	0
遺伝子病制御研究所図書室	330	0	330	0	1,892	0	0	0	0	0	0	237	93	237	93	0	0	0	0	0	0
触媒化学研究センター図書室	1,028	517	470	41	14,214	20	1	19	1	1	0	511	72	470	65	41	7	0	0	0	0
スラブ研究センター図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大型計算機センター																					
先端科学技術共同研究センター																					
情報メディア教育研究総合センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療技術短期大学部図書室	1,695	74	1,621	0	8,757	44	27	37	27	7	0	1,621	231	1,621	231	0	0	0	5	0	0
事務局																					
合 計	54,607	25,713	26,129	2,765	579,195	3,620	1,845	3,386	1,743	234	102	28,549	16,605	25,839	14,950	2,710	1,655	4	88	28	1,022

\* スラブ研究センター図書室の文献複写・相互協力は附属図書館に含まれる。

## 平成14年度大学図書館実態調査

図書館・図書室	資料費（平成13年度）（千円）							運営費（平成13年度）（千円）											
	総額	図書館資料費の内訳						その他	総額	図書館・室運営費の内訳									
		図 書		雑 誌						給 与	賃金・ 謝金	備品費	消耗 品費	印 刷 製本費	光熱 水料	通 信 運搬費	賃借料	その他	給与以外 の総額
		和	洋	和	洋														
		継続・新規		バックナンバー															
本館	182,707	45,387	75,167	9,724	24,799	559	27,071	464,214	266,046	45,644	7,471	8,740	6,589	16,902	5,091	42,199	65,532	198,168	
分館	60,601	28,792	9,597	3,617	4,995	0	13,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
文学研究科図書室	138,555	38,536	31,350	3,872	14,238	0	50,559	50,677	35,266	1,010	1,647	460	10,811	330	870	0	283	15,411	
教育学研究科図書室	21,985	0	0	4,754	7,861	0	9,370	18,780	15,200	1,423	0	150	975	375	170	108	379	3,580	
経済学研究科図書室	60,453	13,978	25,960	2,993	12,656	0	4,866	24,761	12,150	4,978	300	170	5,980	200	500	383	100	12,611	
理学研究科図書室	145,621	9,732	28,407	3,716	98,972	0	4,794	37,943	25,199	4,541	0	345	3,357	2,216	469	1,129	687	12,744	
数学専攻図書室	52,407	1,070	14,996	408	34,989	0	944	980	0	0	0	0	980	0	0	0	0	980	
物理学専攻図書室	23,674	1,062	3,835	656	17,518	0	603	615	0	0	0	0	615	0	0	0	0	615	
化学専攻図書室	15,198	363	2,091	242	12,149	0	353	391	0	0	0	39	352	0	0	0	0	391	
生物専攻図書室	10,280	546	3,984	242	5,375	0	133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
高分子専攻図書室	7,882	279	2,066	329	5,090	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地球惑星科学専攻（地物）図書室	10,832	3,721	510	416	5,920	0	265	290	0	0	0	0	290	0	0	0	0	290	
地震火山研究観測センター	5,755	838	586	350	3,981	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医学研究科図書室	137,104	35,594	6,512	10,135	81,143	0	3,720	57,124	40,605	12,906	165	0	2,912	0	0	0	536	16,519	
歯学研究科図書室	26,647	5,036	628	3,017	10,740	0	7,226	22,959	13,959	707	0	1,120	854	431	413	258	5,217	9,000	
薬学研究科図書室	29,793	3,316	1,824	3,822	16,460	0	4,371	14,883	12,811	0	516	189	1,041	256	70	0	0	2,072	
工学研究科図書室	176,114	5,326	4,557	11,755	74,875	0	79,601	159,876	151,095	1,050	314	180	4,637	2,160	180	0	260	8,781	
材料・化学系専攻図書室	32,911	166	413	221	21,080	0	11,031	14,413	14,131	0	0	0	0	282	0	0	0	282	
情報エレクトロニクス系専攻図書室	25,511	77	1,108	2,524	13,680	0	8,122	20,530	20,208	0	0	0	0	322	0	0	0	322	
物理学系専攻図書室（機械）	13,163	0	0	390	6,814	0	5,959	7,506	7,334	0	0	0	56	116	0	0	0	172	
物理学系専攻図書室（応物・数物）	15,356	13	339	585	10,001	0	4,418	14,499	13,938	0	0	0	397	164	0	0	0	561	
物理学系専攻図書室（原子）	6,961	205	545	215	3,076	0	2,920	6,425	6,323	0	0	0	102	0	0	0	0	102	
社会工学系専攻図書室（土木分室）	14,763	0	21	983	6,838	0	6,921	7,554	7,444	0	0	0	110	0	0	0	0	110	
社会工学系専攻図書室（建築分室）	12,909	613	0	971	8,153	0	3,172	6,861	6,661	0	0	0	68	132	0	0	0	200	
社会工学系専攻図書室（資源分室）	3,954	12	43	175	2,041	0	1,683	7,161	6,975	0	0	0	68	118	0	0	0	186	
社会工学系専攻図書室（衛生分室）	8,269	0	33	383	2,519	0	5,334	7,358	7,122	0	0	0	132	104	0	0	0	236	
農学研究科図書室	77,875	4,630	4,844	6,819	30,008	0	31,574	52,105	46,206	2,875	562	584	0	316	667	412	483	5,899	
農業経済学図書室	4,745	734	153	1,848	1,047	0	963	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北方生物圏フィールド科学センター（耕地圏）	217	0	0	0	217	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北方生物圏フィールド科学センター（森林圏）	6,944	0	0	0	6,890	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
獣医学研究科図書室	22,911	3,172	4,030	1,398	10,403	0	3,908	12,908	11,620	0	0	381	347	240	320	0	0	1,288	
水産学研究科図書室	35,335	2,025	795	4,351	18,016	0	10,148	36,263	25,675	2,003	231	0	6,030	0	516	0	1,808	10,588	
地球環境科学研究科図書室	21,387	760	1,262	972	9,672	0	8,721	14,088	13,761	0	0	0	327	0	0	0	0	327	
全学教育支援室人文辞書資料室	0	0	0	0	0	0	0	10,436	7,687	2,749	0	0	0	0	0	0	0	2,749	
低温科学研究所図書室	14,541	180	851	1,455	7,659	0	4,396	11,063	7,720	1,726	236	100	499	165	100	388	129	3,343	
電子科学研究所図書室	24,968	237	663	1,008	19,883	0	3,177	10,143	7,132	1,495	0	349	859	0	34	0	274	3,011	
遺伝子病制御研究所図書室	10,046	72	133	127	8,902	0	812	5,574	0	4,821	0	15	305	344	80	0	9	5,574	
触媒化学研究センター図書室	10,519	284	751	80	9,168	0	236	7,594	7,129	0	0	89	362	0	0	0	14	465	
スラブ研究センター図書室	53,155	862	27,019	411	6,607	0	18,256	13,354	4,646	6,141	336	401	1,172	375	283	0	0	8,708	
大型計算機センター																			
先端科学技術共同研究センター																			
情報メディア教育研究総合センター	3,602	2,610	441	453	98	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総合博物館	2,530	1,653	709	100	68	0	0	6,030	6,000	0	0	30	0	0	0	0	0	30	
医療技術短期大学部図書室	14,695	4,140	758	3,256	3,568	0	2,973	13,360	11,753	0	506	0	631	0	470	0	0	1,607	
事務局																			
合 計	1,278,305	206,322	226,258	77,835	477,898	559	289,433	1,044,135	721,660	94,069	12,284	13,303	47,688	24,310	10,233	44,877	75,711	322,475	

※ 理・工・農の中央図書室のデータには専攻図書室のデータが含まれる。

## 平成14年度大学図書館実態調査

図書館・図書室	資 料 費（平成13年度）（千円）									運 営 費（平成13年度）（千円）			
	総 額	図書館資料費の出所別・用途別内訳								総 額	図書館・室運営費の出所別内訳		
		文部科学省からの配当額		その他の経費からの配当額		寄 付 金		そ の 他			文部科学省からの配当額	その他の経費からの配当額	その他
		図書館備付	研究室等備付	図書館備付	研究室等備付	図書館備付	研究室等備付	図書館備付	研究室等備付				
本館	182,707	39,198	0	143,509	0	0	0	0	0	198,168	54,889	143,279	0
分館	60,601	0	0	27,048	33,553	0	0	0	0	0	0	0	0
文学研究科図書室	138,555	0	0	7,798	125,705	539	4,513	0	0	15,411	0	15,411	0
教育学研究科図書室	21,985	0	0	7,492	14,493	0	0	0	0	3,580	0	3,580	0
経済学研究科図書室	60,453	0	0	35,650	13,450	0	895	0	10,458	12,611	0	12,611	0
理学研究科図書室	145,621	0	0	7,186	138,435	0	0	0	0	12,744	0	12,744	0
数学専攻図書室	52,407	0	0	0	52,407	0	0	0	0	980	0	980	0
物理学専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	615	0	615	0
化学専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	391	0	391	0
生物専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高分子専攻図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地球惑星科学専攻（地物）図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	290	0	290	0
地震火山研究観測センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学研究科図書館	137,104	0	0	81,897	41,853	0	12,812	0	542	16,519	0	16,519	0
歯学研究科図書室	26,647	0	0	12,367	13,520	96	664	0	0	9,000	0	9,000	0
薬学研究科図書室	29,793	0	0	21,054	6,371	1,000	1,368	0	0	2,072	0	2,072	0
工学研究科図書室	176,114	0	0	30,579	145,535	0	0	0	0	8,781	0	8,781	0
材料・化学系専攻図書室	32,911	0	0	0	32,911	0	0	0	0	282	0	282	0
情報エレクトロニクス系専攻図書室	25,511	0	0	0	25,511	0	0	0	0	322	0	322	0
物理工学系専攻図書室（機械）	13,163	0	0	0	13,163	0	0	0	0	172	0	172	0
物理工学系専攻図書室（応物・数物）	15,356	0	0	0	15,356	0	0	0	0	561	0	561	0
物理工学系専攻図書室（原子）	6,961	0	0	0	6,961	0	0	0	0	102	0	102	0
社会工学系専攻図書室（土木分室）	14,763	0	0	0	14,763	0	0	0	0	110	0	110	0
社会工学系専攻図書室（建築分室）	12,909	0	0	0	12,909	0	0	0	0	200	0	200	0
社会工学系専攻図書室（資源分室）	3,954	0	0	0	3,954	0	0	0	0	186	0	186	0
社会工学系専攻図書室（衛生分室）	8,269	0	0	0	8,269	0	0	0	0	236	0	236	0
農学研究科図書室	77,875	0	0	12,972	64,903	0	0	0	0	5,899	0	5,899	0
農業経済学科図書室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北方生物圏フィールド科学センター（耕地圏）	217	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北方生物圏フィールド科学センター（森林圏）	6,944	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
獣医学研究科図書室	22,911	0	0	5,499	17,412	0	0	0	0	1,288	0	1,288	0
水産学研究科図書室	35,335	0	0	3,766	31,569	0	0	0	0	10,588	0	10,588	0
地球環境科学研究所図書室	21,387	0	0	4,283	17,104	0	0	0	0	327	0	0	327
全学教育支援室人文辞書資料室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,749	0	2,749	0
低温科学研究所図書室	14,541	0	0	14,541	0	0	0	0	0	3,343	0	3,343	0
電子科学研究所図書室	24,968	0	0	19,566	5,402	0	0	0	0	3,011	0	3,011	0
遺伝子病制御研究所図書室	10,046	0	0	0	10,046	0	0	0	0	5,574	0	5,574	0
触媒化学研究センター図書室	10,519	0	0	10,222	297	0	0	0	0	465	0	465	0
スラブ研究センター図書室	53,155	6,544	0	37,751	0	0	0	8,860	0	8,708	0	8,708	0
大型計算機センター													
先端科学技術共同研究センター													
情報メディア教育研究総合センター	3,602	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合博物館	2,530	367	2,163	0	0	0	0	0	0	30	30	0	0
医療技術短期大学部図書室	14,695	0	0	8,424	5,633	0	0	0	638	1,607	0	1,607	0
事務局													
合 計	1,278,305	46,109	2,163	491,604	685,281	1,635	20,252	8,860	11,638	322,475	54,919	267,229	327

※ 理・工・農の中央図書室のデータには専攻図書室のデータが含まれる。

## D 部局図書室等調査集計結果



部局図書室調査

調査票 1 (2003/3/11)

図書館・図書室	意義・位置付け
本館	
分館	
文学研究科図書室	<p>図書室は、文学研究科・文学部の教職員や学生（大学院・学部）への図書情報サービスを行っている。図書情報サービスを提供する図書掛では、小規模ながら発注・受入・支払業務、目録業務、相互貸借業務や貸出・参考等のすべての図書業務を行い、本研究科・本学部の教職員や学生の要望に応えながら、身近な存在として適切なサービスを行っている。図書室では、図書資料として参考図書（研究・教育・学習のため）、学術雑誌や視聴覚資料（CD-ROM、マイクロ資料）の利用が可能となっており、さらに情報ターミナル（外部情報検索データベース等）により電子資料やインターネット情報の入手が可能となっている。</p>
教育学研究科図書室	<p>本研究科図書室は教育学研究科・学部の大学院生・学生・教育と本研究科の関係者を主な利用対象者として、その研究・教育を支援している。附属図書館との業務統合以後、図書室の研究・教育等のおもな支援は以下のとおりである。</p> <p>閲覧機能</p> <p>1) 定期刊行物（新刊雑誌（おおむね過去1年分）の閲覧・貸出。 2) 参考図書・政府刊行物・年鑑・白書の閲覧。 3) 城戸文庫・高等教育関係図書・学校史などのコレクションの閲覧・貸出。 4) 博士論文・修士・卒業論文の保管・閲覧。 5) CD-ROM・WWWによる情報・資料検索用パソコン1台の提供。 6) 情報メディア教育研究総合センターのパソコン2台の提供。 7) ビデオ資料視聴のTVセット1台の提供。 8) マイクロ資料閲覧・複写用のリーダープリンターの提供。 9) 閲覧座席9席（6人用1台、1人用3台）</p> <p>図書事務</p> <p>1) 図書・雑誌の発注・受入・図書の支払。（備品図書の支払を除く） 2) 雑誌の製本 3) 閲覧・貸出業務。 4) 紀要の編集・送付・保管業務。 5) 備品図書・製本雑誌の図書館への搬入。 6) 附属図書館との業務統合に関わる管理換え業務。</p>
経済学研究科図書室	<p>本研究科図書室は、平成5年度をもって附属図書館に統合され、本研究科の図書は原則としてすべて附属図書館に所蔵されることとなった。ただし、各教官が研究費で購入した図書については、研究・教育上の便宜のために、附属図書館での登録手続後、長期の「研究室貸出」が認められている。</p> <p>新規購入図書・資料の発注、附属図書館移管前の未製本雑誌や逐次刊行物・参考図書・学位（卒業）論文・専門性の高い視聴覚資料・CD-ROM資料などの貸出・管理保管については、本研究科図書室で行っている。</p> <p>本研究科図書委員会では、本研究科図書室に所蔵されている雑誌・資料類について、各教官に対して、専門領域を踏まえた所蔵の必要性・新規購入希望を毎年調査し、次年度の購入の可否を決定している。その結果、経済学・経営学関係の雑誌・資料類の世界的及び国内的に主要なものは網羅的に配架されるところとなり、本研究科教育・大学院生の研究において、本研究科図書室は不可欠の存在となっている。</p> <p>本研究科図書室の運営は、本研究科図書委員会と図書掛とが連携して行われており、特に、購入雑誌・研究科予算による「共通図書」の決定、CD-ROM資料用サーバーの管理については、予算・利用状況・必要性などについて意見交換のうえ、実施している。</p>
理学研究科図書室	<p>理学研究科・理学部図書室は、図書その他の学術情報資料の収集、整理及び提供を行うことにより、本学部における教育及び研究の進展に資するとともに、広く学術の発展に寄与することを目的とする。</p>
数学専攻図書室	<p>数学の学問的特色より数学の雑誌・図書は研究資料として最も重要なものである。したがって実験装置・実験室が研究者の身近にあるように数学図書室が数学教室内にあるのが通例である。これは日本の主要大学に限らず世界の主要大学の数学教室のどこにも見られることである。</p> <p>当数学教室の図書室は、まとまった数学文献を備えた北海道唯一の数学図書室であり、所有する文献は膨大な数にのぼる。</p> <p>また当数学教室は、北海道における数学研究の拠点大学として、北海道における数学研究のリーダーシップを発揮する使命と役割を負っている。この役割の一つとして、当数学教室の図書室は北海道における数学研究とそれに関連する研究に必要な雑誌・図書が常時自由にアクセスできるような情報提供拠点として機能することが求められている。</p> <p>数学教室は、数学研究のよりよい環境作りと北海道における数学研究の拠点大学としての使命・役割を十分に果たすことができるように数学図書室の充実を図っていくことを考えている。この目的達成のために当数学教室では、文部科学省の平成15年度のCOE (Center of Excellence) 計画に応募することを計画している。また、図書室の人員が充分確保できれば、一般の人達にも図書室を利用してもらうことを考えている。</p>
物理学専攻図書室	<p>すべての学問にとってそうであるかもしれないが、特に物理学のような基礎的学問にとって、論文雑誌、および単行図書は研究、教育を進めていく上で非常に重要である。このような資料は十分な種類と収蔵量を備えることが望ましいが、当物理学専攻図書室に収蔵されている図書は限られた予算のため、十分とはいえない。また、図書資料は収蔵量の多さとともに常に身近に置き必要ときにいつでも参照できる状況にあることも重要である。最近の雑誌は電子化されPCで閲覧することができるようになったが、少し昔以前に発行された雑誌や単行本図書を見るには図書室に行かざるを得ない。</p> <p>現在、物理学専攻図書室には暗号キー式のロックが設置されており、夜間や休日でも入室して資料の参照ができるようになっている。これによって、われわれ研究者や学生は昼夜を問わず研究を遂行することができる。もし、図書室がほかの建物に移ってしまうと、利便性は格段に落ちることが予想される。天候などの理由によっては扉にいけないことも起こりうるし、遠くの建物になれば図書室に行くこと自体が希になると予想される。また、夜間、休日の使用に制限がつく可能性もある。これは1つの例であるが、物理学の雑誌に Nuclear Physics という雑誌があり、以前に物理専攻の図書室に移管され、その後われわれ研究者にとって非常に便利になった。資料が近くにあることの重要性を実感している。このように少しの距離の違いであっても資料が身近にあることが重要である。最近、人員削減のため図書館の集中化が議論されているという話も聞くが、本来の研究のための環境を整えるという立場からはあってはならないというのが筆者および周りの研究者たちの共通した考えである。我々は図書室をいつでも利用できるような身近に置き文献資料の充実化を図っていきたい。</p>
化学専攻図書室	<p>化学関係の新着学術雑誌（未製本のもの）の閲覧室。雑誌は約2年後に製本され、理学部中央図書室に保管される。カード式セルフサービスによる貸し出しが可。化学専攻における新情報の発信元と位置付けられる。</p>
生物専攻図書室	<p>（生物購入）学術雑誌及び学生用参考図書（単行本）の閲覧</p>
高分子専攻図書室	<p>学内 on-line で雑誌が読めるようになってから、図書室の利用率は大幅に減少しました。学科学務員の人員削減に伴い、図書室の管理はとて困難になりました。学内の on-line access のより定着化と図書室の統合が望ましいです。</p>
地球惑星科学専攻(地物)図書室	<p>図書は学問の構成物である。人類の知的活動（アイデア、データ、理論）の集積を体現した存在である。これが真に有機的に機能するためには存在する図書が一元的に管理され、全体的に検索、使用可能であることが望ましい。過去にはアレキサンドリアの大図書館が知的活動のすべての集積地として機能した。しかし、当時の文献量は明らかに現在に比べて減少である。全ての知的活動の記録を断片的に繋ぐことは現代では殆ど不可能であると同時に効率的ではない。</p> <p>従って、図書もその関連分野ごとにまとめて管理し供用するのが効率的である。勿論、分野ごとに網羅に分類できるものでないこと、常に境界領域、新領域がつけ加わる事を考えれば時々々は「関連分野」を見直すことも必要である。その場合においてもある程度の区分けから出発せざるを得ない。これは国には県があり、その下に市町村があって、場合によってはさらに小区分があるのと同様である。全ての役所業務をこういう区分け無しに完全に国レベルで行う場合を考えれば、如何に途方もない面倒が生じるかが分かる。</p> <p>以上の一般的考察から、専攻図書の内容意識は明らかである。地球物理学を学び且つ研究者の者にとって、ヨーロッパ人によるインディアン虐殺の歴史書が緊急に必要となることは殆ど考えられない。やはり、地球物理学とその関連の物理学、数学等が頻りに使用される図書であることは確実である。その際、空間的な距離の利用の便に関し重要な因子であることは明らかである。ある一つのことを調べるのに長時間かけて歩いて行かねばならないような事態はきわめて非効率である。明らかに空間的に近いところに必要な図書を用意するには、その対象分野を限定せざるを得ないのである。</p> <p>ある種の文献は電子的にすぐ見ることができる便利な世の中になったとはいえ、某かの詳細な図面をダウンロードするとか複雑な数式を表示しようとしたら簡単なデバイスでは役に立たない。図書ならいつでも見ることができ電子的なものは装置を持ち選んでいない限り役に立たないし、持ち選んでいたとしても常時電源が入っていなければすぐに利用できない。従って、遠い将来、書物に完全に置き換わることのできる媒体が明らかでない限り、今まで2000年以上の長きわたって図書が果たしてきた役割は今後も当分続くであろう。</p> <p>冒頭に書いたように、如何に膨大化し細分化されてきたとはいえ、人類の知的活動はどこまで繋がっているのである。イスラム過激派の神学書と柔構造の超高層ビル建築学が関連しているのである。従って、如何に一見関連のなさそうなことでも関連づけてたい場合にはそれが可能であることが望ましい。そういう横の関連を確保し利用可能にするには専攻図書の上層組織として部局図書、本部図書等が在って良い訳である。これは国-県-市町村の区分、役割分担があるのと同様である。専攻図書或いは更にその細分としての分野別図書が存在するのが自然且つ有効な図書利用形態である。</p>
地震火山研究観測センター	



図書館・図書室	意義・位置付け
医学研究科図書館	<p>はじめに 医学研究科・医学部図書館は昭和45年に現在の建物で完成し、昭和50年に一部増築され現在に至っている。利用対象者は医学研究科・医学部、附属病院、遺伝子制御研究所、R1センター、動物実験施設、それぞれの教職員、大学院生、学生、医員と約4,400人を超え、更に最近では学内外利用者が増加の一途をたどっている状態である。</p> <p>A 学習支援 医学部の学生と他学部の学生の大きく異なるところは、「医師国家試験」という関門があることである。医学部図書館としては、6年間の在学期間中、更にこの「医師国家試験」に向けての学習支援が第一の使命である。医学の進歩はめざましく、このため常に新しい知見が要求される。したがって医科系の図書の寿命も当然のことく短く、だいたい5年が限度といわれている。現に2年で改訂される教科書も数多い。こうした時代の趨勢の中で医学部図書館では皆川現館長の発案により平成12年度より「閲覧図書充実」をひとつの柱にかかげ、図書予算を大幅に増額し新しい図書を積極的に購入し、学生、教職員の利用に供してきた。このため開架閲覧室の図書は現在では大幅に入れ替わり利用者には好評である。この方針は来年度以降も堅持されるであろう。 また、医療情報学（櫻井常太郎教授）の一部分として、MEDLINE・医学中央雑誌の情報検索を担当し、受講した学生からは大変好評を得ている。このように利用者教育にも積極的な取り組みがなされている。</p> <p>B 研究支援 研究者にとって最新の学術情報の入手は必須のものである。幸い本学では附属図書館が電子ジャーナルの導入、整備に取り組み、全国的に見ても上位ランクされるであろう。しかしながら附属図書館はその性格上、全学目を配らなければならず、各部局の要望すべてに対応することは不可能であり、このこともまた理解の及ぶところである。 したがって医学部図書館としては、医学関係のDB自前で整備しなければならない事情がここにある。ProQuest Medical Library・ProQuest Health・Pharmaceutical News Indexを導入契約し、医学部のみならず全学に開放していることはご存知の通りである。 さらに医学部独自のものとしてEBM実践における重要な情報源の一つと位置付けられているThe Cochrane Library（コクランライブラリ）を導入している。同様なDBとして現在「JMEDICINE」・「医学・薬学予備集全文データベース」（9月1日～10月31日まで）、「UpToDate」（11月1日～11月30日）のトライアルを行い、新たな、しかも有用なDBの導入を検討しているところである。このような研究の支援も医学部図書館の使命である。</p> <p>C 利用状況 平成9年度から全学最初に有人開館を22時まで延長した。本来は医学部学生・教職員のためのサービス向上が目的であったが、結果として医学部のみならず全学の教職員、学生および学外の医療関係者にひろく利用されている。（学外利用者への開放は医学部図書館利用内規を弾力的に運用し、22時までの開館と相まって利用者が少なくない）。 医学部図書館の休日開館の歴史は古く、いち早く自動入退館システムを導入した平成4年の土曜無人開館にはじまる。もちろん医学部・病院の関係者のみの利用ではあるが、その後無人開館の利用時間を順次拡大してきた。昨年平成13年10月から試行した24時間開館は、今年4月より本格稼働にこぎつけ、この際に学部学生まで利用範囲を拡大した。 日本医学図書館協会の統計平成14年版によると、全国の国公私を含めた医系大学のうち24時間開館を実施しているのは15大学にすぎず、このうち学部学生にまで利用を認めている大学は十指にみえない。さらに当館では9月よりOPAC、電子ジャーナル、MEDLINE、医中誌などの情報研削機記の24時間利用も可能にし、さらに利用者サービスを向上させた。 ※ 参考資料としてホームページ上の概要を添付する。</p> <p>D 所蔵図書の特徴 医学部図書館の今一つの特徴として、保存図書館として役割も果たしている。当館では1900年以前の医学書を貴重書としているが、この他1,000冊余りの和装本を所蔵している。さらにオンラインCD-ROM等データベースのMedline以前の「Quarterly cumulative index to current medical literature」の時代から所蔵しており、「医学中央雑誌」も初号から所蔵するなど貴重な文献情報も所蔵している。これらや古い図書・雑誌の原著論文を収集・保存も重要な責務であると考ええる。</p> <p>E 医学部図書館の位置付け 日本全国の医科系大学の中で附属図書館あるいは医学分館でない大学は、北大医学部と三重大学医学部のみである。 北大医学部図書館は学内にあっては一学部の図書館であり、資料費、運営費はすべて医学部の予算でまかなわれているが、全学の医学生物学系図書館として機能し、幅広く利用されている。このことは複写コピー機使用枚数（平成13年度は83,123枚）ひとつとあげても端的に表れている。 ここに「平成11年度外国雑誌問題検討懇話会医系懇話会まとめ」（文責阿部和厚）があるが、このなかで「4. 医学部以外の医系部局では部局に固有の雑誌は継続するが、他は医学部図書館を利用していることが明らかであり、（中略）医学部以外では、医学部図書館を利用するという理由で、中止雑誌を決定している。また、理系学部のほとんどすべてが医学部図書館の生命科学関連雑誌を利用していることが明らかとなった。」「7. ……（略）……、昨年度の図書館資料整備でも検討されたように、北海道大学の図書館は、本館、分館、部局図書室を合わせた機能連携で検討されるべきであり、本館が文系図書館として機能しているのであれば、医学部図書館は医学生物系図書館として現実にも機能し、研究図書館として最も活発に利用されていることは明らかである。これを医学部予算のみに依存している現状には問題がある。図書館職員の適性は、一、重複雑誌への予算的支援、その他の全学的支援、位置付けが検討されるべきである。……（略）……」 この阿部前医学部図書館長のまとめをもって医学部図書館の意義・位置付けとする。</p>
歯学研究科図書館	①学生用図書を保管し学生の教育に貢献する。②研究雑誌を保管し、研究に貢献する。③事務用を含む全ての図書の購入手続と予算管理を行う。
薬学研究科図書館	<p>薬学研究科・薬学部に関する図書、その他学術資料の収集・整理及び提供を行うことにより、教育、研究に寄与する。 （図書室の特色） 利用者サービスとして、4年生以上の学生及び教職員についてIDカードによる自動入室で24時間（セルフサービス）書庫が利用できるようにしている。また、午後5時以降について、自学習の場として閲覧室を開放している。</p>
工学研究科図書館	<p>意義 まずは、3,000人弱の学部学生をかかえる大所帯学部の図書室として、日々学習のサポートがなされている点かと思えます。また、系専攻図書室（分室含む）との有機的かつ機能的な業務関係を保つ、拠点としての存在もあろうかと思えます。学内的には理工学系分野での中核的な存在にも考えます。</p> <p>位置付け 部内的には一応、系専攻図書室が教育や大学院生の研究者あるいは将来の研究者を対象とした研究支援図書室という意味合いに対して、中央は学部学生を対象とする教育支援図書室という色分けがなされています。</p>
材料・化学系専攻図書室	<p>工学部は建物が広く散在しており、特に材料・化学系は工学部図書室から遠く離れて独立して立っていることが存在意義の一番に挙げられる。教育・大学院生・学部学生は日常、図書・情報に関することのほとんどすべてを系図書室だけで済ませているように見えます。閲覧室の2台の端末稼働率は大変高く、できればあと2第設けできないものかと考えているところです。 工学部の図書室を再構築した際に（40年ほど以前）、学部学生用の図書は中央に研究者用の図書は各学科にという方針にしたため、専門的な参考資料は各学科図書室（統合されて系図書室）に置かれており、特にリファレンス業務については系図書室の存在の意義と位置付けは大きい。 学部学生のカリキュラムの変更に伴って、最近では学部の1・2年生の利用が多く工学部内分館の様相を呈してきており、それに伴って学部学生用の図書の充実を考慮に入れる必要も出てきています。 これらの観点から、材料・化学系図書室は専門的情報センターとして、また学部学生のガイド役としての役割がますます大きくなってきていると云えます。</p>
情報エレクトロニクス系専攻図書室	<p>意義 この10月にいままでの4分室（電気・電子・精密・情報）図書室がひとつにまとまり、系専攻図書室をもつことになりました。系図書室としては充分な閲覧スペースを確保された本格的な図書室として、また専門的な学術情報センターとしての意味合いも持つことと思えます。</p> <p>位置付け 部分的には系専攻図書室は研究者を支援する研究支援図書室という位置付けがなされていますがこれからは大学院生に限らず、学部学生も取り込んだ本格的な図書室（館）の位置付けがなされると思えます。</p>

図書館・図書室	意義・位置付け
物理学系専攻図書室(機械)	<p>意義 専攻図書室は工学部中央図書室との連携において運営されている。多数の教官・院生等に対して中央図書は広く深くしか対応できないが専攻図書は専門分野に精通した職員によって、きめ細かな対応をして中央図書補うことができる。この点で将来の研究者・技術者を育てるうえでの一助となっていると思われる。</p> <p>位置付け 中央図書は学習機能を主体とした教育支援と書誌「つであるが、専攻図書室は教官・院生を主体とした研究支援図書室と位置付けられる。増加する情報量、進む電子化のなかで専門分野を特定した図書室は今後、利用者にとって重要な位置をしめると思われる。</p>
物理学系専攻図書室(応物・数物)	<p>意義 専攻図書室は教官や大学院生を対象として開設されました。研究活動の支援組織として重要な役割を果たしてきています。中央図書室との連携のなかで専攻内だけでなく全学的にも図書館奉仕の一端を担っています。</p> <p>位置付け 研究支援図書室として、専攻内の利用者の声や要望を直接に受け、専攻の学術情報の傾向を知ることのできることから、その要求することを速やかに実現化してゆく機関であることです。</p>
物理学系専攻図書室(原子)	<p>意義 ここでは中央図書室とのよりよい連携のなかで専門分野に精通した職員が分室図書の特長を生かし、研究支援の重要な役割を担っている。また、学科記念事業の関係書類や学生実験のデータ集の収集、保存等での資料室の役割も担っています。</p> <p>位置付け 研究支援図書室として、より身近な研究者へのサービス機関であることです。</p>
社会工学系専攻図書室(土木分室)	<p>意義 専攻図書室は中央図書室との連携において業務がなされているが一分室図書室にはより専門的かつ特殊な資料を収集、保存されている点などその分野の特殊性の中で図書館職員のよりきめ細かな対応が研究の一助になっていると思われ</p> <p>位置付け 研究支援図書室として、より身近な研究者へのサービス機関でもあることです。</p>
社会工学系専攻図書室(建築分室)	<p>意義 工学系の単科大学にも匹敵するほどの規模を持つマンモス学部の中で中央図書室との連携の中で有機的に運営されている点があげられます。年々、肥大化する組織の中で中央図書室では十分とはいえない点を補い教官はもちろんのこと著しく増え続ける院生にたいしても専門分野に精通した図書館職員のきめ細やかな対応が研究の一助となりえていることかと思えます。</p> <p>位置付け 中央図書室が学習機能を主体とした教育支援図書室にたいして系図書室は主として大学院生と教官を対象とした研究支援図書室というふうに位置付けされると思います。また、建築分室では分室で保管している設計や製図のための資料を学部学生が利用するといった特徴もそなえています今後、ますます進むであろう電子化のなかで専門的な情報センターとしての位置付けが課せられると思われ</p>
社会工学系専攻図書室(資源分室)	<p>意義 マンモス学部の工学部にあっては、中央図書室と連携して教官や学生に対応することにより、よりきめ細かな研究支援ができると思います。</p> <p>位置付け 研究支援の図書室としての位置付けです。</p>
社会工学系専攻図書室(衛生分室)	<p>工学研究科における系図書室(分室を含む)の意義は、工学系の単科大学にも匹敵する規模を持つマンモス学部の中において、中央図書室との連携のなかで、有機的かつ機能的な結びつきで運営されている点にあるかと思います。また、年々肥大化するなかで、中央図書室だけでは十分足りない点を考慮しつつ、教官に対してはもちろんのこと大学院重点化後著しい増加をみせている大学院生に対し、専門分野での対応が研究の一助となることをめざす点にあると思</p> <p>次に位置付けとしては、中央図書室が学習機能を主体とした教育支援図書室であるのに対して、系図書室は、主として教官と大学院生を対象とした研究支援図書室というように位置付けられるかと思</p>
農学研究科図書室	<p>改組され農学研究科となった現在、院生・学部学生1,500名、及び教職員を含め1,700名を越える利用者を擁している。専門教育・研究が行われている身近な部署に配置されている研究科・学部図書室として、近年ますます高度化・多様化する農学教育・研究の支援機能にふさわしい情報収集・提供、及び研究教育支援の場として大きな役割を担っている。</p> <p>本研究科は特に、札幌農学校時代からの古い貴重な資料を含め約30万冊近い図書資料を所蔵しており、これらの資料は広く学内外からも活用されており、知的共有財産として今後とも放逸させず有効利用させるための責務を負っている。しかし、古い歴史の中に埋もれている資料も少なからずあり、これらの整備が重要な課題となっている。</p> <p>また、農学は実学であることから電子図書化の中にあっても、なお電子的資料では対応不可能な古く精密な挿絵・図類等の資料を身近に配して研究に役立てるという側面もあり、ブラウジング機能とともにこうした資料環境が身近な研究科図書室であり、その利便性は今後とも重要な要素である。さらに改組により施設が狭隘化している現状のもと、快適な学習環境提供の場としての役割も重要であり、いっそうの充実が求められている。</p>
農業経済学科図書室	<p>農業経済学科図書室は、これまで、農学部農業経済学科・大学院農学研究科農業経済講座の教育研究に欠くことのできない最重要な機能を担うという意義を有してきた。また同時に、農学部や本学全体、さらには学外に対しても、わが国農業経済研究の拠点の図書機能を提供してきたといえる。今後も、これら機能を一層高めて充実していくというのが本学科の基本方針であり、本学科図書室の位置付けである。</p> <p>本学農業経済学科は、日本で最も歴史が長く、膨大な貴重な図書資料を収集・管理してきた。本学科図書室は、また、ウエストコット・ライブラリーとも称され、国際的な特色も持っている。これは、戦前・戦後の外国文献・資料不足を補完することで、教職員・学生の利用の便を向上することを主たる目的に、北海道大学・マサチューセッツ大学協定ならびに、在ニューヨーク経済及び文化事業委員会の協力により、開設されたという歴史経緯を有しているからである。本学は、この計画に尽力されたウエストコットとルイス両博士の功績を記念して当ライブラリーの名称としたのである。また、図書室独自のホームページを開設・運営するなど、情報化に対応して、利用の便の向上をはかっている。</p> <p>以上のような最重要な機能を発揮させるために、農業経済学科に所属する各研究室からの自発的拠出により毎年約5百万円あまりの図書室予算が充てられている。この単独学科としては多額な予算支出によって購入・収集された図書資料は、本学科だけでなく、農学部や本学全体、さらには学外に対しても、貴重で充実した図書サービスを提供してきた。</p> <p>単独学科として、このような多額な予算を費やすことにより、図書資料は、当然のことながら、毎年累積的に増加していく。このように増加する図書業務の一方、これを管理する図書室担当職員(非常勤を含む)は、歴史的に見ると減少してきており、現在は農学部図書から派遣して頂いている1名、非常勤職員1名の体制で運営されている。業務量の増加などからみて、人員増加が望まれるところであるが、右対応が現状では困難と見込まれる中、今後とも正常な図書サービス提供には、複数の職員による図書室運営がボトムラインといえる。</p> <p>以上、農業経済学科図書室は、学科・大学院の教育研究の欠くことのできない最重要な機能を担う意義を有してきた。また、農学部や本学全体、さらには学外に対しても、重要な諸機能を提供してきた。今後も、これら機能を一層高めて充実していくというのが本学科図書室の位置付けである。</p>
北方生物圏フィールドセンター	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ちょっとしたことを調べるのに専用の図書室をほしいが、図書室として機能を果たせる室がないので、小会議室の角に雑誌等を積んでいる。</li> <li>2. 北方圏が新設されて図書職員が配置されていなかったため、教官の研究の妨げになるので、平成13年10月から文献複写担当のパート職員を採用した。</li> <li>3. 蔵書類は図書職員がいないので、全部消耗品扱いになっている。</li> <li>4. 位置付け センター長→図書委員会→資料室</li> </ol>

図書館・図書室	意義・位置付け
獣医学研究科図書室	<p>図書室の意義 獣医学関連の図書、獣医学に関する学術情報資料の収集、整理及び提供を行うことにより、本研究科・学部における教育及び研究の進展に資すること。</p> <p>図書室の位置付け 北大における獣医学教育は札幌農学校設立に遡り、1913年には当学部の前身である畜産学部第二部が設置されている。その後1952年に農学部から独立し、国立大学唯一の獣医学部として半世紀を経ている。また全国には、国立10大学、公立5大学、私立5大学に獣医学関連の学科等が設置されているのみである。このような歴史的・稀少的背景から国際レベルの質の高い獣医師の養成、独創的な研究者の育成を行っており、その教育及び研究支援として学部図書室は位置付けられている。また当研究科の紀要は学部設立時から年4号の刊行を重ねて現在に至っている。紀要出版に関する実務、補完、庶務は図書室が支えている。</p>
水産学研究所図書室	<p>北海道大学水産科学研究科・水産学部は、水圏資源への人間関与のあり方を「環境に調和した生物資源生産」及び「多機能的な生命資源創世」のふたつの観点から探求する教育研究を行うために、環境生物資源科学専攻と生命資源科学専攻を設けている。このふたつの専攻の緊密な連携のもとに、水圏生物資源の持続的生産システムと利用展開システムの新たな構築にたずさわる卓越した研究機能と幅広い見識を備えた研究者と高度専門技術者の要請をめざしているが、そこにあつて水産科学研究科・水産学部図書室は、学生の学習のために必要とされる資料を、また、研究者のためには研究領域に役立つ学術情報や学術資料の収集・提供・保存に関する事務をつかさどる。</p>
地球環境科学研究科図書室	<p>本研究科は独立研究科であるため学部生が在籍していない。したがって基礎的資料としての学習図書よりも専門的研究を主とした図書の蔵書構成となっている。</p> <p>地球環境科学という学際領域を対象としているため、教育数・学生数に比較して広い領域の図書・雑誌を必要としている。</p> <p>特色のある資料収集・整備として ①学内関係部局との連携した大学院教育が必要となるので、地球環境科学に関する領域の図書の整備・拡充を図る。②実験・研究成果を比較検討するため、環境科学関連領域を設置する大学・研究所・試験所等からの刊行物を積極的に収集・整備し、保存している。</p>
全学教育支援室人文辞書資料室	<p>現在北分館に統合されている。人文社会系、語学系教育96名（文学部21名、経済学部3名、日語文化部65名、国際広報メディア研究科7名）対象の図書館資料室である。講義資料、研究資料の準備作成のために、辞典、事典、叢書、地図、統計資料等の参考図書・資料の収集を優先している。</p>
低温科学研究所図書室	<p>本研究科は、北海道大学では最初の附属研究所として昭和16年設立され、平成7年から全国共同利用研究所として新たにスタートした。図書室は、寒冷圏及び低温条件下における科学現象の基礎と応用に関する資料を収集し、低温研究自分類により配架している。昭和55年図書掛が設置され、現在定員1名、非常勤1名で所内及び学内外者の利用に供している。また、所内教員及び院生には、平成12年から入室カード等により24時間利用を図るなど利用の拡大を進めている。</p>
電子科学研究所図書室	<p>本研究科は、物理・化学・数学に基礎をおいた従来の学問体系から脱却し、生命科学の成果をも積極的に取り込んで新しい電子科学の領域を開拓することを目的として、活発な研究活動を行っている。</p> <p>図書室は、図書その他の学術情報資料の収集、整理及び提供を行うことにより研究・教育活動の支援機能の一端を担うべき重要な位置付けにある。</p>
遺伝子病制御研究所図書室	<p>本研究科は「ヒトの遺伝子病の病因、病態解明とその予防・治療法の開発」を目的としており、教育がその目的に向けて活発な研究活動を展開するとともに、医学研究科、理学研究科の大学院生等、次代を担う若手研究者の研究指導もを行っている。</p> <p>当図書室は、このような研究、教育活動の支援機能として重要な役割を果たしており、部局における「研究図書機能」及び「学習図書機能」として欠かすことのできない存在である。</p>
触媒化学研究センター図書室	<p>触媒化学研究センター図書室は創成科学研究機構の竣工後は創成科学研究機構図書室として、運用される。図書室では、新着雑誌は閲覧に供するが、バックナンバーは計画されている収蔵施設に移管する。書籍類は図書室に置き、管理運営する。又、利用者にインターネット検索、各種データベースに関する情報を提供する。</p>
スラブ研究センター図書室	<p>スラブ研究センターは、スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧地域）の総合的な研究を目的とした全国共同利用施設である。センター図書室は、センター専任研究員の研究をサポートすることももちろん、センターが国内的に当該地域研究を組織し、さらには国際的な共同研究の推進をバックアップすべく、対象地域の人文科学および社会科学全般にわたって、統計集、史料集、法令集、主要新聞・雑誌、主要作家の作品集等の基本資料や参考図書資格として、体系的に蔵書を構築することに努めている。</p> <p>北海道大学は、現在、ロシア・東欧地域研究の多くの部門に関して、国内的に最高の蔵書水準にあると考えられる。学内において、ロシア・東欧研究に関する資料の収蔵はスラブ研究センターに限られるものでなく、文学研究科、日語文化部、教育学部、附属図書館本館および附属図書館北分館等に収蔵される資料は少なくないが、スラブ研究センターの収蔵資料はその中核的部分として認知され、学内外から広く利用されている。その質および量に関しては、同じ分野の研究を行っている欧米の有力な研究施設とのギャップはあるものの、欧米諸国、あるいはロシア・東欧諸国の研究者が滞りに研究を行う際に、非常に有益と評価されている。スラブ研究センターでは、錦川氏の寄付による基金によって、道外の大学院博士課程在籍者を対象に、2週間前後の滞在を受け入れる制度があるが、毎年多数の応募があり、その多くが集中的に資料収集を行っているというところは、それを裏付けるものと目しよう。また、スラブ研究センターは2000年度より、文学研究科スラブ社会文化論講座という協力講座の形で大学院教育に参加を始めた。スラブ研究図書室は、研究活動を支えることに重点を置いてきたが、教育活動を支える基盤としても、その意味は大きくつつある。</p> <p>全国的に見て、ロシア・東欧研究の総合的地域研究を担う施設は他に存在しない。また、ロシア・東欧研究文献の系統的収集を行っている国内の図書館は限られており、特に東欧出版物の収集は非常に貧弱な状態にある。こうした状況において、スラブ研収集資料が当該地域研究に持つ意味は大きい。</p> <p>また、国際的な視野で見た場合、スラブ研収集資料を中核とする北大所蔵ロシア・東欧関係資料は、この地域で非常にユニークな地位を占める。すなわち、ロシア語、欧米諸国語、日本語のそれぞれの関係資料を一括して利用することができる環境にある、この地域唯一の機関と思われるのである。さらに北大附属図書館北方資料室は、北海道を中心に、サハリン、シベリアや旧植民地に関するユニークな資料群を擁しており、スラブ研資料と組み合わせられることで、東アジア地域研究における独特の共同研究の足場として機能することが期待される。</p>
情報メディア教育研究総合センター	<p>センターを利用して行う基本的情報教育や情報の提供に必要として、雑誌、マニュアル及び単行本等を整備している。</p>
総合博物館	<p>総合博物館では、各教員（7名）が所持している図書の他、共通の図書資料を収蔵・整理し、関係者の利用に供している図書については、博物館の設置が平成11年4月ということもあり、その数は現在のところ多くはない。そのため、専用の図書室は設置されておらず共同利用の室内の書庫に収納し管理している。</p> <p>また、図書専任の職員は配置されていないため、図書登録業務は理学部図書掛で行っており、他の業務については総合博物館事務職員が業務のもと処理している。</p>
医療技術短期大学部図書室	<p>今日、医学医療の進歩発展は目覚ましく、その内容の高度化、専門化、細分化が急速に進展しており、医師以外の医療専門職にも最新の医学知識と最先端の医療技術が求められている。当短期大学部で3年間（専攻科助産学特別専攻は1年間）学習し、卒業後国家試験に合格すると医療専門職として医療現場で仕事をすることになるわけで、在学中より、日々変化していく医療技術に常に目を向け、最新情報をキャッチし、適応していくことが要求される。そこで図書室は常に新しい情報源である医療関係の図書・雑誌等を整備し、日本はもとより世界の最新情報を察知するためのデータベース（看護学の代表的DBであるCINAHL(CD-ROM)、附属図書館が提供しているMEDLINE、医学中央雑誌、Current Contents等）を検索するためのパソコンを設置、又実習の前には各専門分野のビデオを視聴することができるよう機器を設置、学生の種々の学習を援助していきける体制作りをしてきたところである。</p> <p>又、医療職は体や心を病んだ患者さんを対象とする職種であり、患者さんの気持ちを十分に汲み取れる心豊かな人間性が必要であり、専門知識はもとより、広く人間・社会・環境を理解し、深い洞察力と総合的な判断力を要求される。4年生の医学部保健学科への移行は決定したが、少なくとも今後4年間は短期大学部所属の学生が存在することを考慮しなくてはならない。更に将来大学院（修士課程2年、博士課程3年）の設置も予定され、専門分野の教育者ならびに研究者の育成をめざしている。図書室に要求されるものも、更に高度な専門職としての図書館員を擁し、いろいろな要請に応えられる図書室に変わっていかなければならない。更に医学部図書館とのどのような連携を取り合うことができるのか大きな課題になっていくと思う。</p>



部局図書室調査

調査票 2 (2003/3/11)

図書館・図書室	電子的資料導入数 (平成14年3月31日現在)				電子的資料受入数 (平成13年度)				導入資料の名称
	総数	スタンドアローン型	ネットワーク型	その他	総数	スタンドアローン型	ネットワーク型	その他	
本館	159	48	10	101	29	13	10	6	CD-ROM : ① Dissertaion abstracts ondisk ② Global books inprint PLUS ネットワーク : ① Current Contents ② Medline ビデオ・CD : ① Biograph: Vincent Van Gogh ② アイヌラマチ
分館	57	56	1	0	20	19	1	0	雑誌記事索引、朝日新聞戦前紙面 DB、朝日新聞戦後見出し DB 等
文学研究科図書室	7	7	0	0	0				English short-title catalogue 1473-1800, etc.
教育学研究科図書室	4	4	0	0	0				世界大百科辞典、日本大百科全書、現行法令 CD-ROM、World Academic Database
経済学研究科図書室	6	0	6	0	6	0	6	0	wallstreet journal EconLit IFS, NBER WDI 有価証券報告書
理学研究科図書室									
数学専攻図書室									
物理学専攻図書室									
化学専攻図書室									
生物専攻図書室									
高分子専攻図書室									
地球惑星科学専攻(地物) 図書室									
地震火山研究観測センター									
医学研究科図書館	8		8		8	2	6		
歯学研究科図書室	7	5	2	0	2	0	2	0	辞書類(4)、口蓋裂の構音障害、Medline、医中誌
薬学研究科図書室									
工学研究科図書室	68	68			10	10			世界大百科辞典、岩波理化学事典、広辞苑、12カ国語電子辞典、日本書籍総目録、The Oxford English Dictionary
材料・化学系専攻図書室									
情報エレクトロニクス系専攻図書室									
物理工学系専攻図書室(機械)									
物理工学系専攻図書室(応物・数物)									
物理工学系専攻図書室(原子)									
社会工学系専攻図書室(土木分室)									
社会工学系専攻図書室(建築分室)									
社会工学系専攻図書室(資源分室)									
社会工学系専攻図書室(衛生分室)									
農学研究科図書室									
農業経済学科図書室									
北方生物圏フィールド科センター									
獣医学研究科図書室	71			71	27			27	ビデオ「NHK スペシャル脳と心」、「狂牛病/BSE」
水産学研究科図書室	1	1			1	1			気象庁月報 CD-ROM
地球環境科学研究科図書室	1			1	1			1	気象庁月報 CD-ROM
全学教育支援室人文辞書資料室									
低温科学研究所図書室									
電子科学研究所図書室									
遺伝子病制御研究所図書室									
触媒化学研究センター図書室									
スラブ研究センター図書室	11	11							Oxford English, Dictionary on CD-ROM 等
大型計算機センター									
先端科学技術共同研究センター									
情報メディア教育研究総合センター									
総合博物館									
医療技術短期大学部図書室									
事務局									
合計	400	200	27	173	104	45	25	34	

部局図書室調査

調査票 2～3 (2003/3/11)

図書館・図書室	図書館資料			収 蔵		利用者サービス								
	特殊コレクション (平成14年3月31日現在)			収録雑誌 への移管 希望冊数	収 蔵 計 画	オリエンテーションの実施状況 (平成13年度)			学外者への公開状況 (平成13年度)					
	名 称	内 容	冊数			オリエンテーションの内容	対 象 者	回数・時期・時間	学外利用者の区分	貸出条件	必要書類	手 続 等		
本館	内村蔵三文庫	キリスト教	1,250			図書館利用案内	学生・教員	2回、4月、60分	国公立大学教員・道内小・中・高の教員	5冊、30日(借期)	5冊、15日(開架)	紹介状等		
	新渡戸稲造文庫	農学・経済学	2,000			借借探求入門	1学年	39回、5月～11月、90分	国公立大学学生・院生			不可	〃	
	宮部金吾文庫	植物学	1,700			文献探求法	全構成員	25回、通年、90分	放送大学生・公開講座受講生	5冊、15日		〃		
	佐藤島介文庫	農学、植民、農業経済	6,000			文献収集法(ゼミ単位)	2～4学年 大学院生	12回、通年、90分						
	南道太郎文庫	農学	2,000											
	高岡直吉文庫	植民地、アジア事情	450											
	遠坂信吾文庫	キリスト教	800											
	知里真志保文庫	アイヌ語・民族学	1,300											
	藤沢建治記念文庫	物理学	400											
	宮原英一蔵書	独・露・北欧文学	700											
	札幌農学校文庫	札幌農学校旧蔵書	12,200											
	シュミット文庫	刑法学	480											
	レンセン文庫	日ロ関係史	3,200											
	分館	レーン文庫	英米文学	676			分館案内のOPAC利用	新入生	3回、4月、30分	一般市民(観覧利用)	15日間、5冊		紹介状等 身分を証明 できるもの	
						図書館サービス案内	大学院生	1回、4月、90分	一般市民(当日利用)	不可				
						検索エンジン・文献情報サイト	1、2年次 学生	3回、6、10月、90分						
						分館案内・閲覧貸出・OPAC	一般利用者	3回、5、6、9月、60分						
文学研究科図書室	学位論文	博士論文	114	200,000	附属図書館蔵書へ搬入した5万冊を 現在管理換え懸念中					北大構成員以外	閲覧のみ	所属機関紹介状	身分証明書提示	
教育学研究科図書室	城戸鶴太郎文庫	個人コレクション	1,659		平成13年度末の全蔵書42,966冊は 現在の附属図書館へ管理換図書として 順次移管される。					図書館利用維持費者 上記以外の者	閲覧のみ	紹介状	科長の許可	
	高等教育関係図書	専門図書 博士論文	734 56	未回答							(紹介状をもたない来館者については、排長判所で閲覧の便宜を図っている)			
	学位論文	修士論文 卒業論文	368 2,029											
経済学研究科図書室	学位論文	博士論文 修士論文	97 302	2,500	未管理換え資料を移管したい					大学教育 国立大学生 公私立大学生	閲覧のみ 閲覧のみ 閲覧のみ	身分証明書 学生証 利用証 身分を証明 するもの	カード記入	
理学研究科図書室	Gmelin Handbuch der Anorganischen Chemie Beilstein Handbuch der Organischen Chemie		750 470	50,000	旧予科時代の図書ほか					区分なし	閲覧のみ		身分証明書	
数字専攻図書室				未回答		図書室利用案内	学部・大学 院生	2回、4月、10分	数学教室訪問者 数学教室関係者	滞在期間中 1ヵ月		通 頁 〃		
物理学専攻図書室				未回答										
化学専攻図書室				0										
生物専攻図書室				未回答										
高分子専攻図書室				未回答		図書室の使い方	2年生	1回、4月、30分	学外公開せず					
地球惑星科学専攻(地物)図書室				未回答		利用方法のプリント配付	2年生	1回、4月						
地質火山研究観測センター				未回答	なし									
医学研究科図書室	貴重コレクション	医学部所蔵図書で1900年以前に刊 行された医学関係の古書(洋書)の コレクションで、近代医学誌にも照 会されている貴重な資料も含んでい る。	294		主に研究室から返却された図書を取 置きしている保存庫図書をそのまま移 管したい。	1. 新入生ガイダンス 2. 大学院新入生ガイダンス 3. 医学部生理系コース移 行生ガイダンス 4. 24時間利用中断ガイ ダンス 5. 文献検索ガイダンス (「医療情報学」購読の 文献検索部分を担当・図 書館で実習) 6. 医学文献の探し方 (「医療情報学」の1コ マを担当)	新入生 大学院新入 生 移行生1、 5年生 3～6年生 5～6年生 5年生	1回、4月中旬、30分 1回、4月1日、20分 1回、10月上旬、30分 6回、随時、20分 16回、1～12月中、60分 1回、6月、90分	学外医療従事者 他大学学生教員 一般利用者			身分証明書	来館者名簿に記入	
	医学古書コレクション 東洋医学 85種類 401冊 西洋医学 79種類 473冊 その他 95種類 291冊		1,165	26,700										
	医学博士・学位論文コレクション	新編の医学博士の学位論文(課程一 昭和33年より、論文一昭和35年よ り)のコレクションで、附属図書館 ホームページの「学位論文目録デー タベース」により検索ができる。	5,594											
歯学研究科図書室	学位論文	博士論文	437	3,000		文献検索実習	院生1年目	4回・春・1、5時間	一般利用者	閲覧のみ		身分証	配根	
薬学研究科図書室	薬学研究科学位論文 科学研究費補助金研究成果報告書	論文原本 報告書原本	609 108	8,000	製本複製のうち、他学部との重複部 分について、廃棄又は移管を希望。	×			区分なし	閲覧のみ		免許証等		
工学研究科図書室				50,000					学外者全般	閲覧のみ		身分証明書		

図書館・図書室	図書館資料			収 蔵		利 用 者 サ ー ビ ス						
	特殊コレクション (平成14年3月31日現在)			収 蔵 計 画	オリエンテーションの実施状況 (平成13年度)			学外者への公開状況 (平成13年度)				
	名 称	内 容	冊数		オリエンテーションの内容	対 象 者	回数・時期・時間	学外利用者の区分	貸 出 条 件	必要書類	手 続 等	
材料・化学系専攻図書室			0					・道立研究所の研究者 ・他大学の教員 ・他大学の学生 ・民間の研究者 ・他大学の教員・学生	身分証明書の提示			
情報エレクトロニクス系専攻図書室			0									
物理工学系専攻図書室 (機械)			8,000		機械工学関係の文献検索の方法	学生	1回・6月・1時間					
物理工学系専攻図書室 (応物・数物)			0									
物理工学系専攻図書室 (原子)			200		原子図書館利用方法	学部2年生	1回・秋・30分	・研究者 ・他大学の研究者 ・北大退官教授	身分証明書の提示			
社会工学系専攻図書室 (土木分室)			0					・社会人 ・学生		身分証明書		
社会工学系専攻図書室 (建築分室)			0					・私立大学生	コピーのみ	身分証明書		
社会工学系専攻図書室 (資源分室)			0					・教員・学生		身分証明書	カード記入	
社会工学系専攻図書室 (衛生分室)			0					・学科卒業生 ・学科教職員の紹介者 ・その他	可 可 複写のみ	身分証明書		
農学研究科図書室	学位論文	博士論文	3,711	50,000								
	東文庫 (個人文庫)	戦中戦後の農業経済関係資料	2,386									
	高岡文庫 (個人文庫)	北海道開発、満蒙等の農業経済関係資料等	3,000									
農業経済学図書室	学位論文	博士論文	116									
				未回答	図書室の利用方法、配架等 カ	大学院1年 学部2年	1回・4月・10分 1回・4月・10分	一 般 他大学の学生等 卒業生及び退官教員 教員の照会等	公共図書館を通じ相互貸借 所属大学を通じ相互貸借 名前・現住所が確認できるもの提示 照明するもの提示			
北方生物圏フィールドセンター				未回答								
獣医学研究科図書室	学位論文	・博士論文 ・修士論文 ・卒業論文	576 158 92	26,300	近隣に図書館が建設されるのであれば古い図書、製本雑誌の移管を希望する							
水産学研究科図書室	Challenger Report	チャレンジャー号の海洋探検調査報告	51	未回答								
	藤田経信記念文庫	藤田氏収集の文庫	202									
	大島正満記念文庫	大島氏収集の文庫	176									
	博士論文		652									
	修士論文		1,253									
地球環境科学研究科図書室				4,000	図書室利用案内、文献入手の方法、蔵書検索の方法、電子ジャーナルの利用方法、学外文献の申し込み方	教員、大学院生、研究生	3回 4月～5月 45分程度	区分なし	閲覧のみ	身分証明書	提示	
全学教育支援室人文辞書資料室				未回答					不 可			
低温科学研究所図書室				0					区分なし	閲覧のみ		
電子科学研究所図書室				未回答	未定				区分なし	不 可	身分証明書	出来れば事前に連絡のこと
遺伝子制御研究所図書室	なし		0	未回答	未定	未実施			未実施			
触媒化学研究センター図書室	Landolt-Bomstein Tables	物理、化学、工学分野の数値を収集したもの	340	9,394	書籍類は図書室に収蔵し、雑誌は製本後収蔵施設に移管する	図書の借り方、OPAC、外部DBの使い方等利用方法	JICA 研修員	1回、5月、1時間	調査研究を目的としている者	閲覧のみ	身分を証明するもの	
スラブ研究センター図書室	シュベロフ・コレクション	ウクライナを中心としたスラブ言語学・文献学	1,678	34,879		図書室案内等	大学院生	2回、5月、1時間	区分なし	閲覧のみ		ノートに氏名など記入
	イチンベルク・コレクション	ロシア革命前後の希少なロシア出版物	735			カ	外国人研究員	2回、6～7月、1時間				
	チェコ文学コレクション	チェコ文学史上重要な作家の作品を収集	883				＊大学院生＝文学研究科ロシア社会文化論専修在籍者					
	英米学位論文	ロシア・東欧関係	742									
大型計算機センター												
先端科学技術共同研究センター												
情報メディア教育研究総合センター				3,100						未実施		
総合博物館				0								
医療技術短期大学部図書室				1,500	製本雑誌のバックナンバーを順次古いものから移管したい。図書については歴史的資料として保存したい古いものを集蔵したい。	利用案内、OPAC、各種DBの説明	学生	3回、春～夏、45分	他大学、看護専門学校等	不 可	紹介状	紹介状がない場合名簿に記入
事務局												
合 計			63,867	477,573								

※「収蔵施設への移管希望冊数」の合計には本館・分館の移管希望冊数(検討予定)が加わる。

部局図書室調査

調査票 3 (2003/3/11)

図書館・図書室	施設・設備 (平成14年10月1日)						運営 (平成14年10月1日)			特定業務の担当状況					
	利用環境		空調設備		増築・改修		図書担当委員会			紀要の編集・発行業務		その他の業務			
	利用者PC台数	PC利用対象者数	有無	設置箇所	予定年度	予定面積	予定場所	名称	審議事項等	構成人数	担当人数	年間所要時間数	担当人数	年間所要時間数	業務内容
本館	46	19,625	有	書庫				図書館委員会	・附属図書館に関する重要事項	25 (館長、副館長、各部局等の教授又は助教授各1)					
分館	89	4,996	有	書庫、 閲覧室				北分館委員会	・北分館の運営及び短期、中長期計画等の重要事項	10 (分館長、図書館委員6(文系3、理系3)、館長が必要と認めた者3)					
文学研究科図書室	3	1,554	無					図書委員会	1. 紀要・研究論集及び研究論集の発行 2. 図書資料の選定・利用 3. 図書室の運営 4. 附属図書館との連絡調整	4 (図書館委員1、各専攻の教授、助教授、講師)	1	100	1	100	1. 研究論集の編集等 2. 研究費の集積等
教育学研究科図書室	1	512	無					図書委員会	図書資料の選定及び利用に関すること 図書室の管理及び運営に関すること 附属図書館との連絡調整に関すること 紀要の発行に関すること その他委員会が必要と認めた事項	4 (教育臨床、教育計画、健康スポーツの各講座から1人及び図書掛長)	1	72	2	1,600	図書館との統合に伴う、図書移管業務
経済学研究科図書室	3	1,082	無				研究科棟全面改修中	図書・紀要委員会	・図書に関すること ・図書の予算・決算に関すること ・紀要の出版に関すること	4 (教官)	1	50	1	10	図書・紀要委員会に関する業務(資料作成、アンケート調査等)
理学研究科図書室	4	2,387	有	書庫				図書委員会	・図書資料に関する事項 ・施設の整備および利用に関する事項	8 (各旧学科から各1)	1	50			
数学専攻図書室	2		有	閲覧室			3号館1F西	図書委員会	・図書室の運営 ・数学文献の収集・管理・情報提供等 ・理学部図書委員会での課題	6	1	730	1	60	紀要等の交換関係業務
物理学専攻図書室	1	116	有	閲覧室				なし							
化学専攻図書室			無				現在改修中	図書委員会	・図書、雑誌購入のとりまとめ等	2 (講師以上教官)					
生物専攻図書室															
高分子専攻図書室	0		無					図書委員会	・選書、発注、受入、保管	2 (教官1、事務1)					
地球惑星科学専攻(地物)図書室					15		融化センター移転あと	図書委員会	・専攻図書室の運営	1	2	20			図書室は無人、専攻事務室兼務
地震火山研究観測センター															
医学研究科図書館	9	1,750	有	書庫				図書委員会	図書及び図書資料並びに施設の整備と利用に関する事項を審議する	14 (教官10、事務官4)	2	30	3	150	1. 医学図書館協会に関わる業務(統計調査、総会出席、雑誌交換作業、HP分担作成) 2. 自動入退館システムの維持・管理・付随業務
歯学研究科図書室	3	967	有	閲覧室				図書委員会	図書室の施設設備に関すること。図書室の予算・決算に関すること。図書室の運営に関すること。	6 (図書館委員1、教授・助教授4人、図書掛長1)					
薬学研究科図書室	2	638	無					教務委員会	図書その他学術資料の集書方針、蔵書計画について審議	17 (うち3名が図書担当)					
工学研究科図書室	7	2,740	有	書庫	15		現在地	図書委員会	・部局図書室の諸問題 ・図書の整備・予算	10 (各専攻科から教授1)					
材料・化学系専攻図書室	2	400	有	閲覧室、 図書事務室				図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	2					
情報エレクトロニクス系専攻図書室	4	450	無					図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	2					
物理工学系専攻図書室(機械)	1	200						図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	1					
物理工学系専攻図書室(応物・数物)	0	0	有	書庫、 閲覧室				図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	2					
物理工学系専攻図書室(原子)	1		無					図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	1					
社会工学系専攻図書室(土木分室)	0		無					図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	1					
社会工学系専攻図書室(建築分室)	0	0	有					図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	1					
社会工学系専攻図書室(資源分室)	0		無					図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	1					
社会工学系専攻図書室(衛生分室)	0		無					図書委員会	・図書の整備 ・図書の予算	1					



図書館・図書室	施設・設備 (平成14年10月1日)						運営 (平成14年10月1日)				特定業務の担当状況				
	利用環境		空調設備		増築・改修		図書担当委員会				紀要の編集・発行業務		その他の業務		
	利用者 PC台数	PC利用 対象者数	有無	設置個所	予定 年度	予定 面積	予定場所	名 称	審 議 事 項 等	構 成 人 数	担当 人数	年間所要 時間数	担当 人数	年間所要 時間数	業 務 内 容
農学研究科図書室	5	1,707	有	書 庫				図書委員会	農学研究科の図書資料及び図書室機能の整備・充実と関連する重要事項 ①図書予算・決算②図書資料選定③EJ化、学術コンテンツ化進展に伴う学部への対応策④図書資料の一括管理促進とそのため の資料整備、図書室の施設拡充策	7 (図書館委員1、各専攻各2)	1	300			
農業経済学科図書室	1	570	無					図書委員会	・図書資料の選定 ・図書費の予算・決算	9 (教官5、大学院生2、図書職員2)					
北方生物圏フィールド科学センター								図書委員会	・図書に関する将来計画	15					
獣医学研究科図書室	3	421	有	書 庫 閲覧室 図書事務室				学術情報 委員会	1. 図書室及び情報システムの在り方、運営及び将来計画に関する事項 2. 図書・雑誌を含む図書館資料の選定並びに情報機器類等の学術に関する事項 3. その他図書室・図書館資料及び情報システム等に関する事項	6 (図書館委員1、各講座の教授又は助教授各1、その他若干名)	1	120			
水産学研究科図書室	4	775	無						1. 図書購入及び図書館管理運営経費の予算・決算 2. 図書の購入計画及び選定 3. 図書館の管理運営 4. その他図書館に関する事項	5 (図書館委員、各専攻科から各2)	1	10			
地球環境科学研究科図書室	3	512	無					図書委員会	図書室の予算・決算 図書の利用 図書室の管理・運営 附属図書館との連絡調整	4 (各専攻科から1)					
全学教育支援室人文辞書資料室	1	96	無					人文辞書資料室 運営委員会	図書の予算・選定	3 (人文系1、語学系2)			2		学科事務(庶務・会計)。紀要・叢書の発送と受払
低温科学研究所図書室	1	220	無					図書委員会	図書室の管理運営上の重要事項	5 (助教授2、助手2、図書掛長1)					
電子科学研究所図書室	3	231	無			未定		図書委員会	学術雑誌に関する調査・選定 図書室の運営	3 (教授1、教官2)					
遺伝子病制御研究所図書室	3	143	有	書庫、 閲覧室				図書委員会	図書室の予算・決算 図書・雑誌の選定 図書室の管理・運営	15 (11分野・2施設から各1、会計掛長、図書担当者)	1	16			
触媒化学研究センター図書室	3	153	無			15	408	創成科学 研究機構内 第一常置 委員会	図書室の運用、図書の選定に関する事項	11 (各部門教官9、事務1、図書1)					
スラブ研究センター図書室	1	172	無					図書委員会	・図書収集方針、資料費、資料配置、利用 規則等図書室運営上重要な案件	4 (センター長、研究部門図書委員、情報資料部図書担当、事務掛図書担当)			2	500	・ホームページの作成、維持 ・資料紹介や関連論文・記事の執筆 ・他機関の状況調査
大型計算機センター 先端科学技術共同研究センター 情報メディア教育研究総合センター 総合博物館	0	0	有	書庫、 閲覧室				運営委員会		17					
医療技術短期大学部図書室	3	632	無					図書委員会	図書室の運営について、主に次の事項について審議 1) 図書室の予算・決算 2) 図書室資料の構成の検討	8 (図書館委員、各学科の教官1名)	1	5			
事務局															
合 計	209	43,049									14	1,503	12	2,420	

部局図書室調査

調査票 4 (2003/3/11)

図書館・図書室	刊行物 (平成13年度)				電子情報 (平成13年度)								
	名称等	主たる掲載情報	年間発行回数	発行部数	電子的コレクション				ホームページ				
					コレクション名	タイプ	件数	サイズ(GB)	作成の有無	アクセス状況			
										学内	部局内	学外	計
本館	楡陰 楡陰レター 利用案内(日、英、中、韓国語) Guide to HOKKAIDO University Library 附属図書館概要	図書館報 図書館報の速報版	3 12 不定期 1 1	4,000 3,200 800 1,000	北方資料DB	画像	30,000	2	有	715,853		138,137	853,990
分館									有	23,940		4,809	28,749
文学研究科図書室									有	4,644		3,109	7,753
教育学研究科図書室									有	2,547		1,610	4,157
経済学研究科図書室									有	4,427		3,064	7,491
理学研究科図書室									有	3,581		1,501	5,082
数学専攻図書室									無				0
物理学専攻図書室									無				0
化学専攻図書室													0
生物専攻図書室													0
高分子専攻図書室													0
地球惑星科学専攻(地物)図書室									有				0
地震火山研究観測センター													0
医学研究科図書館									有	55,779		12,110	67,889
歯学研究科図書室									有	2,484		1,537	4,021
薬学研究科図書室									有	2,671		1,318	3,989
工学研究科図書室									有	10,775		4,101	14,876
材料・化学系専攻図書室													0
情報エレクトロニクス系専攻図書室													0
物理工学系専攻図書室(機械)													0
物理工学系専攻図書室(応物・数物)													0
物理工学系専攻図書室(原子)													0
社会工学系専攻図書室(土木分室)													0
社会工学系専攻図書室(建築分室)													0
社会工学系専攻図書室(資源分室)													0
社会工学系専攻図書室(衛生分室)													0
農学研究科図書室									有	9,475		5,485	14,960
農業経済学科図書室									有				0
北方生物圏フィールド科学センター													0
獣医学研究科図書室									有	2,540		1,681	4,221
水産学研究科図書室									有	11,653		5,534	17,187
地球環境科学研究科図書室									有	5,737		2,402	8,139
全学教育支援室人文辞書資料室									無				0
低温科学研究所図書室									有	1,738		1,039	2,777
電子科学研究所図書室									有	1,921		1,096	3,017
遺伝子制御研究所図書室									有				0
触媒化学研究センター図書室									有	4,354		3,014	7,368
スラブ研究センター図書室									有	13,755		5,440	19,195
大型計算機センター													0
先端科学技術共同研究センター													0
情報メディア教育研究総合センター									無				0
総合博物館													0
医療技術短期大学部図書室									有	1,309		795	2,104
事務局													0
合計										879,183		197,782	1,076,965

部局図書室調査

調査票 4 (2003/3/11)

図書館・図書室	課 題
本館	
分館	
文学研究科図書室	講座研究室及び図書室の狭隘化解消のため、本研究科所蔵図書 33 万冊のうち、20～22 万冊を附属図書館へ移管する必要がある。図書の移管に合わせ、図書の管理、目録作成、購入発注等の業務についても随時附属図書館に移管していく必要がある。
教育学研究科図書室	図書館との業務統合に伴う図書の管理換え（平成 13 年度末残 42,966 冊）を早期に終了させる。特別体制で作業を行っているが、年に最高一万冊程度となっており、移管完全終了まで、あと最低 4 年の計画です。統合後の大学院重点化は、予算と大学院生を増加させた。年間受入冊数は倍加し業務量が増大した。統合後図書館から研究室貸出図書として受け入れている図書は約 12,000 冊（研究科全体）となっている。これらは、教官の退官時や研究テーマの変更時などに順次、図書館への返納作業を要している。今後、長期勤務者の複数退官が 5 年ぐらゐ続きます。1 人、約 1,000 冊の返納が年度末に集中し、返納・整理の保存作業に多大な労力を要しています。管理換作業や研究室貸出図書返納作業の特別体制を維持するとともに、増加した多様な利用者（社会人・大学院生等）などへの学部直接サービス（参考業務や所在調査、利用援助など）の充実がより求められている。
経済学研究科図書室	本研究科の図書室をめぐる問題としては、図書予算不足と閲覧・所蔵スペース不足があげられる。本研究科では、当初予算のほぼ 5 割を図書費に充当しているが、その不足は否めない。また、個人研究費の増額もかなわず大学院重点化に対応した図書資料の充実等も不十分である。外国雑誌についても、専門誌の発行量の増大に対し、その値上がりも激しく購入点数を削減せざるを得ない状況となっている。一方、利用者数に対する閲覧スペース及び座席もあまりにも狭隘であり、その改善が望まれている。
理学研究科図書室	図書併の図書室のほか、旧学科等の図書室 6 か所がある。そのうち数学図書室は定員、パート職員、物理図書室は 2 ヶ所に分かれ、2 号館 9 F は電動書架で製本雑誌を保管しているが無人。5 号館 2 F にフルタイム職員が閲覧室にいる以外は 4 か所の図書室は無人で専攻事務職員が担当している。図書併に図書資料を集中化する施設がないこと。専攻事務は今後定員削減された場合、専攻の図書室をどうするか。これからの課題である。
数学専攻図書室	検討中の課題名 1. 将来予想される図書室専任事務職員の定員削減への対応と対策 2. プレプリントの電子化と当図書室図書のオンライン検索システムの充実 3. 当数学教室発行の国際学術雑誌 Hokkaido Mathematical Journal の発送業務 4. 文献閲覧室の設け 5. 北海道数学情報文献センター構想
物理学専攻図書室	
化学専攻図書室	雑誌・書籍の貸し出し方法をセルフサービスに頼らざるを得ず、紛失の危険性が常に存在する。
生物専攻図書室	
高分子専攻図書室	
地球惑星科学専攻（地物）図書室	
地質火山研究観測センター	
医学研究科図書室	1. 閲覧室・書庫の充実と拡大について 将来計画を立てることにより、現在の閲覧室及び書庫の狭小化に対応する。3 階会議室の図書併への移管の働きかけ、事務室の再配置等を含めよりよい図書併づくりを計画する。 A 閲覧スペースの拡大と座席・机の増設 現在医学部の学部学生は約 600 名、院生・研究生約 800 名が在学し、閲覧スペースは十分に対応できていない。 B グループ学習室の設置 5～10 室（2 室程度パソコン備え付き）を増設し、早朝から夜遅くまでグループ学習を行う学生に、独立したグループ学習室を提供し学習支援を行う。 C 書庫スペースの増設 増加一途の雑誌等の取蔵に対応する。 2. 医学部保健学科の設置に関して A 保健学科学生の受け入れ体制 閲覧・座席、予算その他すべてについて対策案を作成する。 B 蔵書構成の再編を図る。 C 看護系二次情報 DB の導入を図る。 3. 未整理図書の整理、整備を行うことによって保存庫の有効活用が図られるので、早急に計画を実行するべく方策をとる。 4. 医学部コレクションの整備 ① 貴重書図書について 貴重書コーナーを整備し、未整理図書からの貴重書図書の整理を実施する。 ② 医学古書の整理について 大まかな分類がされており、かなり貴重な古書を含むと考えられるので早急に書籍解題を作成する方策を考えたい。また、電子化も考えられる。 ③ 学位論文コレクションの整備 目録カード化されている分についてのデータベースへの入力を行い、すべてがコンピュータにより検索できるようにする。 5. 職員の適性配置 閲覧併の職員の学内異動は、本人の希望と医学部図書館の専門性を考慮して行うことを要望する。専門知識をつけたところでの異動は本人及び、医学部の利用者にとっても非常にマイナスになっているので、異動は本人の希望にもよるが最低 5 年は保障されるべきと考える。また、6 時間の非常勤職員が平成 5 年より採用されているが、期間・時間制限の条件下での雇用では、継続的な仕事が難しく、いろいろな障害が生じている。長期的・計画的な職員の適性配置を要求し、図書併として継続性のある仕事に専念できる環境をつくる。 6. 医学部附属病院と歯学部附属病棟の統合について このことにより、歯科系教職員の医学部図書館の 24 時間利用を認めるか検討する。 7. 24 時間開館について 書庫内非常誘導灯の設置を図り緊急時に対応できるように整備する。 8. その他 A 医学部図書館での分類に NLM 分類表を採用し、全国医学図書館との連携を図る。 B ノーマライゼーションの推進 エレベーター、身障者用トイレの設置の要求をする。
歯学研究科図書室	1. 不要図書の廃棄、2. 講座のインスペクション、3. 図書室の配架の整備、4. 情報化への対応①ホームページの整備②研究情報の探索と提供③情報リテラシー教育の整備
薬学研究科図書室	・図書室としての専有面積が 249 m <sup>2</sup> と狭く、書庫も 2 か所に分散している。・閲覧机が 24 席と少ないため不便。・書庫利用（24 時間対応）対象者の拡大と、閲覧室書架利用の時間拡大。・全国的に図書室の統合が進んでいる状況を踏まえた検討の必要性。
工学研究科図書室	材料・化学系の専攻図書室に続いて、この 10 月に情報工学専攻図書室の新館がオープンするなかで将来的には残り 2 箇所の系専攻図書室の一元化がなされることを考えると中央図書室の存在価値をも問われる状況となり、建物の改修工事の際には大きな変換をとげた図書室づくりが急務かと思えます。

	課	題
図書館・図書室		
材料・化学系専攻図書室		
情報エレクトロニクス系専攻図書室		
物理工学系専攻図書室(機械)		
物理工学系専攻図書室(応物・数物)		
物理工学系専攻図書室(原子)		
社会工学系専攻図書室(土木分室)	4箇所に分散している社会工学系専攻図書室の集中化(一元化)が課題事項です。	
社会工学系専攻図書室(建築分室)	4箇所に分散している社会工学系専攻図書室の集中化(一元化)が課題事項です。	
社会工学系専攻図書室(資源分室)	4箇所に分散している社会工学系専攻図書室の集中化(一元化)が課題事項です。	
社会工学系専攻図書室(衛生分室)	4箇所に分散している社会工学系専攻図書室の集中化(一元化)が課題事項です。	
農学研究科図書室	研究棟新築(平成15年度竣工)とそれに伴う移転研究室及び施設の再配分によりあふれる図書資料の整備・対応策が迫られている。また従来、図書資料は研究室と学部図書室との分散管理をしてきたが、施設の狭小化と人的配置が困難となり無人化の資料室等もあり現状では図書資料の一部死蔵化が懸念される。従って有効活用上から学部図書室での一括管理の促進が必至となっている。一方、資料の電子化、学術コンテンツ環境の進展に伴う図書室機能の対応にむけた環境・施設の見直し・整備が必要となっている。以上のことから当面する重複図書等の廃棄を含む資料整備と学部図書室の施設拡充が急がれており、実現に向け検討中である。	
農業経済学図書室		
北方生物圏フィールド科学センター		
獣医学研究科図書室	学部に差し迫った大きな課題はありません。ただ検索の基本を説明する程度のオリエンテーションを来年度から実施する予定です。また、これは獣医学部に限ったことではないですが、研究室に二次保管されている資料が一部段ボール詰めされています。研究室から移管したいとの連絡は受けておりませんが、現在の研究者にとって不用に近い古い資料の扱いについて、教室のスペースの確保、資料の有効利用を考えますと、管理換えの作業を近い将来実施しなければなりません。しかし図書室に収容できない資料について大きな問題となります。現在予定されている図書館の増設計画の中で保存図書庫の位置付けが明確になることを期待しています。現在は積み残しの不明図書の処理作業を鋭意行っています。	
水産学研究科図書室	1. 図書館事務室の改修計画について 将来、1階と2階に分かれている図書事務室を2階の1箇所にまとめて、図書館の出入口を1箇所で管理し、また、図書館サービスを1箇所で集中的に実施したい。 2. 図書資料の収容能力の増加について 水産学研究科・水産学部図書室は、建設されてから30年を経過しており、3層の積層書架、資料室の書架のスペースも相当に減少しており、ぜひ、収容能力を増加させたい。 3. 図書資料の目録週入力について 図書資料を有効に活用するには、図書検索システム上にデータを登録する必要がある。現在、図書資料室と各講座所蔵資料の一部データが未登録の状態にあり、これらを可能な限り早期に入力したい。	
地球環境科学研究科図書室	本研究科に入学する学生は本学卒業生・修了生をはじめとして、他大学や社会人も含まれる。また、外国人留学生も増加している。学習・教育支援体制の強化と整備として①専門研究書(各専攻共通)、留学生向けの図書の整備を図る。②情報リテラシーとして図書室利用方法(蔵書検索、文献入手方法、情報DBの活用法等)を教員・学生に定期的に開催する。③情報機器の充実を図り、各専攻科と資料に関する情報の連絡調整を緊密におこなう。④シラバスの電子情報化に向けた取り組みを計画する。	
全学教育支援室人文辞書資料室	資料の収集機能を充実するためにはすでに狭小であり、新規の収納空間を確保する必要がある。教員のみ資料の利用を学生等にも開放すべきではないか(現在は閲覧・コピーのみ可)。資料室図書室、又業務も兼ねているので独立させる方がよいのではないか。	
低温科学研究所図書室	閲覧スペースが狭い。また、内架は全て電動書架となっているため複数利用者には対応できない。そのため書架の整理や製本作業等の業務にも支障がある。学内唯一の定員1名、非常勤1名の図書掛であり管理運営上の困難さがある。	
電子科学研究所図書室	現有建物の老朽化及び狭小化の問題があるが、研究所の北キャンパスへの移転計画の中で検討する予定である。	
遺伝子病制御研究所図書室	図書室(53㎡)及び書庫(53㎡)の狭隘。本研究所では、現有建物の老朽化及び狭隘の解消及び共同研究を推進するためのスペースを確保するため、建物の改修と新棟(統合研究棟)の新鋭を計画している。この計画の中で図書室及び書庫の増床を予定している。(年度及び面積は未定)	
触媒化学研究センター図書室	創成科学研究機構図書室における蔵書構成の充実。又、パソコン等の情報関連機器、及び資料の整備。今後、予想される学外からの利用者への対応。	
スラブ研究センター図書室	・センター資料室は、年間に6,000~10,000点の資料を受け入れているが、取蔵場所の不足に苦慮している。そのため、ここ数年、内部のスペース使用法見直し、新聞保存用マイクロフィルムの別途購入などで対応してきたが限界がある。また、管理上、新規取蔵資料は閉架書庫に取蔵せざるを得ず、附属図書館取蔵スラブコレクションに含めて配架すべき部分が切り離された状態にある。 ・図書室運営上、現員では消化しきれず、発注・受入管理および整理のために、毎年本部と協議の上、臨時用人を雇用することが必要となっている。 ・マイクロ資料についてOPAC未搭載資料が多く存在し、仮カード目録を併用している。また、附属図書館管理換え資料の一部、および参考図書において、一部別途整理待ちとなっている資料がある。 ・1981年以降特別設備費の配分を受けて4次にわたって実施してきた基本図書整備計画は資料の充実に寄与すること大であったが2001年度で打ち切られた。それに加えて、ここ数年来、ソ連現代史文書館資料収集に使用してきた予算が2000年度で最終とされたことから、収集本部の維持・向上のために、新たな資料費確保の方策を講ずる必要がある。 ・発注管理用に、独自のシステムを運用してきたが、dBASEによる古いシステムであり、近い将来に、新システムに移行する必要がある。 ・ホームページにおいて、日本語と英語で情報量の格差が存在する。	
大型計算機センター		
先端科学技術共同研究センター		
情報メディア教育研究総合センター		
総合博物館		
医療技術短期大学部図書室	1. 蔵書の増加により利用者用スペースが年々減少しているため、抜本的解決策を考えなければならない。(調査票2の(5)取蔵計画実現にぜひ期待したい) 2. 修業年限が3年間(又は1年間)であり、授業及び実習という過密なカリキュラムの中で、昼休みに利用する学生が多く、現在は職員の日休みに12:30~13:30と30分づらすことで、貸出や文献複写受付・渡し等のサービスの対応をしている。 3. 図書室の時間外利用(学生は19時まで、教員は24時間)を始めて2年が経過したところだが、貸出業務は原則17時で終了(現実には職員が残っている時間帯は貸出をしているが……)。時間外開室の19時迄は正規の貸出ができるようにしたい。又、オンライン検索や情報検索用パソコンでのデータベース検索も17時以降職員が残っているときのみ利用可能となっている点も今後の課題として考えなければならない。	

## おわりに

北海道大学附属図書館は、明治9年札幌農学校書籍室として開設し、127年を数える。平成3年の大学設置基準の大綱化に伴ない、大学自らが点検・評価を行うことが明記され、図書館もまた自己点検評価を実施することにより、常に新しい目標を掲げその達成度を検証することが求められてきた。

本学附属図書館においては、その時々重要な課題とされる事項について適宜検討を加え、報告書あるいは提言というかたちで公表し改善につとめてきた。法人化を目前に控え従来から課題として指摘されてきた教育・研究支援に関する図書館業務・サービスの改善・改革への取り組みを一層推進するとともに、外部評価を受けるための基礎資料を得るため、図書館機能の全体について点検・評価を行うのは本報告書が初めての試みである。

平成14年7月2日の第189回（平成14年度第1回）図書館委員会において、自己点検評価小委員会が図書館委員会の下に設置された。本書は小委員会からの報告を図書館委員会として承認したものである。

本報告書を第一ステップとし、今後予定される外部評価を経て、本学附属図書館が利用者の皆様にとってより使いやすく、より充実したものとなることを祈念するものである。

調査アンケートにご協力下さった各部局図書委員会・各部局図書室の皆様に篤くお礼申し上げます。

最後に、本報告書作成にあたり、鋭意努力された自己点検評価小委員会委員の皆様、また今日こまで本学附属図書館へご支援下さった学内外関係者に深く感謝の意を表すものである。

副館長（自己点検評価小委員会委員長）

吉野悦雄

平成14年7月2日

図書館委員会承認

### 自己点検評価小委員会設置要項

#### (設置)

第1条 北海道大学図書館委員会規程(平成8年海大達第39号)第8条第1項に基づき、北海道大学図書館委員会(以下「図書館委員会」という。)に自己点検評価小委員会(以下「委員会」という。)を置く。

#### (目的)

第2条 委員会は、北海道大学における図書館機能に係る自己点検評価を行う。

#### (構成)

第3条 委員会は次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1) 副館長

(2) 文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、国際広報メディア研究科、言語文化部、スラブ研究センター及び高等教育機能開発総合センターの図書館委員会委員のうちから 2名

(3) 理学研究科、工学研究科、農学研究科、水産科学研究科、地球環境科学研究科、低温科学研究所、電子科学研究所及び触媒化学研究センターの図書館委員会委員のうちから 2名

(4) 医学研究科、医学部附属病院、歯学研究科、薬学研究科、獣医学研究科、遺伝子病制御研究所及び医療技術短期大学部の図書館委員会委員のうちから 2名

(5) 附属図書館事務部長

(6) 情報管理課長、情報サービス課長、情報システム課長

#### (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、副館長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

#### (委員以外の者の出席)

第5条 必要に応じて委員以外の者を出席させ意見を求めることができる。

#### (庶務)

第6条 委員会の庶務は、情報管理課において処理する。

#### 附 則

この要項は、平成14年7月2日から実施する。

自己点検評価小委員会委員名簿

	所 属	官職	氏 名	電話	
副館長	経済学研究科	教授	吉野 悦雄	2790	要項 第3条第1項
文 系	経済学研究科 スラブ研究センター	教授	岡部 洋實	2779	要項 第3条第2項
		教授	井上 紘一	3158	
理 系	水産科学研究科 電子科学研究所 電子科学研究所	教授	吉水 守	8810	要項 第3条第3項 平成14年9月30日まで 平成14年10月1日から
		教授	田村 守	2410	
		教授	八木 駿郎	2882	
医 系	医学研究科 医療技術短期大学部	教授	皆川 知紀	5073	要項 第3条第4項
		教授	中村仁志夫	3385	
附属図書館	事務部長		佐藤 正勝	2964	要項 第3条第5項
	情報管理課長		早瀬 均	2965	第3条第6項
	〃		矢野 誠	〃	〃 (平成15年1月から)
	情報サービス課長		山田 幸彦	3619	〃
	情報システム課長		諏訪田義美	2563	〃

自己点検評価小委員会検討経過

1 第1回

日時 平成14年9月11日(水) 10:00～

協議事項

- 1) 今後の進め方について
- 2) その他

2 第2回

日時 平成14年12月6日(金) 10:00～

協議事項

- 1) 自己点検評価小委員会中間報告について
- 2) その他

3 第3回

日時 平成15年3月7日(金) 13:30～

協議事項

- 1) 自己点検評価小委員会報告(案)について
- 2) その他



**附属図書館の現状と課題**  
—— 自己点検・評価報告書 ——

---

平成 15(2003)年 3 月発行

編集・発行 北海道大学附属図書館  
〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目  
電話 011-706-4998  
FAX 011-747-2855

印刷 株式会社 北晃社斎加印刷所

---